

# 官報

號外

明治三十年二月二十五日

木曜日 內閣官報局

## 第十回衆議院議事速記録第十三號

明治三十年二月二十四日(水曜日)午後一時二十三分開議

議事日程 第十三號 明治三十年二月二十四日  
午後一時開議

- 第一 (總追第五號) 明治二十九年歲入歲出總豫算追加案 (特別委員)
- 第二 (特追第三號) 明治二十九年歲入歲出總豫算追加案 (特別委員)
- 第三 (總追第六號) 明治二十九年歲入歲出總豫算追加案 (特別委員)
- 第四 鐵道敷設法中改正法律案(政府提出) 第一讀會ノ續(特別委員)
- 第五 作業會計法中改正法律案(政府提出) 第一讀會
- 第六 右議案ノ審查ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉 第一讀會
- 第七 狩獵免許稅徵收ニ關スル法律案(政府提出) 第一讀會
- 第八 右議案ノ審查ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉 第一讀會
- 第九 罹災救助基金法案(政府提出) 第一讀會
- 第十 右議案ノ審查ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉 第一讀會
- 第十一 家祿賞典祿處分法案(深山登峯君外三十八名提出) 第一讀會ノ續(特別委員)
- 第十二 祿高整理公債法案(深山登峯君外三十四名提出) 第一讀會ノ續(特別委員)
- 第十三 家祿賞典祿整理處分法案(目黒貞治君外三名提出) 第一讀會ノ續(特別委員)
- 第十四 特赦復權ニ關スル建議案(小室重弘君外一名提出) (特別委員)
- 第十五 千葉縣茨城縣境界變更法律案(木村格之輔君外七名提出) 第一讀會
- 第十六 國學院補助ニ關スル建議案(秋山忠夫君外三名提出) 第一讀會
- 第十七 會計法中改正法律案(元田肇君提出) 第一讀會
- 第十八 不正肥料販賣取締法發布ノ請願(特別報告第一號) (請願委員)
- 第十九 庄内川改修ノ請願(特別報告第二號) (請願委員)
- 第二十 函館ニ市制ヲ施行スルノ請願(特別報告第三號) (請願委員)

第二十一 廣島縣賀茂郡阿賀村ヲ同縣安藝郡ヘ分合ノ請願(特別報告第四號) (請願委員)

第二十二 商法中會社合併ニ關スル法規制定ノ請願(特別報告第五號) (請願委員)

○議長(鳩山和夫君) 是ヨリ諸般ノ報告ヲ爲シマス  
(田中書記官朗讀)

政府ヨリ明治二十七年歲入歲出總決算、明治二十七年各特別會計歲入歲出決算、明治二十七年歲入歲出決算検査報告ヲ提出セラレタリ  
政府ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ  
保稅倉庫法案  
關稅定率法案

明治三十年歲入歲出總豫算追加案(總追第一號同第二號)  
明治三十年各特別會計歲入歲出豫算追加案(特追第一號同第二號)  
豫算外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲナスヲ要スル件  
小室重弘君提出ニ係ル緊急勅令廢止ニ關スル質問ニ對シ大隈外務大臣樺山內務大臣ヨリ左ノ答辯アリ  
衆議院議員小室重弘君ヨリ緊急勅令廢止ニ關スル質問ニ對シ外務內務兩大臣ヨリ答辯書提出ニ付及御回付候也  
明治三十年二月二十四日

衆議院議長鳩山和夫君  
衆議院議員小室重弘君提出緊急勅令廢止ニ關スル質問ニ對シ別紙答辯書差進候也  
明治三十年二月十九日  
內閣總理大臣伯耆松方正義  
外務大臣伯耆樺山資紀  
外務大臣伯耆大隈重信

### (別紙)

衆議院議長鳩山和夫君  
衆議院議員小室重弘君提出緊急勅令廢止ニ關スル質問ニ對スル答辯書

一 緊急勅令ヲ帝國議會ニ提出シ其ノ承諾ヲ求ムルハ將來ニ施行スル必要アル場合ニ限リ政府ハ既ニ其ノ必要ナキヲ認メ之ヲ廢止シタルニ於テハ帝國議會ノ承諾ヲ求ムルヲ要セサルモノトス故ニ明治二十七年勅令第百二十四號ノ先例ヲ襲ヒ明治二十九年勅令第百二十四號ノ承諾ヲ求メサルハ憲法ノ條規ニ違背セサルモノト信ス  
一 明治二十九年勅令第百二十四號ハ將來ニ施行スルノ必要ナシト認メタルニ於テハ政府ハ進テ憲法上ノ權限ニ依リ速ニ之ヲ廢止ノ手續ヲ取ルハ當ニ違法ノ行爲ニアラサルノミナラス其ノ盡スヘキ當然ノ責務ナリ其ノ議會



セサルモノトスルモ他ニ治外法權ヲ置クノ特約ナキニ付一方ノ版圖内ニ於テノ爭訟ハ其國ノ裁判所之ヲ審判スヘキカ如ク他ノ版圖内ニ於テノ爭訟ハ亦其國ノ裁判所之ヲ審判スヘキカ固ヨリ當然ノ條理ニシテ此間些ノ疑ヲ容ルヘキナシ而ルニ外務大臣大隈伯ハ我邦駐在ノ獨逸領事ニ於テハ是等商標等ニ關シ生ズル爭訟ニ付裁判權ヲ有セサルコトヲ明認シナカラ我帝國ニ於テモ亦裁判權ナシト斷言セラレタルハ本員ノ解スル能ハサル所ナリ知ラス右ハ外務大臣大隈伯ノ失言ニ非ルナキ乎若シ外務大臣大隈伯ノ失言ニ非ストモ政府ノ見ル所亦我帝國ニ裁判權ナシトスル乎

二抑裁判權ノ得喪ハ國權ノ伸縮ニ關スル甚大ナリ故ニ若シ政府ニ於テモ大隈外務大臣ノ公言セシ如ク我ニ裁判權ナキモノトセハ該議定ノ事項ハ我ニ寸毫ノ益ナクシテ徒ニ貴重ノ權利ヲ獨逸國ニ讓與シ從テ最惠國條款ノ規定アル他ノ締盟各國ニ對シ悉ク是等ノ特權ヲ認許セサルヲ得サルニ至ルモ我ニ於テハ裁判權ヲ失シ國權ヲ毀損スルコト甚キモノナリ政府ハ何故ニ斯ル重大ノ過失アル當局全權委員青木周藏子ヲ寬假シ今日ニ至リタリトスル乎

右及質問候也  
議長(鳩山和夫君) 元田肇君

○元田肇君演壇ニ登ル

諸君私ハ單簡ナル質問デゴザイマスルガ、其質問ノ關係致シマスルコトハ、重大ナル關係ヲ我國權ノ上ニ持ツト存ジマスルカラシテ、ドウカ諸君ニ於テ暫クノ間、此質問ノ趣意ニ御耳ヲ御借シ下サラシテ、ゴザイマスガ、本月十七日本院ニ於キマス、質問ノ次第ハ唯今述べマス趣意デ針ニ對スル御演說ガアリマス、其際本員ヨリ大隈外務大臣ニ對シマシテ、日獨條約ノ上ニ就イテ見マスルニ、條約改正即チ改正シタル條約ノ未ダ實施セラレザル今日ヨリ、獨逸帝國臣民ニ對シテハ、我帝國ハ是マデ與ヘテナイ所ノ專賣特許、商標權等ノ享有ヲ許スコト云フコトガ規定致シテアリマス、是等ハモウ明ナコトデアリマス、此條約文ニ添フタル所ノ議定書ニ於キマシテハ、若シ是等ノ專賣特許或ハ商標等ニ就イテ、爭訟事件ガ起ツタ時分ニハ、裁判ハ何レノ國ガスルト云フコトニ就イテ、如何ナル意見ヲ政府所持ツテ居ルデアリマセウカト考ヘマシテ、大隈外務大臣ニ質問ヲ致シマシタ所ガ、本員ニ於キマシテハ誠ニ意想外ノコトデアリマシタ、我日本帝國ニハ此事ニ就イテハ裁判權ナシト云フコトヲ、大隈外務大臣ハ斷言セラレタコトデアリマス、私ハマサカニ斯ル議定ニナツテ居ルコトデアハアルマイ、政府ノ見ル所モ左様デアハアルマイト信ジマシタ故ニ、間違テハナカラウカト考ヘマシテ、再三問返シマシテゴザイマスガ、斷シテ裁判權ハナシト云フコトヲ確言セラレタコトデアリマス、デ、此事ニ就イテ裁判權ノ有無ハ實ニ非常ナ關係ヲ持ツコトデアラウト思ヒマス、條約改正ヲ急イダ中ニ於キマシテ、治外法權ト云フモノガ尙ホ日本ニ存シテ居ルト云フコトガ、最モ吾々ノ條約改正ヲ急イダ一ノ原因デアリマス、然ルニ近頃歐米各國ト新ニ條約改正ガ出來テ、其出來タ條約ハ何デアアルカト言ヘバ、治外法權ト云フ條約キモノガ取除ケラレルト云フコトハ、吾々稍、満足ヲ表シタル所ノ部分デア

リマス、然ルニ此條約ハ何時カラ行レルカト云ヘバ、向フ二箇年若クハ二箇年半ニ實施サレルト云フコトガ今日ノ希望デアリマスケレドモ、果シテ是ガ二箇年半ノ後ニ至ツテ實施セラル、ヤ否ヤト云フコトハ、未ダ實施セラレナイ今日カラ見マスレバ分ラヌコトデアリマス、或ハ是ガマア左様ナコトガアリタクゴザイマセウケレドモ、雙方ノ都合或ハ獨逸帝國ノ都合、或ハ日本帝國ノ都合ニ於キマシテカラニ、五年延ブカ、七年延ブカ、十年延ブカ、實施シテ仕舞ハヌ今日ニアツテハ、未ダ計ラレヌコトデアリマス、然ルニ其條約改正ニナツタ其改正條約ノ實施ニナラズ、日本帝國ニ於テハ何等ノ利益ヲ享ケテ居ラナイ所ノ今日ニ於キマシテ、新ニ外國即チ獨逸國ナリ、其他ノ國ニ向ツテ、新ニ特權ヲ付與スルト云フコトハ、日本帝國トシテ、日本帝國ノ政府トシテ最モ慎マナケレバナラヌコトデアラウト存ジマスルノデゴザイマス、デ、此事ニ就キマシテ獨逸ノ條約ヲ見マスルト、云フト條約文ニ於キマシテハ、改正條約ノ實施セラル、時カラ行レルコトガ書イテアルノデアリマス、然ルニ兩國全權委員ノ締結致シマシタル所ノ議定書ト云フモノガアリマス、此議定書ノ第四號ニ於キマスルト云フト、此事ガ書イテアルノデ、其四號ニハ何ト書イテアルカト申シマスレバ「兩締盟國ハ他ノ一方ノ臣民ガ發明、見本(實用ニ供スル見本共)雛形、商標、製造標商社號及其ノ他ノ商號ノ保護ニ關シ法律ニ定メタル條件ヲ遵守スルトキハ各、其ノ版圖内ニ於テ該臣民ニ右ノ保護ヲ與フルコトニ同意ス」ト、斯ウ云フ明文ガアルノデアリマス、此文ニ就キマシテハ、明ニ裁判權ハ何レニ在ルカト云フコトハ記載ハ致シテゴザイマセウケレドモ、本員杯ノ解釋ヲ致シマスル所ニ依リマスレバ、保護ニ關シ法律ニ定メタル條件ヲ遵守スルトキハト云フコトガ上ニゴザイマシテ、各、其版圖内ニ於テト云フコトガ次ニ受ケテ居リマス、故ニ治外法權ガ此點ニ關係致シテモ尙ホ存シ置クト、或ハ新ニ是丈ノコトハ別段ニ裁判管轄ヲ異ニスルト云フコトハ、約定ガ此文ノ中ニアレバ、格別デアリマスガ、ソレニ於キマシテモ、無論我日本帝國ノ裁判權ニ服シナケレバナラヌト云フコトハ、政府ガ明言ガ出來ラウト思フノデアリマス、又假ニ此議定書ノ文面ニ依リマスレバ、裁判權ト云フコトガ明ニ書イテナイ以上ト云フモノハ、其事ハ暫ク茲ニ規定シテナイモノト假定シマシタ所デ、若シ裁判權ニ就イテ特ニ規定シタルコトガナイ以上ハ、即チ我國ニ在ツテ我國ノ保護ヲ受ケル事件ニ就イテハ、我帝國ノ裁判ノ下ニ服スルコト云フコトハ當然ノ解釋デアラウト私ハ信ズルノデアリマス、デ、私共ハ此解釋ヲ斷信シテ疑ハズニ居リマシタ所ガ、去ル十七日ノ大隈外務大臣ノ御言葉ニ依リマス、獨逸ノ領事ニ於テモ裁判權ハ無論持ツテ居ラヌガ、日本帝國ニ於テモ亦裁判權ヲ持ツテ居ラヌト云フコトヲ答ヘラレタ、實ニ本員ノ解スルコトガ出來ナイコトデアリマス、獨逸ノ領事ノ持ツテ居ラヌ限ハ、即チ我帝國ニ於テ保護ヲ受ケル所ノ獨逸臣民デアアル以上ハ、是等ノ事項ニ關係シテ起ツタ裁判事項ニ就イテハ即チ我帝國ノ裁判ノ下ニ服サナケレバナラヌト云フコトハ、殆ド吾々ハ説明ヲ俟タズシテ明ナコトデアラウト思ウノデアアル、然ルニモ拘ラズ、大隈外務大臣ハ獨逸帝國ノ領事裁判ニナキコトヲ、此裁判權ナキコトヲ明言セラレテ茲ニ公言致サレナガラ、何故デゴザイマセウカ、我帝國ニ於テモ裁判權ナシト云フコトヲ輕ニ答ヘラレタト云フコトハ、實ニ不可思

議千萬ノコト、本員ハ存ズルノデアリマス、テ或ハ此大隈外務大臣ノ答ハ一  
時ノ間違デアリハシナカッタラウカト、本員ハ今日マデ過ギタコトデゴザ  
イマスガ、然ルニ官報ニモ載ツテ居リマスルシ、議事筆記ニモアルニ拘ラ  
ズ、外務大臣ヨリ今日マデ取消スト云フコトガ出テ來ヌ所ヲ以テ見マスレバ、  
我國權ニ關係ヲシテ、堂々タル帝國ノ外務大臣ガ帝國議會ニ向ツテ明答セラ  
レタコトハ、是ヲ不問ニ付シテ置クコトガ出來テイト私ハ信ジマスノデアリ  
マス、ソレ故ニ本員ハ以上ノ理由デアアルニモ拘ラズ、外務大臣ガ我日本帝國  
ニ於テ裁判權ナシト答ヘラレタト云フコトハ、是ハ外務大臣ノ失言デアリナ  
カト云フコトノ質問ヲ茲ニ發スルノデアリマス、失言デアレバソレマデノコ  
トデアリマス、デ、若シ大隈外務大臣ニ於テハ斯ル解釋ヲ執ツテ居ラレルト  
云フコトデア飽クマデゴザイマスナラバ、人ヲ擧ゲテ言フノハ甚ダ異デゴザイ  
マスケレドモ、我政府全體ノ意見モ、亦斯ル解釋ヲ執ツテ居ラル、コトデア  
ルデアアラウカ、併テ是ヲ質問スル譯デアアルデゴザイマス、第二ニ質問ヲ致シ  
マスル簡條ハ、裁判權ヲ失フ、失ハヌト云フコトハ、本年ノ議會ナドデアハ餘  
リヤカマシウナイカハ存ジマセヌガ、十數年以來、我國ニ於テカラニ條約ニ  
於テ幾多ノ論争ヲ致シ、或ハ血ヲ灑ギ、熱血ヲ注イデ論ジタノハ條約デアリ  
マス、最モ重キヲ置イタノハ海關稅ノコトモアリマセウケレドモ、裁判權ガ  
日本ニナイト云フコトハ、最モ諸君ガ痛心サレテ國ノタメニ憤慨セラレタ所  
デアアラウト思フノデアリマス、其裁判權ニ關係シマシテ、此度條約ヲ改正シ  
ナガラ、其改正スル途中ニ於テ、更ニ日本帝國ノ裁判權ヲ讓ルト云フ様ナ約  
定ヲ致スト云フコトガアリマスナラバ、即チ政府ニ於テ、若シ本員ガ解釋ス  
ル、反對ノ解釋スルト云フナラバ、此論結ニ出ル所デアゴザイマス、左様ナ事  
ハ、今日ニ當ツテ裁判權ヲ昔ヨリ一步進メテ外國ニ讓ツタコトガアリマシタ  
ナラバ、斯ノ如キ事ヲ議定致シマシタ所ノ青木公使ト云フモノハ、實ニ國權  
ヲ毀傷シタルモノ、甚シキモノデアアルト私ハ信ジマス、然ルニ是ガ又獨逸國  
バカリデアレバ尙ホ可ナリデゴザイマスガ、尙ホアルカモ知レマセヌ、御承  
知ノ如ク、最惠國條款ガ何レノ締盟國ニモ條約ニハ書イテアルト思ヒマス、  
シマスレバ、獨逸國ニ向ツテ貴重ナ權利ヲ讓與シテヤリマシタ裁判權ハ踏附  
ケラレタト云フ結果ハ、併テ締盟致シテアル列國ニ對シテモ、我帝國ハ同様  
ノ國權ヲ毀損スルト云フ結果ニナルノデアゴザイマス、斯ノ如キ重大ナル過失  
アル青木全權公使ヲ、何故ニ今日マデ政府ハ獨逸國ニ駐劄セラレテアルデア  
ラウカ、未ダ懲戒ニ付シタト云フコトヲ聞カナイ、此事ニ就イテ御答ヲ蒙  
タコトヲ聞カナイ、如何ニモ分ラヌコト、思フノデアリマス、我政府ハ昨年  
ノ何時頃デアリマシタカ、官紀ヲ振肅スルト云フコトニ就イテハ、天下ニオ  
ラビ出シテ居ル政府デアアル、然ルニマア少シ位ノコトニ都合ガアツタカ  
何トカ云フコトデアゴザイマスレバ、默過シテ居ルノヲ、堂々タル帝國議會ニ於  
テ吾、ガ喋々スル價値ガナイカモ知リマセヌガ、日本帝國ノ國權ヲ傷ケタ  
青木子爵ニ就イテ、今日マテ何等ノ質問所ノナイト云フノハ、本員ノ信ズル  
如ク、本員ノ解釋スル如ク、裁判權ハ議定文ニ依ツテ、日本帝國ニアルト云  
フ結果ニ出來テアルノデアリカ、若シサウデアナイナラバ、政府ハ官紀ヲ振肅  
スルコトヲ天下ニ誓ヒナガラ、實ニ官紀不振肅ノ甚シキモノデアルト思ヒマ  
ス、此點ニ就イテ今日ハ政府ニ向ツテ答辯ヲ求ムル譯デアリマス、答辯ノア  
リマシタ上ニ於テ、再び質問スルコトガアルカモ存ジマセヌカラ、是丈質問

致シマス  
○議長(鳩山和夫君) 是ヨリ會議ヲ開キマス、日程第一カラ第三マデヲ併セ  
テ議題ト爲シテ委員長ノ報告モ併テシテ貫ハウト考ヘマス

- 第一 (總通第五號) 明治二十九年年度歳入歳出總豫算追加案
- 第二 (總通第三號) 明治二十九年年度特別會計歳入歳出總豫算追加案
- 第三 (總通第六號) 明治二十九年年度歳入歳出總豫算追加案

○元田肇君(百十二番) 明治二十九年年度歳入歳出總豫算追加案、明治二十九  
年度特別會計歳入歳出總豫算追加案、明治二十九年年度歳入歳出總豫算追加案、  
此三案ハ豫算委員會ニ於テモ孰モ可決スベキモノト可決致シマシタ

○久保九兵衛君(九十六番) 此日程第一ノ水害補助費ノ事ニ就イテ政府委員  
ニ御尋ヲ致シマス、此水害補助費ノコトニ就キマシテハ、各縣トモ金額ニ差  
等ガゴザイマスガ、元來此豫算案ヲ編制セラレタノハ、實地ヲ踏査サレテ此  
豫算案ヲ編制サレタモノデアリマスガ、又府縣知事ヨリ具狀スル所ノ金額  
ヲ標準トシテ編制サレタモノデアゴザイマスガ、此事ヲ第一ニ伺ツテ置キタイ、  
又第二ニ御尋ヲ致シタイノハ、元來復舊工事ト申シマスルモノハ、前年度ノ  
追加豫算トシテ議會ニ提出サレタモノデアツタデアゴザイマス、尤モ焦眉ノ急  
ヲ要スルモノデアツテ一日モ忽セニスベカラザルモノト本員ハ信ズルノデア  
アリマス、ソコデア一昨年各府縣中ニ水害ヲ受ケマシタ縣ハ、福井、石川此二  
縣ニ過ギナイ、此縣ノ工事著手期限等ニ就キマシテ、私ガ傍ラ觀察致シマスル  
所ガ、昨年ノ八九月頃ニ至ツテ、政府ガ工事ノ設計モ立ツテナイ、一昨年  
ノ破壞ノ儘存シテアル、又村民カラ、即チ關係町村ヨリモ、屢々縣廳ヘ願  
テ工事ヲ早クシテ戴キタイ、モノデアルト言フテモ、縣廳ガ一向氣ニ懸ケナ  
イ、遂ニ昨年再ビ八月デアゴザイマスガ、三十日ノ出水ノタメニ前ノ工事ヲ致  
シマセヌガタメニ、人家ニモ浸水ノ虞レガアツタト云フコトハ、現ニ福井縣  
ニ其例ガゴザイマス、ソレデア此復舊工事ナルモノハ、縱令一年ヲ經過シテモ、  
實地成效ニ手ヲ著ケナクテモ差支ナイト云フ政府ノ御考デアリマスガ、又復  
舊工事ナルモノハ、各府縣ニ一任シテ、其成效ノ緩急ハ政府ハ一向觀察シナ  
イト云フ御考デアゴザイマスガ、此事ヲ一應參考マデニ伺ツテ置キマス

(政府委員内務省土木局長工學博士古市公威君演壇ニ登ル)  
○政府委員(古市公威君) 唯今ノ御尋ノ第一ハ實地踏査シテ計畫ヲ定メタカ  
ト云フ御尋デアリマシタガ、其計畫ハ縣デ定メマシタモノヲ、是ヲ監督署技  
師、技手ヲ派出シマシテ、サウシテ調査致シマシテ金額ヲ定メマシタデア  
リマス、ソレカラ第二ノ御尋デアリマスルガ、一昨年ノ水害ハ福井ト石川ト  
云フ御話デアリマシタガ、福井ト富山ト間違デ(久保九兵衛君) 間違デアリマ  
ス(ト呼フ) 而シテ其昨年ニナツテ又計畫——政府デ計畫ヲセヌト云フ御言  
葉ガアツタ様デスガ、政府デ計畫ヲセヌデアナイノデ、ソレハ下ノ如キコト  
ノ間違デアラウト思ヒマス、此検査ヲシマシタ工事ヲ、俗ニ査定内ノ工事ト  
申シマス、ソレカラ其ドウ云フ工事デモ總テ検査スルデアナクテ、例ハバ  
一箇所十圓未滿ノ工事ハ省イテアル、ソレヲ俗ニ査定外ノ工事ト云フ、ソレ

等ハ先ツ検査ヲシテ工事ト云フノガ、即チ緊急ノ工事デアラカテ、其方へ著手シテ行ツテ、而シテ後ニ査定外ノ工事ニ及ボスト云フ様ナ實地ノ施行仕方ガアリマス、福井ノ如キハ其コトヲラウト考ヘル、デ、目論見ノ出来テ居ルモノハズンノヤツテ行クコトニナツテ居ル、デ、是ヲ今年以後水害ニ對シテドウ云フ工合ニスルカト云フト、モウ一度補助ガ確定シタナレバ、政府ハツレキリニシテ置クト云フコトデハ決シテナイ、時々監督員ヲ派遣シテ、サウシテ工事ノ進歩、方法ノ適否等ハ視察サセマシテ、惡ルイ處ハ直スヤウナコトニ致シマスル積リデアリマス

○久保九兵衛君(九十五番) モウ一應古市君ニ御尋ヲ致シマス、サウナリマスト十間以内ノ工事ハ査定外ニナルノデスガ、査定外ノ工事ト云フハ一箇年ヲ經過スルモ、其成工ニ著手シテモ構ハナイト云フナンデゴザイマスカ、一寸聞洩シ致シマシタカラ

○政府委員(古市公威君) ツレハ其工費ノ要費如何ニ依ルノデ、併シナガラ査定外ノ工事ト云フモノハ、概シテ先ツ其所謂査定外ノ工事トスレバ、後ト回シニナツテ宜イデスガ、即チ査定内ノ工事ノ方ガ緊急ダ、其緊急ノモノカラ先キヘ取ツテ行クト云フノガ順序デアリマスカラ、福井縣ノ御尋ノ如キ場合ハ、蓋シ其場合ダラウト思ヒマス

○藤金作君(五十五番) 日程第一、第二、第三ハ原案ヲ賛成致シマス、併ナガラ賛成スルト同時ニ、政府ニ意向ヲ述ベテ置キマス、實ニ此二十九年度ノ水害費ハ、是マデナイ非常ノ多額ニ上ボリマシテ、殆ド八百十萬圓ト云フ國庫ノ補助費ヲ要スル場合デ、誠ニ是ハ苦シクデ賛成スルノ外ナイノデアリマス、然ルニ豫算會ニ於テモ、各府縣ノ土木事業ニ就テ、人夫賃、木材其他諸物價ノ單價表ヲ一應調査ヲ致シタイト云フコトヲ請求致シマシタレバ、ツレハ既ニ本省ノ方ニ多數ノ書類ト共ニ回シテアルカラ、唯今答ヘルコトハ出来ナイト云フ御答辯デアゴザイマスカラ、豫算會ニ於テ精密ノ調査ヲスルコトハ出来マセマカラ、已ムナクツレハ拜見ヲ致サズニ置キマシタ、併ナガラ此物價單價表ト云フノハ、一應豫算ノ上ニ於テハ、鄰府縣又各縣或ハ何々河川ト云フモノニ就イテハ、全國一般ニ涉ツテ各地ツレハ、額ノ違フコトハ、狀況ハ異ナリマスケレドモ、其物價ノ如何ハ一應調査スルノ必要ガアルト私ハ考ヘマス、併シナガラ最早今日ノ場合ニ於テハ、一日モ擱キ難イ此水害費國庫ノ補助デアゴザイマスカラ、餘儀ナク本日賛成ヲ致シマシテ、ドウカ政府ニ於テハ出来得ル限速ニ御取調ベニナツテ、此單價表ト云フモノハ御示シニナル様ニ希望致シマス、是ハ既往ニ照シ、又將來ニモ大ニ參考トナルモノト心得テ居リマスカラ、一寸希望ヲ述ベテ置キマス、ツレカラドウカ承ル所デハ、砂防法案ガ不日政府案トシテ提出ニナル趣デアゴザイマス、是ハ最も必要ノ法案デアラウト考ヘテ居リマスガ、尙ホ當局者ニ御尋致シタイトコトガアリマス、ツレハ此各地非常ニ水害ガ多イ、誠ニ其水害ヲ被ル所ノ地方ノ河川ノ有様ヲ見マスルト云フト、河床ガ非常ニ埋リマシテ、左右ノ田畑、左右ノ耕地ヨリモ、餘程川底ガ高クナツテ居ル所デアリマスカラ、年々其水害モ又非常ニ起リマスルガ、當局者ニ於テハ河川ヲ浚渫スルト云フコトニ就イテハ、御意見ハナイノデアリマスルカ、河川浚渫法案ト云フ様ナコトハ最も今日ノ場合ニ必要デアラウト私ハ考ヘテ居ルノデアリマス、當局者ハ唯砂防法案ヲ以テ、

此水害ヲ防ギマスルニ止マルト云フノ御考デアゴザイマセウカ、直接ニ河川ノ非常ニ埋没シテ居ル處ハ、濶ヘルノハ大ナル其水害上ニ利益アルモノト心得テ居リマスカラ、御意見ノ有無ヲ一應質問致シテ置キマス

(政府委員内務省土木局長工學博士古市公威君演壇ニ登ル)

○政府委員(古市公威君) 藤君ノ河川浚渫法案ト云フモノヲデモ拵ヘル見込ハナイカト云フ御尋デアリマスルガ、河川浚渫ノ本員杯ノ考ニハ、河川浚渫ニ特ニ法案ハ要フヌカト考ヘテ居ル、矢張一ツノ改修、一ツノ河川工事ニ過ギ又話デ、何處モ彼處モ浚渫セニヤナラヌト云フコトモアルマイ、デ、或ル川ニ就イテ特ニ川床ガ高クナツテ、此治水策ハ浚渫スルヨリ外ニ致方ガナイト云フ場合ナラバ、ツレバ浚渫シテ、法律ガナクテモ浚渫シテ決シテ差支ナイ、又浚渫ト云フコトガナカク、容易ナラヌ話デアリマス、六尺床ヲ一、幅百間ノ川六尺床ヲ下ゲヤウト謂ツテ、ツレガ、十里モ二十里モ續クト、隨分仕事トシテハ殆ド行ヘヌヤウナ仕事ニナリマスデ、浚渫バカリガ此治水策デアアルマイト思ハレマス、免角ツレガタメニ法案ヲ要スルト云フコトハ、本員杯ノ考デアハ要ラヌト思ツテ居リマス、一ツノ治水策ニ過ギヌ、即チ他ノ改修工事ナドト同ジコトデアルト、斯ウ認メテ居ル、序ニ單價ノコトデア一言申述ベテ置キマスガ、藤君カラ豫算委員總會ノトキニ、單價ノ御請求ガアリマシタ、ドウカ藤君ノ御希望ヲ満足サセル様ニシタイト云フ考デ、藤君モ述ベラレマシタ如ク單價ノコトハ皆監督署——六監督署ニ今度ノ水害ニ關係アルモノハ戻シテ仕舞ヒマシタ、第一ノ監督署ハ東京ニアルカラ、責テ第一監督署ダケデモ總メテ御覽ニ入レタイト考ヘマシテ取調ベマシタ所ガ、一兩日ニ總メルト云フコトハムツカシイ、ツレデ其ムツカシイ様子ハ、先刻藤君ニ御話ヲ致シマシタガ、何カ纏メラレルモノヲ纏メズニ居ル様ナ御考ガ諸君ノ中ニアツテハ困ルカラ、御參考ノタメ申シテ置キマス、山梨一縣ノ單價表ガ是ダケデアゴザイマス、ドウシテ斯ウダカト云フト、郡毎ニ單價ガ違フ、ツレカラ人夫賃ガ違フバカリデハナク、工種ニ依ツテ單價ガ違ヒマス、沈床ノ一坪ノ單價ガ何程、何ガ何程ト、皆場所ニ依ツテ違ヒマス、タツタ一縣ノ單價表ガ是程ノモノニナリマス、川杯ニ依ツテ分ケタモノガアル、神奈川縣杯ノ例ハ多摩川ノ單價表ガ是レ、酒匂川ノ單價表ガ是レ、斯ウ云フ具合ニナツテ居リマス、之ヲ一纏メニ纏メマシテ造リ立テ、一表ニシテ御覽ニ入レヤウト云フニハ、餘程工夫ヲシテ纏メテ見ヌト出来マセヌ、ツレデ唯今ノ御希望モアリマスルカラシテ、其何カ御參考ニナルヤウナモノヲ拵ヘル考デアアリマスケレドモ、今日提出スル譯ニハ往カヌト云フノハ斯ウ云フ次第デアリマスト云フコトヲ、一應御斷り申シテ置キマス

○藤金作君(五十五番) 河川浚渫法案ト云フヤウナコトノ御考ガナイカト云フ質問ニ對シテハ、其法案ノ必要ハアルマイト云フハ、唯今古市政府委員ノ御答デアリマシタガ、私ハ一應必要ガアルト思ヒマスカラ、簡單ニ其意ヲ述ベテ、政府ニ將來御調査ヲ希望シテ置キマス、近ク申シマスレバ、私ノ地方デハ毎年春秋兩度、一般ノ人民ガ出テ川ヲ浚ヘルト云フコトノ慣例ガアリマス、ツレハ百年以降ノ慣例デアゴザイマシテ、今日ニ至ルマデ其河川ヲ順次ニ浚ヘルト云フコトヲ致シテ居リマスカラ、何レノ川デモ其川床ガ低クシテ、水ノ流レガ宜イ、從ツテ水害モ餘程少ナイ、併ナガラ水害ノ多イ地方ニ至

テ、多ク視察致シマスレバ、河ヲ浚ヘルト云フコトハ少シモナイ、河川ハ自然ニ河床ガ淺クナツテ、堤防ハ既ニ低イモノニナツテ居リマス、此私地方ニ於テ河川ヲ浚ヘル地方ニ於テハ、是ハ治水上有益ノモノデアルト云フコトハ、毎々治水上ニ老練ナル官吏或ハ又其他ノ所ヨリ之ヲ一ノ福岡縣筑前國ノ美事トシテ居ル、此事ハ當局者ニ於テ川ヲ浚ヘルコトハ餘リ必要デハナイト云フヤウニ述ベラレマシタケレドモ、川ヲ浚ヘルト云フコトハ餘程私杯ニ於テハ必要ト信シテ居リマス、尙ホ將來ニ私共攻究スル積デゴザリマスケレドモ、當局者ガ之ヲ措イテ願ヒヌト云フコトハ、甚ダ遺憾ニ心得マスカラ、ドウカ斯ノ如ク年々水害ノタメニ國庫ノ費用ヲ費スハ、實ニ是ハ國家ノタメニ思フルコトデゴザリマスカラ、願クハドウゾ一ツ親切ニ御考ヘノ上、御調査ヲ願ヒタイト云フコトヲ希望シテ置キマス

○議長(鳩山和夫君) 採決致シマス

○田中鳥雄君(二百九番) 少々質問ガアリマス

○議長(鳩山和夫君) モウ採決ノ宣告ヲ致シマシタ、議長ノ宣告後ハ發言ヲ許シマセヌ—日程第一ニ就イテ採決致シマス、是ハ全部同時ニ採決ヲ致サウト思ヒマス、原案ニ同意ノ諸君ノ起立ヲ求メマス

起立者 多數

○議長(鳩山和夫君) 第二、是モ全部同時ニ採決シヤウト思ヒマス、原案ニ御異議ハゴザイマセヌカ

○議長(鳩山和夫君) 御異議ガナイト認メテ、原案ニ決定致シマス、第三、是モ全部同時ニ採決ヲ致シマス

○議長(鳩山和夫君) 御異議ナシト呼フ者アリ

○議長(鳩山和夫君) 御異議ガアリマセヌカラ、原案ニ決定致シマス—日程第四ニ移リマス

第四 鐵道敷設法中改正法律案(政府提出)第一讀會ノ續(特別委員)

○小西甚之助君(二百九十三番) 私ハ此處テ豫テ宿題ニナツテ居ル所ノ讀會ノコトニ關シマシテ、議長ニ御尋フ致シテ置キタイト思フノデアアル、其事ハ事最モ重大ナルコトデアアツテ、即チ議員ノ發言ノ範圍ニ關係致シマスルコトデゴザリマスルガ故ニ、最モ親切丁寧ナル御答ヲ得シガタメニ、私ハ頗ル精細緻密ニ御尋フ致サウト思フノデアアリマス、從ツテ私ノ言ウコトガ長ク掛ラウト思ヒマスカラ、其高イ處ヘ登ツテ……

(小西甚之助君演壇ニ登ル)

○小室重弘君(二百九十六番) 今ハドウ云フ場合デス

○小西甚之助君(二百九十三番) 議長ニ向ツテ御問ヲ致サウト思ヒマス

○議長(鳩山和夫君) 議場ニ御諮リ申スコトガアル、日程第四ニ移ルト云フコトヲ宣告シタ後ニ、小西君ガ發言ヲ求メラレ、ソレハ何カ讀會ノコトニ就イテノコトデアリマス、議長ハ此發言ヲ許サヌ考デスガ、ドウデス

(中止々々)ト呼フ者アリ、一ヤルベシヤルベシト呼フ者アリ

○議長(鳩山和夫君) 別段ムツカシイコトデナイカラ、直チニ採決ヲ致シマ

ス、議題外ノコトニ就イテ發言ヲ求メラレタルノデアアルカラ、此發言ハ許スベカラズト考ヘマス、議長ノ考ニ同意ノ諸君ノ……

○小西甚之助君(二百九十三番) 私ハ議長ニ疑義ノ點ニ就イテ發言ヲ求メタノデアアル、ソレヲ許サヌト云フコトハナイ筈デアリマス

○議長(鳩山和夫君) 先決問題ニ就イテ採決致シマス、小西君ノ發言ヲ許スベシト云フコトニ同意ノ諸君ノ起立ヲ求メマス

起立者

○議長(鳩山和夫君) 少數ト認メマス

○小西甚之助君(二百九十三番) 疑ノアルコトヲ質スノニ、許サヌト云フコトハ決シテナイ

○議長(鳩山和夫君) 議長ハ少數ト認メマス、御異議ガアレバ……

(異議アリ異議アリ)ト呼フ者アリ

○堀越寛介君(二百一十番) 異議ヲ申立テマス

(小西甚之助君演壇ヲ降ル)

○議長(鳩山和夫君) 然レバ氏名點呼ニ致シマスレバ時間ガカ、リマスカラ、記名投票ニシヤウト思ヒマスガ、ドウデス

(贊成々々)ト呼フ者アリ

○議長(鳩山和夫君) 然ラバ唯今ヨリ氏名點呼ヲ致シマスガ、念ノタメ申シテ置キマス、即チ贊成ノ發言ヲ許スベシト云フノハ白、反對即チ許サザルト云フ方ガ青デス—閉鎖

○議長(鳩山和夫君) 點檢シマス—閉鎖

(書記官投票ノ數ヲ計算ス)

○議長(鳩山和夫君) 記名投票ノ結果ヲ報道シマス

總數 百七十八

可トスル者 百三

否トスル者 七十五

即チ小西君ニ質問ヲ許スコトニナリマシタ、小西甚之助君

(拍手起ル)「小西君萬歲」ト呼フ者アリ

(小西甚之助君演壇ニ登ル)

○小西甚之助君(二百九十六番) 諸君、私ハ萬歲聲ニ此登壇ヲ促サレタハ誠ニ光榮トスル所デアリマス、而シテ議長ノ何ヤラニ拘ラズ、諸君多數ノ贊成ヲ得テ發言ノ自由ヲ得タルハ、深ク諸君ニ向ツテ御謝シマシマス譯デゴザリマス、今ヤ議事日程ハ、法律案ニ入りマシテ、其第一讀會ノ續ニカ、リマシタコトデゴザイマスガ、私ハ此第一讀會ニ於ケル所ノ言論ノ範圍ニ就イテ疑フ懷クモノデアリマス、故ニ衆議院規則第百十七條ニ依ツテ、之ヲ議長ニ向ツテ御尋フ致サウト思フノデアアル、凡ソ一議院規則ノ疑義ハ議長之ヲ決ス—ト、第百十七條ニ書イテゴザイマスガ故ニ、私ハ此讀會ニ至ツテ讀會ニ關スル疑フ懷キマスル上ハ、已ムヲ得ズ茲ニ議長ニ向ツテ—議長ヲ煩スコトハ實ニ此規則ノ上ニ於テ據ナイコトデゴザイマス、私豈ニ質問ヲ好ム者デゴザイマセウヤ、衆議院規則第九十條第二項及第三項ニ依レバ、第一讀會ニ於テナスベキ言論ノ範圍ハ、議案ノ大體ニ限ラレテ居ル所デゴザイマス、是

ハ法文ノ示ス所誠ニ明ナルコトデゴザイマシテ、一點モ此上ニ就イテ疑ノ存スル所ハゴザイマセヌケレドモ、所謂此大體ナル法文ノ意義ニ就イテハ、大ニ疑ヲ起スモノデアアル、本員ガ今迄信ジテ居リマシタ大體ナルモノハ、即チ大體ナルガ故ニ、大體ナルモノヲ是ヲ廣義ニ解シテ居ツタ、即チ廣キ意味デアアルモノト解シテ居ツタノデ、即チ廣キ意味デアアルモノト解シテ居ツタ故ニ、此衆議院規則第九十條ノ第二項若クハ第三項ニアル所ノ大體ニ就イテノ討論ト云フモノハ、實ニ議案ノ全體ニ涉ル所ノ可否ノ論ヲナスコトバカリデナク、全體ニ涉ラナクテモ苟モ議案ノ大部分ニ關聯ヲ致シマスル可否ノコトナラバ、固ヨリ當然ニナスヲ得ベキモノト私ハ確信シテ少シモ疑ヲ懷カナカシタノデアアル、何ニ依ツテ私ガ斯ノ如ク大體ト云フ文字ノ意義ハ、右述ベマシタ如ク確信ヲシテ居リタカト云フニ、是ハ即チ大體ナル意義ヲ廣義ニ解シマシテノコトニ外ナラヌコトデゴザイマスルガ、尙ホ其他ニ種々ノ理由アツテノコトデゴザイマス、其種々ノ理由ト云フモノハ、約シテ是ヲ申シマスレバ三ツデゴザイマス、第一ハ議會ノ法文カラ起ツタコトデゴザイマス、第二ハ議會ノ性質カラ生ジタモノデアリマス、第三ハ議會ノ慣例カラ來ルモノデアリマス、何ヲカ即チ議會ノ法文ヨリ起リタル理由デアルト云フニ、諸君、衆議院規則ノ第九十八條ヲ見レバ、第三議會ニ於テハ議案ノ全體ニ就イテ可否スルモノデゴザイマス、即チ議案ノ部分ニ就イテ可否スルコトヲ禁ジテアツテ、議案ノ全體デナケレバ可否スルコトノ出來ナイト云フコトハ、明文ノ示ス所少シモ疑ノナイ所デゴザイマス、左様デゴザイマスガ故ニ、若モ第一議會モ議案ノ全體、即チ議案ノ全部ニ就イテナケレバ可否ガ出來ナイト云フモノデゴザイマスレバ、同一ナル此規則ノ制定者ハ同一ナル文字ヲ以テ同一ナル意義ヲ明ニシナケレバナラヌ筈デアアル、然ルニ同一ナル規則ノ制定者ハ一方ニ於テハ議案ノ全體ニ就イテ可否スベキコトヲ示シテ、一方ニ於テハ議案ノ大體ニ就イテ討論ズベキコトヲ謂フテ、決シテ議案ノ全體ニ就イテ討論スベシト云フコトヲ云フテナイノデアアル、斯ノ如ク不當ナル文字ヲ竝ベ來ツテアル上ヨリ考ヘマスナレバ、即チ此意義モ彼ト是ト不同一ト云フコトハ誠ニ明カナルコトデゴザイマスト思ヒマス、是ハ即チ議會ノ法文ヲ以テ議會ノ法文ヲ證明スルモノデ、極ク手近ナル推斷方法デ、即チ私ガ今迄確信ヲシテ居ツタ此確信ヲ導イタモノデアリマス、又第二ノ理由ハ議會ノ性質ヨリ生ジマスコトデゴザイマシテ、即チ第一議會ナルモノハ、或ル一ツノ場合ヲ除クノ外ハ、其性質ニ於テ第二議會ニ入ルノ前提デアアル、第二議會ノ豫備デアルト云フコトハ申スマデモナイ、既ニ第一議會ナルモノハ第二議會ニ至ル前提デアリ豫備デアルト致シマスレバ、縱令議案ノ全體ニ涉ラナイ所ノ可否論デアリマシテモ、苟モ大部分ニ涉リマス以上ハ、是ヲ爲サシメテ而シテ豫メ第二議會ニ入ルベキトキノ參考資料ニ供スルコトハ、誠ニ第一議會ソレ自ラノ性質ニ適應スル所以デハゴザイマセヌカ、然レドモ大綱ヲ離レテ細目ニ入ルコトハ、第二議會ノ作用ヲ侵スモノデゴザイマスガ故ニ、斯様ナ事ハ如何ニ參考資料トナルニモセヨ、是ハ禁ジナケレバナラヌコトハ申スマデモナイコトデアアル、抑、此第一議會ニ於ケル全部ノ反對説ハ之ヲ除キ、又全部ノ贊成論、又關係ヲ持タヌコトデゴザイマスガ、全部ナラザル所ノ大部分ニ涉ル所ノ可否ノ論説ハ、誠ニ第二議會ノ作用、即チ逐條審議ノ參考資料ト

ナルコトハ申スマデモナイコトデアアル、勿論實際其論説ノ如何ニ依ルコトハ申スモノ、其參考資料タラシメヤウトスルコトヲ望ムモノデアアツテ、而シテ實際ニ多クハ此參考資料ト爲ルモノデアアル、然ラバ十分大部分ニ涉ル所ノ可否論ハ、之ヲ爲サシメルコトハ誠ニ第二議會ノ前提デアアル、第二議會ノ豫備デアルト云フ所ノ第一議會ノ性質ニ適應スルモノト言ハナケレバナラヌコトデアアル、是ハ即チ議會ノ性質ヲ考ヘマシタコトデゴザイマシテ、即チ豫備ヲ以テ推斷致シタル所デ、是迄私ガ信シマシタ所ノ理由ノ即チ一ト爲ルモノデアアル、又其次ハ議會ノ慣例ヨリ來ルモノデゴザイマシテ、是ハ當議場ニ列スル所ノ多クノ諸君ハ、何レモ地方議會ニ多少御經歷ノアツタ御方ト信ズルモノデアアル、左様デゴザイマスガ故ニ、地方議會ノ議事ノ模様ハ、能ク御記憶ニナツテ居ルと思フ、而シテ府縣會ト郡市町村會トヲ問ハズ、其第一議會ニ於ケル所ノ言論ノ範圍ハ、議案ノ大部分ニ關スル以上ハ、縱令全體ニ涉ラナクテモ其可否ノ論説ヲナシ得ルト云フコトハ、東西ノ各地何レモ同一デアラト思フノデゴザイマス、本員ハ、本案ノ大部分ニ就イテ斯ノ如キ意見デアアル、然レドモ修正ハ第二次會ニ於テ述ベヤウトスルガ故ニ、本案ハ第二次會ニ移サレシコトヲ望ムト云フ、斯様ナ口調ヲ以テ大部分ニ關スル演説ハ、隨分何處ニモアツタコト、私ハ思フノデアアル、左モ是ハ地方議會ノ議事ノ慣例デゴザイマスガ故ニ、直チニ之ヲ採ツテ以テ我衆議院ニ援引シテ彼是論シヤウト云フモノデハゴザイマセヌガ、ナレドモ地方議會ノ所謂第一次會ナルモノハ、本會ノ第一議會ニ相違ナイ以上ハ、又以テ之ヲ援引シテ第一議會ニ於ケル言論ノ範圍ヲ推究スルモ、亦必シモ不倫ノ較ベ方デハナイト私ハ信スルノデゴザイマス、況ヤ我衆議院ニ於テモ、第一期以來斯ノ如キ言論ヲ爲シ得タルコトハ隨分屢々アツタコト、記憶スルノデアアル、サリナガラ、私ハ無性者デ速記録ヲ取調ベマセヌ故ニ、一々之ヲ舉ゲルコトハ出來ナイガ、唯記憶シテ居ルコト云フコトハ此處ニ逆ブルコトヲ憚ラヌモノデアアル、是ハ議會……一ノ理由デアアル、以上述べタル所ノ種々ノ理由カラ致シマシテ、第一議會ニ於ケル大體ナル文字ノ意味ハ、私ハ廣義ニ解シテ居ツタモノデアアル、所ガ何ゾ圖ラン、去十五日ノ豫算會議ニ於テ、栗原君ガ爲シツ、アル所ノ豫算大體ノ演説ニ對スル議長ノ注意ニ依ツテ、私ハ既信ノ見解ヲ動カサル、コトニナツタノデアアル、即チ既ニ信ジテ居ツタル見込ヲ動カサル、コト、ナツタノデアアル、本員ハ實ニ遺憾ニ堪ヘヌ、本員ハ實ニ疑義ニ堪ヘナイモノデアアル、議長ノ注意ニ依リマスレバ、第一議會ニ於テハ、議案ノ全部デナケレバ可否スルコトガ出來ナイト云フモノ、如クデアアル、何ガ故ニ第一議會ニ於テハ、其言論ハ全體ニ限ラナケレバナラヌトスルモノデアアルカ、全體ニ限ルノ必要ハ如何ナル理由ニ基クモノデアアルカ、是本員ガ聽カント欲スル所ノ骨子デアアル、其基クノ理由ハ如何ナルモノデアアルカ、斯ク言ハハ、或ハ言フカモ分ラナイ、全體ノ可否ニアラザル言論、即チ議案ノ全部ニ涉ラナイ所ノ討論ハ、其討論ニ對シテ結末ヲ付クルコトガ出來ナイ、即チ其言論ノ可否ヲ討論ハ、テ可否ヲ決議スルコトガ出來ナイ、何故ナレバ第一議會ニ於テハ、部分決議ヲ爲スニ由ナイカラデアアル、斯ノ如ク言フカモ知ナイノデアアル、然レドモ若シ斯ノ如ク言フナラバ、是實ニ不當ノ申分ト言ハナケレバナラナイ、夫レ第一議會ナルモノハ、彼ノ第二議會ヤ第三議會ノ場合トハ事變リマシテ、

各自個々ノ言論ニ就イテ採決スルモノデハ決シテナイ、如何ニ種々澤山ナル  
 言論ノ提起ガアリマシテモ、一切是ニハ構ハヌノデ、唯第二讀會ヲ開クカド  
 ウスルカト云フコトヲ決スレバ十分デゴザイマス、シテ見マスレバ其提起シ  
 タル所ノ言論ノ結果ヲ付ケルコトガ出來ナイカラト云フ言語ハ、即チ抵抗カ  
 フ持ツテ居ラナイ不當ノ口實ト云フモノデハアリマス、果シテサウデ  
 ゴザイマスナラバ、全體ニ涉ラナイ言論ダカラト云フテ大部分ニ關スル言論  
 フ爲サシメナイノハ、實際ニ於テ何等ノ差支ナイノニ、之ヲ禁ズルバカリ  
 デハナク、大ニ讀會ノ法文ニ反スルモノデハアリマス、大イニ讀會ノ  
 性質ニ悖ルモノデハアリマス、大ニ讀會ノ慣例ニ適ハナイモノデアリ  
 マスマイカ、是レ本員ノ幾度カ考慮ヲ運ラシテモ、議長ノ見解ノドウ云フ理  
 由ニ基イタカ知ルニ苦ム所デアアル、是レ本員ノ凝義百出胸間ニ横ハル次第  
 デゴザイマス、此事ハ實ニ議員言論ノ範圍ニ關スル最モ重大ナル事項デア  
 テ、將來ニ一定ノ解釋トモナルコトデゴザイマスガ故ニ、議長ハドウカ親切  
 明瞭ニ御説明アツテ、本員ヲシテ其理由ノ基ク所ニ満足セシムルヤウニ深ク  
 望ムノデアアル、幸ニ議長ガ之ヲ容ル、ナラバ、其利益ヲ獨リ本員バカリデナ  
 イノデアアル、議長ハドウカ詰ラヌ質問デアアルト云フコトデ、冷淡ニ之ヲ見ズ  
 シテ親切丁寧ニ御説明アラフコトヲ、深く御祈リヲ致ス譯デゴザイマス

○議長(鳩山和夫君) 小西甚之助君ニ發言ヲ許サレタ御精神カラ考ヘテ見ル  
 ト、議長ニ答辯セヨト云フ御趣意ト思ヒマスガ、議長ノ一應ノ考ハ、——今  
 何モノイトキニ衆議院規則ノ研究會ヲ茲ニ起スヤウナ形ガアルトハ思ヒマス  
 ケレドモ、諸君ガ既ニ答辯シロト云フ御精神デアアルト思ヒマスカラ、御答致  
 サウト考ヘル、讀會ノコトニ就キマシテハ、議長ノ考ハ大體小西甚之助君ノ  
 述べラル、通デアアルト思フ、併ナガラ先日豫算ノ議事ノ場合ニ、栗原君ノ演  
 說ノコトデゴザイマスガ、豫算ニハ小西君モ御承知ノ通讀會ハナイノデゴザ  
 イマス、ソレ故ニ讀會ニ關スル規定ハ此ノ場合ニ於テハ適用ガゴザイマセ  
 ヌノデ、殊ニ議長ハ其時ニ栗原君ノ登壇ヲ拒ンダノデモナク、發言ヲ停止シ  
 タノデモナク、即チ豫算ノ大體ニ就イテ反對ノ御意見デアアルト云フコトデア  
 リマシタカラシテ、登壇ヲ許シ、發言ヲ許シタノデアリマス、此外ニ唯今答  
 辯スベキコトハナイト考ヘマス

○小西甚之助君(二百九十三番) ヲレハ私ノ竊ニ期シテ居ッタ所ノ御答辯デ  
 アル、豫算ニ讀會ノナイコトハ議長ノ御言葉デモ承リ、又議事日程ノ上デモ  
 明ニ分ツテ居ルコトデアアル、然レドモ此豫算ニ讀會ノナイト云フコトハ全ク  
 名義ノ上ニコソナケラネ、事實ノ上ニ於テハアル事デアアル、即チ實際ノ順序  
 トシテハ公然此三讀會ヲ經テ居ルモノデアアル、然レドモ豫算ノ上ニ於テハ讀  
 會ノ名義ガゴザイマセヌ故ニ、敢テ此事ハ主張致サヌガ、倍テ果シテ豫算ニハ  
 讀會ノナイモノデアアルナラバ、議長ハ何ニ依ツテ栗原君ノ演說ニ對シテ、總  
 體ニ關スル所ノ可否論ナレバナシテ宜イガ、部分ニ關スル議論ナレバナスコ  
 トハ出來ヌト云フノハ、若シ豫算ニ讀會ガナイナラバ、如何ナル規則ヲ以テ  
 スノ如ク議長ガ栗原君ニ向ツテ注意ヲ與ヘラレタカ、其注意ヲ與ヘラレタ因  
 テ起ル所ノ規則ノ明示ヲ望ム

○議長(鳩山和夫君) 尙ホ簡單ニ答ヘラレマスカラ答ヘテ置カウト思ヒマ  
 ス、豫算ニ讀會ノナイト云フコトハ、小西君ノ言フ通諸君モ御承知ノ通、併

ナガラ豫算會議ノ初ニ於テ、大體ノ贊成論若クハ反對論ヲ爲シ得ルト云フコ  
 トハ、衆議院ノ慣例ニナツテ居リマス、即チ其慣例ニ基イテ、大體ノ事ナラ  
 バ各省所管ニ移ラナイ中ニ登壇シ發言スルコトガ出來ル、ソレニ基イテ栗原  
 君ニ登壇ヲ許シタノデゴザイマス

○小西甚之助君(二百九十三番) ドウ云フ慣例デアアルカ、願クハツレヲ示サ  
 レタイ、ドウモ私ハ分ラヌ、私ハ却テ反對ノ慣例ノアルコトヲ信ズル者デア  
 ル

○井上角五郎君(二百八十番) 本員ハ今丁度小西君ノ問答ガ終ツタ所デ、マ  
 ダドノ議題ニモ這入ツテ居リマセヌ所デ、極ク一分程ノ間發言ヲ許サレタイ

○議長(鳩山和夫君) 何ニ就イテモスカ  
 ○井上角五郎君(二百八十番) ソレハ議長ニ注意ヲ請フテ置キタイ(登壇ト  
 呼フ者アリ)登壇スル程モナイ

○議長(鳩山和夫君) 注意ナラ宜シウゴザイマス  
 ○井上角五郎君(二百八十番) 過日本員ガ金子次官ニ向ツテ次官ハ馬鹿ト云  
 テ宜イ、斯ウ斷言致シタ所ガ、次官ガ之ヲ取消ストカ、取消サナイトカ頻リ  
 ニ論ニナツテ居リマスガ、若シ次官カラ要求ガアツタナラバ、議長ハ曖昧ニ  
 付セズ、木院ニ向ツテ取消スカ取消サナイカト云フコトヲ御照會ニナリタ  
 イ、本員ハ明白ニ次官ハ馬鹿ナリト云フコトヲ證明シテ置キマス、是ダケヲ  
 御注意致シマス

○議長(鳩山和夫君) 金子次官カラハ公然ノ要求ニハ未ダ接シテ居リマセヌ  
 故ニ、議會ニモ報告セヌデ居リマス

○望月右内君(二百八十七番) 本問題ノ委員會ノ報告ヲ致シテ宜ウゴザイマ  
 スカ

○議長(鳩山和夫君) 宜ウゴザイマス  
 ○望月右内君(二百八十七番) モウ報告シテ、問題ニナツテ居ル問題ノ中デヤ  
 カマシクナツテ居ル

(望月右内君演壇ニ登ル)  
 ○望月右内君(二百八十七番) 唯今議題ト爲ツテ居リマスル此鐵道敷設法中  
 改正法律案ノ特別委員會ノ報告ヲ補ツテ、少シク申シテ置キタウ存ジマス、  
 是ニ對シマスル委員會ハ、昨日ヲ以テ開會致シマシタ、他ノ各種付託サレマ  
 シタ案モ同一ニ會ヲ開キマシタ(草刈親明君「委員長ハ誰デス」ト呼フ)委員長  
 ハ彙ニ報告シテアリマスカラ、殊更ニ言ハナクテモ宜イト思ヒマスガ、私デゴ  
 ザイマス、各種ノ疑義質問等モ政府委員ニ向ツテ他ノ案ニ就イテハアリマシタ  
 ガ、本案ニ就キマシテハ單純ニ案デアリマスルシ、且ツ昨年本議會ニ於テモ異  
 議アリマセズ、又貴族院ニ於テモ異議ガナカッタ案デアリマス、然ルニ他ノ  
 案ノ故障ノタメ、遂ニ此部分ガ埋没サレマシタモノヲ、政府ハ注意シテ、今  
 年ハ複雑ヲ避ケルガタメニ簡便ニ案ヲ出サレマシタノデ、サウスレバ無論此  
 案ニ就イテハ異存ナキノミナラズ、斯ノ如クシマスルト、此中央線ト東海道  
 線トノ聯絡ニ就キマシテ、東西縦貫ノ效ヲ全ウシマスル改正案デアリマスカ  
 ラシテ、無論ハ原案ノ如ク可認シテ宜キモノト認メマシタ、委員會ハ斯ノ  
 如ク報告ヲ爲シマシタモノデアリマス、左様御諒知アリタウゴザイマス

○吉本榮吉君(二百五十六番) 彼此手問ガ取レマシタカラ早ク本案ノ進行ヲ  
 望ミマス、讀會ヲ省略シテ直チニ確定スルコトヲ望ミマス

〔贊成々々〕ト呼フ者アリ  
○議長(鳩山和夫君) 讀會省略ノ動議ガゴザイマスガ、贊成ガアリマスカ  
〔贊成々々〕ト呼フ者アリ  
○議長(鳩山和夫君) 然ラバ讀會ヲ省略シテ、直チニ確定議ト爲スコトニ致サウト考ヘマス  
〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ  
○議長(鳩山和夫君) 日程第四ノ全部、一緒ニ採決シマス、原案ニ異議アリマセヌカ  
〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ  
○議長(鳩山和夫君) 原案ニ決定致シマス——日程第五、作業會計法中改正法律案、第一讀會

第五 作業會計法中改正法律案(政府提出) 第一讀會  
〔左ノ議案ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ茲ニ掲載ス〕  
作業會計法中改正法律案  
明治二十三年法律第十七號作業會計法中左ノ通改正シ明治三十一年度ヨリ施行ス  
第一條中「作業直接ノ費用ニ充ルコトヲ許シ」ヲ「作業ノ費用ニ充ルコトヲ許シ」ト改メ但以下ヲ刪除ス  
○議長(鳩山和夫君) 別ニ御質問ガナケレバ日程第六ニ移リマス、日程第六

第六 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉  
○吉本榮吉君(二百五十八番) 此選舉ハ議長指名ニ……  
○議長(鳩山和夫君) 日程第六ノ委員ハ、議長指名ニスルト云フ動議ガアリマスガ、異議アリマセヌカ  
〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ  
○議長(鳩山和夫君) 異議ナケレバ議長指名ト云フコトニ決定致シマス——日程第七、狩獵免許稅徵收ニ關スル法律案、第一讀會

第七 狩獵免許稅徵收ニ關スル法律案(政府提出) 第一讀會  
〔左ノ議案ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ茲ニ掲載ス〕  
狩獵免許稅徵收ニ關スル法律案  
狩獵法ニ依リ政府ニ納ムル免許稅ハ稅額ニ相當スル印紙ヲ狩獵免許出願書ニ貼用シテ納ムルモノトス  
此ノ法律ハ明治三十年四月一日ヨリ施行ス  
○議長(鳩山和夫君) 政府委員目賀田種太郎君  
〔政府委員大藏省主税局長目賀田種太郎君演壇ニ登ル〕  
○政府委員(目賀田種太郎君) 狩獵稅ノコトデゴザイマスガ、一事兩主管ニ涉ッテ居リマシテ、徵稅ノ上ニ不便デゴザイマスカラ本案ヲ提出シタ譯デゴザイマス、ソレハ御承知ノ通、狩獵法ニ依リマシテ、免許ヲ與ヘルコト、又免許ノ證ヲ忘失致シマシタル時モ、總テ免許ノコトハ警察ノ取扱デゴザイマス、從ッテ警察上ノ取締ヲ受ケルコトデゴザイマス、然ルニ免許稅ヲ徵スルコトハ、是ハ稅ノコトデゴザイマスカラシテ、一ツノ事デ、納稅者ニ於キ

マシテ二度ノ手數ヲスルト云フコトデゴザイマス、頗ル煩勞デゴザイマスカラ、之ヲ避ケルガタメニ本案ヲ提出シタ譯デゴザイマス  
○議長(鳩山和夫君) 御質問ガナケレバ次ノ日程ニ移リマス、日程第八

第八 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉  
○吉本榮吉君(二百五十八番) 此案モ委員ハ議長ノ指名ニ任ス  
○議長(鳩山和夫君) 贊成ガアリマスカ  
〔贊成〕ト呼フ者アリ  
○議長(鳩山和夫君) 日程第八、委員ハ議長指名ニスルト云フ動議ガアリマスガ、諸君御異議アリマセヌカ  
〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ  
○議長(鳩山和夫君) 御異議ナケレバ議長指名ニ決定致シマス、日程第九、罹災救助基金法案、第一讀會

第九 罹災救助基金法案(政府提出) 第一讀會  
〔左ノ法案ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ茲ニ掲載ス〕  
罹災救助基金法案  
第一條 府縣ハ罹災者救助ノ資ニ供スル爲メ罹災救助基金ヲ貯蓄スヘシ  
第二條 罹災救助基金ハ府縣ノ全部又ハ一部非常ノ災害ニ罹リタルトキ救助ノ爲メ支出スルモノトス  
災害ノ區域府縣ノ全部又ハ一部ニ涉ラサルモ多數ノ人民同一ノ災害ニ罹リタルトキハ府縣會ノ議決ヲ經テ罹災救助基金ヲ以テ救助スルコトヲ得  
第三條 罹災救助基金ハ府縣稅 地方ニ在テハ地方稅 及國庫補助金ヲ以テ成立スルモノトス  
罹災救助基金ヨリ生スル收入ハ總テ罹災救助基金ニ編入スルモノトス  
府縣ハ臨時他ノ收入又ハ寄附ノ全額物品ヲ罹災救助基金ニ編入スルコトヲ得  
第四條 府縣ハ罹災救助基金貯蓄ノ爲メ直接國稅ノ附加稅ヲ徵收スル場合ニ於テハ他ノ法律ヲ以テ定メタル制限ノ外百分ノ三以內ノ附加稅ヲ課スルコトヲ得  
第五條 國庫ハ此ノ法律施行ノ後十箇年間罹災救助基金ノ補助トシテ毎年金三十萬圓ヲ支出シ府縣ニ於テ毎年度罹災救助基金ニ繰入レタル金額ニ割合ヒ之ヲ交付スヘシ  
第六條 府縣ニ於テ罹災救助ノ爲メ罹災救助基金ノ年度初ノ現在高百分ノ五以上ヲ支出シタルトキハ國庫ハ罹災救助基金ヲ補充セシムル爲メ其ノ超過額ノ三分ノ一ヲ府縣ニ交付スヘシ  
第七條 各府縣ニ於テ貯蓄スヘキ罹災救助基金額ハ五十萬圓以上トシ明治二十年年度以降十箇年間ニ備荒儲蓄法ニ依リ支給シタル平均年額ノ二十倍以上ニ達スルヲ要ス  
第八條 救助ノ爲メ罹災救助基金ヲ支出スヘキ種目左ノ如シ  
一 食料費  
二 被服費  
三 治療費

衆議院議事速記錄第十三號 明治三十年二月二十四日  
作業會計法中改正法律案 第一讀會  
右審査特別委員ノ選舉 狩獵免許稅徵收ニ關スル法律案 第一讀會  
罹災救助基金法案 第一讀會  
一五七

四 小屋掛費

五 就業補助費

六 納税金ノ補助及貸與

第九條 食料費ハ罹災ノ場合ニ必要ナル焼出ヲ爲シ又ハ罹災ノ爲メ自ラ生存スルコト能ハサル貧民ニ食品ヲ給與又ハ貸與スル費用ニ供スルモノトス

第十條 被服費ハ避難所等ニ在ル貧民自ラ被服ヲ給スルコト能ハサル場合ニ衣服ヲ給與シ又ハ一時夜具等ヲ貸與スル費用ニ供スルモノトス

第十一條 治療費ハ罹災ノ際一時治療ヲ施シ又ハ罹災ノ貧民自ラ治療費ヲ辨スルコト能ハサル者ニ藥品其ノ他必要ナル治療品ヲ貸與スル費用ニ供スルモノトス

第十二條 小屋掛費ハ罹災ノ爲メ家屋亡失潰倒大破又ハ浸水シ自ラ居處ヲ營ムコト能ハサル者ニ小屋掛ヲ爲シ又ハ小屋掛ヲ爲スヘキ材料ヲ給與スル費用ニ供スルモノトス

第十三條 就業補助費ハ罹災ノ爲メ産業ヲ失ヒ自ラ其ノ業ニ復スルコト能ハサル貧民ニ必要ナル材料器具ヲ給與又ハ貸與スル費用ニ供スルモノトス

第十四條 食品、藥品、治療品及材料器具ヲ貸與スル場合ニ於テハ其ノ代價ヲ見積リ現金ヲ以テ交付スルコトヲ得

第十五條 左ノ場合ニ於テハ其ノ納税金額ノ全部又ハ一部ヲ補助若クハ貸與スルコトヲ得

第一 地租納税者ニシテ罹災ノ爲メ他ニ收入ヲ得ルノ途ナク其ノ所有ノ土地又ハ家屋ヲ賣却スルニ非サレハ納税義務ヲ果スコト能ハサルトキハ地租及其ノ附加税

第二 國稅ノ營業稅納税者ニシテ罹災ノ爲メ營業稅法第三十一條ニ依リ減税セラレタル者他ニ收入ヲ得ルノ途ナク營業ノ資本ヲ以テスルニ非サレハ納税義務ヲ果スコト能ハサルトキハ營業稅及其ノ附加税

其ノ他直接府縣稅 府縣制ヲ施行セサル地方稅 直接市町村稅ハ府縣會ノ議決ヲ經内務大臣大藏大臣ノ認可ヲ得テ前項ニ準スルコトヲ得

第十六條 郡市町村其ノ他公共團體ニ於テ救災ノ方法ヲ設ケ資金ヲ貯蓄スルトキハ府縣知事ハ府縣會ノ議決ヲ經内務大臣大藏大臣ノ認可ヲ受ケ罹災救助基金ヨリ補助ヲ爲スコトヲ得

第十七條 罹災救助基金ノ管理支出又ハ復原ニ關スル方法ハ府縣會ノ議決ヲ經内務大臣大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第十八條 罹災救助基金保管ノ方法ハ當該官吏ニ於テ現金ヲ保管スルノ外左ノ範圍ヲ出ルコトヲ得ス

一 國債證券地方債證券ヲ買入ルルコト

二 給與品貸與品ヲ買入ルルコト

三 大藏省預金ニ預入ルルコト

四 確實ナル銀行ニ當坐預定期預ヲナスコト但シ罹災救助基金總額ノ十分ノ一ヲ超ユルコトヲ得ス

五 法律勅令ノ規定ニ依リ貸付又ハ繰替支出ヲナスコト

第十九條 罹災救助基金ノ管理ニ關スル直接ノ費用ハ府縣會ノ議決ニ依リ罹災救助基金ヲ以テ支辨スルコトヲ得但シ事務費及物品貯藏ニ要スル土地建物ノ費用ハ罹災救助基金ヲ以テ支辨スルノ限ニアラス

第二十條 罹災救助基金ノ出納ハ内務大臣又ハ大藏大臣隨時之ヲ檢査スヘシ

第二十一條 罹災救助基金ノ收入ニ關スル豫算決算ハ内務大臣大藏大臣ニ報告スヘシ

第二十二條 此ノ法律ハ明治三十年四月一日ヨリ二十箇年問之ヲ施行ス

第二十三條 明治十三年第三十一號布告備荒儲蓄法ニ依リ從來各府縣ニ於テ積立タル府縣儲蓄金ハ總テ罹災救助基金ニ繰入ルヘシ

第二十四條 此ノ法律ハ沖繩縣ニ之ヲ施行セス別ニ勅令ヲ以テ其ノ制ヲ定ム

第二十五條 明治十三年第三十一號布告備荒儲蓄法及中央備荒儲蓄金ノ運用ニ關スル明治二十三年法律第三十三號ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ廢止ス

○議長(鳩山和夫君) 政府委員田尻稻次郎君

○政府委員(男爵田尻稻次郎君) モウ別段長クハ申上ゲマセヌガ、此罹災救助基金法案ハ少シ大キウゴザイマスカラ、一寸大體申上ゲマスガ、彼ノ備荒儲蓄法案ト云フモノ、資金ガ、今日ノ今ノ御決議ニ依リテ拂切リニナリマシテ、最早アレハ三十四年マデ行クノデアリマスケレドモ、實際ニ於テ最早基金ガナクナツテ働クコトガ出來ナクナツタノデアリマス、ドウシテモ日本ノ國柄デハ備荒儲蓄ノヤウナモノ、設置ガ必要デアリマスシ、ドウモアレガ消滅シタダケデ抛ツテ置ク譯ニ參リマセヌカラ、此法案ヲ提出シマシテ備荒儲蓄金ノ跡繼ギニ致ス積デアリマシテ、而シテ今度ハ少シ範圍ヲ擴ゲマシテ、第八條杯ノ處ニ箇條ガ殖ヤシテアリマスカラ、ドウゾ速ニ差急グ事情モアリマスカラ、委員會ニ付セラレテ、十分ニ討議ヲ盡サレタ上ニ、又速ニ御贊同アラシコトヲ希望致シマス

○岡田良一郎君(百六十番) 政府委員ニ少シ質問ガゴザイマスガ、此第十五條ノ一項デゴザイマスガ、第一項ハ地租納税者ニシテ罹災ノ爲メ他ニ收入ヲ得ルノ途ナク其ノ所有ノ土地又ハ家屋ヲ賣却スルニ非サレハ納税義務ヲ果スコト能ハサルトキハ地租及其ノ附加税ト云フモノガ、即チ補助若クハ貸與ヲスルノ性質ニナツテ居リマスガ、此法文ノ意味ハ其土地ヲ賣却スルニアラザレバ納税スルコトガ出來ヌト云フノデアルガ、所謂其土地ナルモノハ凶災ニ罹ラタ所ノ土地ノミヨ言フノデアルカ、又其所有者ニ他ニ地面ガアツテ豐作ノ處ガアレバ、是其補助貸與ヲスルノ限デナイノデアルカ、此法文ヲ見マ

スルニ、他ニ收入ノ途ナキモノニ限ルヤウデアリマス、他ニ收入ノ途アル者ト云フ者ハ、他ニ土地ヲ持ツテ居ツテ、ツレガ收穫ガアリ、又他ニ公債ヲ所有シテ居リ、株券ヲ所有シテ居ルガタメニ收入ガアル、斯ノ如キ者ハ縱シヤ土地ガ荒レテモ、皆無ニナリマシテモ、此補助貸與ヲ受ケルコトガ出來ヌト云フ法文デアルカ、是ハ前々ノ備荒儲蓄法ニモ、斯様ナコトガアツテ頗ル此

施行法ハ不都合ノ法デアツタガ、矢張前々ノ施行法ト同シヤウナ意味デア  
カ、是ハサウ云フ心持デアナイノデアアルカ、少シク疑ガアリマスカラ説明ヲ求  
メマス

(政府委員大藏省國債局長駒井重格君演壇ニ登ル)

○政府委員(駒井重格君) 唯今罹災救助法案ノ十五條ニ就イテ御尋デアリマ  
シタガ、アレハ矢張大體ノ是マデノ精神ト、タイシタ變リハナイ、少シク  
擴張シテ居リマスデ、又唯今御質問ニ依リマスレバ、其土地ヲ以テ被害者ト御  
覽ニナルカノ如クニ、サウ云フ御精神デアナイカモ知レマセヌガ、サ  
ウ聽取リマシタカ、併ナガラ此法案ハ此罹災者其人ヲ救助スルノ法案デアリ  
マシテ、其土地其モノ、被害ヲ救助スルノ法案デアナイノデアアリマス、左様  
御承知ヲ請ヒマス

○岡田良一郎君(百六十番) 然レバ即チ其土地ガ災害ヲ被ツテ其他ニ財産ノ  
有ル者ニハ是ヲ支給シナイ、斯ノ如キノ意味デアアルノデスカ

○政府委員(駒井重格君) 左様デアリマス

○岡田良一郎君(百六十番) 是ハ甚ダ不都合ノ案デアリマスケレドモ、其時  
ニ又論ジマス

○木暮武太夫君(百四十八番) 此罹災救助資金法デアゴザイマスガ、此水害、  
火災、飢饉等ニハ勿論適用サレルコトデアアルガ、彼ノ霜害デスカ、養蠶ノ盛  
ナル土地ニ於テハ、桑ガ霜ノタメニ非常ノ害ヲ被ムルト云フコトガアル、其  
霜害ノ時ニモ勿論此救助法ハ適用セラル、コト、存ジマスガ、其義ヲ一應承  
リタイ

○政府委員(駒井重格君) 唯今其霜害ノコトノ御話デアゴザイマスガ、霜害ト  
テモ矢張此法律ニ書イテアリマスル中ニハ、或ル場合ニ於テハ勿論這入ル積  
デアリマス

○議長(鳩山和夫君) 他ニ御質問ガナケレバ日程第十二移リマス

第十 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉

○吉本榮吉君(二百五十六番) 是モ議長指名ノ委員ニ付託サレンコトヲ望ミ  
マス

○議長(鳩山和夫君) 日程第十八議長指名ノ委員ニ付スル——御異議ハゴザ  
イマセヌカ

(異議ナシ異議ナシト呼フ者アリ)

○議長(鳩山和夫君) 即チ議長指名ニ決シマス

○吉本榮吉君(二百五十六番) 緊急動議トシテ持出シタイノハ、彼ノ工藤行  
幹君外七名ヨリ提出セラレマシタ郡制改正案モ、此第十一ノ所ヘ加ヘタウゴ  
ザイマス、是ハ曩ニ本會ノ決議ヲ以テ、府縣制ノ調査ヲ特別委員ニ依託致シ  
テアリマスガ、順序トシテ此郡制ノ調査ヲ終ヘズシテ、府縣制ノ調査ト云フ  
モノハ出來ナイ、然ルニ何レモ百二十條モアル所ノ大部分ノモノデアリマス  
カラ、其調査ニ餘程ノ日數モ要スル、又衆議院ガ議決シテ貴族院ニ回シテモ、  
亦日數ヲ要スルコトデアアルカラ、一日モ早く其事ニ著手シタイ、故ニ今日日  
程ガ變更ニナラタラ、府縣制ト同一ノ委員ニ付託シテ、特別委員調査ノ進行ヲ  
圖リ度アリマス、諸君同意アラランコトヲ望ミマス

(贊成々々ト呼フ者アリ)

○議長(鳩山和夫君) 日程變更ノコトニ就イテ吉本君カラ動議ガアリマス、  
即チ此場合ニ郡制改正法律案ヲ議題ト爲スト云フコトハ御異議ハゴザイマセ  
ヌカ

(異議ナシ異議ナシト呼フ者アリ)

○議長(鳩山和夫君) 即チ郡制改正法律案ヲ議題トシマス、第一讀會

第一讀會

郡制改正法律案(工藤行幹君外七名提出)

郡制改正法律案

第一章 總則

第一款 郡及其ノ區域

第一條 郡ハ其ノ區域内ニ在ル町村ヲ總括ス

郡ハ法人トシテ法律命令ヲ以テ定メタル範圍内ニ於ケル公共事務並法律命  
令ニ依リ郡ニ屬スル事務ハ官ノ監督ヲ受ケテ自ラ之ヲ處理スルモノト  
ス

第二款 郡ノ廢置分合及郡界ノ變更ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム

郡界ニ當ル市町村ノ境界ヲ變更スルトキハ郡界モ亦自ラ變更スルモノト  
ス

第三款 郡内ノ町村ヲ變シテ市トナシ若ハ市ヲ變シテ郡内ノ町村ト爲スハ  
其ノ市ノ申請ニ依リ内務大臣ノヲ定ム

前項ノ場合ニ於テハ郡界モ亦自ラ變更スルモノトス

第四條 第二條第三條ノ處分ニ付財產處分ヲ要スルトキハ府縣參事會ノ議  
決ヲ經テ府縣知事ノヲ處分スヘシ但特ニ法律ノ規程アルモノハ此ノ限ニ  
在ラス

第二款 郡條例及郡規則

第五條 郡ノ公共事務ニシテ特別ヲ設クルコトヲ許シ若ハ條例ノ規程ニ讓  
リタル事項ニ就テハ郡條例ヲ設クルコトヲ得

郡ハ郡有財產及郡ノ營造物ニ關シ規則ヲ設クルコトヲ得

郡條例及郡規則ハ法律命令ニ抵觸スルコトヲ得ス

郡條例及郡規則ハ其ノ郡慣行ノ公告式ニ依リ之ヲ公告スヘシ

第二章 郡會

第一款 組織及選舉

第六條 郡會ハ郡内各選舉區ニ於テ選舉シタル議員ヲ以テ之ヲ組織ス

選舉區ハ一町村ヲ以テ一選舉區トスヘシ但土地ノ狀況ニ依リ郡條例ヲ以  
テ數町村ヲ合セ一選舉區ト爲スコトヲ得

町村組合ニシテ組合會ヲ設ケ其ノ町村一切ノ事務ヲ共同處理スルモノハ  
之ヲ一町村ト看做スヘシ

第七條 郡會議員ノ數ハ十五名以上三十名以下トス

郡會議員ト配當法ハ人口ヲ標準トシ郡條例ヲ以テ之ヲ定ム

郡會議員ノ選舉區及議員ノ配當法ヲ改正スルトキハ議員全數ヲ改選スヘ  
シ

第八條 郡内ノ町村公民ニシテ町村會議員ノ選舉權ヲ有シ且其ノ郡内ニ於テ一年以來直接國稅年額三圓以上ヲ納ムル者ニ郡會議員ノ選舉權及被選舉權ヲ有ス

本條規定スル直接國稅額ニ就テハ家督ニ依リ財產ヲ相續シタル者ハ前財產主ノ納稅額ヲ以テ其ノ納稅資格ニ算入ス

住居ヲ移シタル爲町村ノ公民權ヲ失ヒタル者其ノ住居同郡内ニ在リ住居ヲ除ク外其ノ他ノ要件ヲ失ハサルトキハ仍郡會議員ノ選舉權及被選舉權ヲ有ス

左ニ掲グル者ハ郡會議員ノ被選舉權ヲ有セス

一 所屬府東京府ハ警視廳トモ縣官吏

二 其ノ郡ノ有給吏員

三 檢事及警察官

四 神官僧侶又ハ諸宗ノ教師

五 小學校教員

前項ノ外ノ官吏ニシテ當選ニ應セムトスル者ハ本屬長官ノ許可ヲ受クヘシ

第九條 郡會議員ハ名譽職トス

郡會議員ノ任期ハ四年トシ毎二年其ノ半數ヲ改選ス若其ノ員數二分シ難キトキハ初回ニ於テ多數ノ一半ヲ解任セシム初回ニ於テ解任スヘキ者ハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

退任者ハ再選セラルコトヲ得

第十條 議員中闕員アルトキハ遲クモ三箇月以内ニ補闕選舉ヲ行フヘシ補闕議員ハ其ノ前任者ノ殘任期間在職スルモノトス

第十一條 郡會議員ノ選舉ハ郡長ノ告示ニ依リ町村長數町村ヲ以テ一選舉區ト爲シタル場合ニ於テハ郡長ノ指定シタル町村長之ヲ管理スヘシ其ノ告示ハ通常選舉ハ少クモ七十日前臨時選舉ハ少クモ十日前之ヲ發スヘシ

第十二條 町村長ハ通常選舉ヲ行フ毎ニ選舉前五十日ヲ期トシ各選舉人ノ現在資格ニ依リ十日以内ニ選舉人名簿ヲ調製スヘシ但數町村ヲ以テ一選舉區ト爲シタル場合ニ於テハ郡長ノ指定シタル町村長ニ之ヲ送付スヘシ

選舉ヲ管理スル町村長ハ名簿調製期限ノ翌日ヨリ七日間町村役場ニ於テ關係者ノ縦覽ニ供スヘシ若關係者ニ於テ異議アルトキハ同期限内ニ之ヲ町村長ニ申立ツルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ町村長ハ其ノ申立ヲ受ケタル日ヨリ五日以内ニ決定シ之ヲ申立人ニ通知スヘシ町村長ニ於テ修正スヘシト決定シタルトキハ選舉前二十日ヲ限リ之ニ修正ヲ加ヘテ確定名簿ト爲シ之ニ登錄セラレサル者ハ何人タリトモ選舉ニ關スルコトヲ得

前項町村長ノ決定ニ不服アル者ハ名簿確定以後七日以内ニ郡參事會ニ訴願シ郡參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ府縣參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

本條ニ依リ確定シタル名簿ハ次期ノ通常選舉マテ之ヲ据置キ臨時ノ選舉ニモ亦之ヲ使用スルモノトス

確定名簿ト雖モ郡參事會及府縣參事會ノ裁決又ハ行政裁判所ノ判決ニ依リ訂正スヘキモノアルトキハ町村長ニ於テ其ノ通知ヲ受ケタル時ヨリ二十四時間以内ニ之ヲ修正シ其ノ旨町村内ニ告示スヘシ

第十三條 選舉ヲ管理スル町村長ハ選舉ノ日ヨリ少クモ七日前選舉ノ場所日時及選舉スヘキ議員ノ數ヲ公告スヘシ

第十四條 選舉掛ハ名譽職トシ選舉ヲ管理スル町村長ニ於テ臨時ニ選舉人中ヨリ二名若ハ四名ヲ選任シ町村長若ハ代理者ハ掛長ト爲リ選舉會ヲ開閉シ會場ノ取締ニ任ス

第十五條 選舉開會中ハ選舉人ノ外何人タリトモ選舉會場ニ入ルコトヲ得

第十六條 選舉ハ投票ヲ以テ之ヲ行フ投票ハ選舉會場ニ於テ被選舉人ノ氏名ヲ記シ封緘ノ上選舉人自ラ掛長ニ差出スヘシ但選舉人ノ氏名ハ投票ニ記入スルコトヲ得ス

選舉人投票ヲ差出ストキハ自己ノ氏名及住所ヲ掛長ニ申立テ掛長ハ選舉人名簿ニ照シテ之ヲ受ケ封緘ノ儘投票函ニ投入スヘシ但投票函ハ投票ヲ終ルマテ開クコトヲ得ス

第十七條 投票ニ記載ノ人員其ノ選舉スヘキ定數ニ過キ又ハ不足アルモ其ノ投票ヲ無効トセス其ノ定數ニ過クルモノハ末尾ニ記載シタル人名ヲ順次ニ棄却スヘシ

左ノ投票ハ之ヲ無効トス

一 記載セル氏名ノ讀ミ難キモノ

二 被選舉人ノ何人タルヲ確認シ難キモノ

三 被選舉權ナキ者ノ氏名ヲ記載スルモノ

四 被選舉人氏名ノ外他事ヲ記入スルモノ但爵位職業身分住所又ハ敬稱ヲ記スルモノハ無効ト爲スノ限ニ在ラス

以上四種ノ投票中他ニ列記ノ被選舉人ニ就テハ仍其ノ效アリトス

五 氏名ヲ記載セサルモノ

六 投票用紙ヲ一定シタル場合ニ於テ其ノ用紙ヲ用非サルモノ

投票ノ受理並効力ニ關スル事項ハ選舉掛之ヲ議決ス可否同數ナルトキハ掛長之ヲ決ス

第十八條 選舉ハ選舉人自ラ之ヲ行フヘシ他人ニ託シテ投票ヲ差出スコトヲ許サス

第十九條 議員ノ選舉ハ有效投票ノ多數ヲ得タル者ヲ以テ當選トス投票ノ數相同キモノ八年長者ヲ取り同年月ナルトキハ掛長自ラ抽籤シテ其ノ當選ヲ定ム

同時ニ補闕員數名ヲ選舉スルトキハ投票數ノ多キ者ヲ以テ殘任期ノ長キ前任者ノ補闕ト爲シ投票ノ數同キトキハ掛長自ラ抽籤シテ其ノ順序ヲ定ム

第二十條 選舉掛ハ選舉錄ヲ製シテ選舉ノ顛末ヲ記錄シ選舉ヲ終リタル後之ヲ朗讀シ選舉人名簿其ノ他關係書類ヲ合綴シテ之ニ署名捺印シ少クトモ四年間之ヲ保存スヘシ

投票ハ之ヲ選舉錄ニ附屬シ選舉ノ效力確定スルマテ之ヲ保存スヘシ

第二十一條 選舉ヲ終リ當選人定マリタルトキハ選舉掛長直ニ當選人ニ通知シ同時ニ郡長ニ報告スヘシ

當選人當選ノ通知ヲ受ケタルトキハ五日以内ニ其ノ當選ヲ承諾スルヤ否ヲ郡長ニ届出ヘシ

一人ニシテ數選舉區ノ選舉ニ當リタルトキハ同期限内ニ何レノ選舉ニ應スヘキコトヲ郡長ニ届出ヘシ

定期改選ト補闕選舉ト同時ニ行ヒタル場合ニ於テ一人ニシテ兩選舉ニ當リタルトキモ亦前項ノ例ヲ適用ス

前三項ノ届出ヲ其ノ期限内ニ爲サハルトキハ當選ヲ辭シタルモノト看做スヘシ

第二十二條 議員ノ當選ヲ辭シタル者アルトキハ更ニ選舉ヲ行ハシムヘシ

二人以上投票同數ニシテ年長ニ依テ當選ヲ得タル者其ノ當選ヲ辭シタルトキハ年少ニ依リ當選セサリシ者ヲ以テ當選人トス但年少ニ依テ當選セサリシ者二人以上アルトキハ第十九條第一項ノ例ヲ適用ス

二人以上投票同數ニシテ抽籤ニ依テ當選シタル者其ノ當選ヲ辭シタルトキハ抽籤ノ爲當選セサリシ者ヲ以テ當選人トス但抽籤ノ爲當選セサリシ者二人以上アルトキハ亦前項但書ノ例ニ依ル

第二十三條 當選人確定シタルトキハ郡長ハ直ニ當選證書ヲ附與シ及管内ニ告示スヘシ

第二十四條 選舉人選舉ノ效力ニ關シテ訴願セムトスルトキハ選舉ノ日ヨリ十四日以内ニ郡參事會ニ申立ツルコトヲ得

郡參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ府縣參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第二十六條 議員中資格ノ要件ヲ有セサル者アルトキハ其ノ職ヲ失フモノトス其ノ要件ノ有無ハ郡參事會之ヲ決定ス

郡會ニ於テ其ノ議員中資格ノ要件ヲ有セサル者アルコトヲ發見スルトキハ之ヲ郡長ニ通知スヘシ

郡長ハ前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ之ヲ郡參事會ノ議ニ付スヘシ郡長若ハ名譽職參事會員ニ於テ發見シタルトキモ亦同シ

本條郡參事會ノ決定ニ關シテハ第二十四條第二項ノ例ヲ適用ス

郡會議員ハ其ノ資格ヲ有セスト確定スルマテハ議會ニ於テ位列及發言ノ權ヲ失ハス但自身ノ資格審査ニ關スル會議ニ於テハ辯明スルヲ得ルモ其ノ議決ニ加ハルコトヲ得ス

第二十七條 郡會議員選舉ニ關スル罰則ハ明治二十三年法律第三十九號市町村會議員選舉罰則ヲ適用ス

第二款 職務權限及處務規程

第二十八條 郡會ノ議決スヘキ事件ノ概目左ノ如シ

一 郡條例及郡規則ヲ設クル事

二 郡費ヲ以テ支辨スヘキ事業

三 郡ノ歳入出豫算ヲ定ムル事

四 決算報告ヲ認定スル事

五 法律命令ニ定ムルモノヲ除ク外使用料、手数料並夫役現品ノ賦課徵收ノ方法ヲ定ムル事

六 郡有不動産ノ賣買、交換、讓渡、讓受並賃入、書入ノ事

七 積立金穀等ノ處分ヲ爲ス事

前項除席ノ爲議員ノ數定數ニ滿タサルトキモ仍會議ヲ開クコトヲ得

第三十五條 郡會ハ郡會議員中ヨリ議長副議長各一名ヲ選舉スヘシ

議長及副議長ハ郡會議員ノ改選期日マテ在職スルモノトス

第二十六條 郡長若ハ特ニ郡長ノ委任ヲ受ケタル郡ノ吏員ハ郡會ノ議事ニ

參與スルコトヲ得但議決ノ數ニ加ハルコトヲ得ス

第三十七條 郡會ハ毎年一回通常會ヲ開クヘシ其ノ他必要アルトキハ其ノ

事件ニ限リ臨時會ヲ開クコトヲ得

郡會ハ郡長之ヲ召集ス若議員三分一以上ニ於テ臨時ノ召集ヲ請求スルト

キハ之ヲ召集スヘシ其ノ召集並會議ノ事件ハ開會日ヨリ少クモ十日前ニ

告示スヘシ但急施ヲ要スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

郡會ハ郡長之ヲ開閉ス

第三十八條 郡會ハ議員半數以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得

但同一ノ事件ニ付召集二回ニ至ルモ議員仍半數ニ滿タサルトキハ此ノ

限ニ在ラス

第三十九條 郡會ノ議決ハ過半數ニ依ル可否同數ナルトキハ議長ノ決スル

所ニ依ル

第四十條 郡會ニ於テ選舉ヲ行フトキハ一名毎ニ匿名投票ヲ爲シ有效投

票ノ過半數ヲ得タル者ヲ以テ當選人トス若過半數ヲ得タル者ナキトキハ

最多數ヲ得タル者二名ヲ取り之ニ就テ決選投票セシム其ノ二名ヲ取ルニ

當リ同數者アルトキハ年長者ヲ取り同年月ナレハ議長自ラ抽籤シテ之ヲ

定ム此ノ決選投票ニ於テハ最多數ヲ得タル者ヲ以テ當選トシ若同數ナレ

ハ年長者ヲ取り同年月ナレハ抽籤ヲ以テ當選ヲ定ム其ノ第十六條第十

七條第十八條ヲ適用ス議長選舉ノ場合ニハ議員中ノ年長者ヲ以テ假議長

トス

第四十一條 郡會ノ會議ハ公開ス但議長ノ意見又ハ郡長ノ要求若ハ議員三

名以上ノ發議ニ依リ可決シタルトキハ傍聽ヲ禁スルコトヲ得此ノ場合ニ

於テハ討論ヲ用井シテ其ノ可否ヲ決スヘシ

第四十二條 議長ハ會議ノ事ヲ總理シ會議ノ順序ヲ定メ其ノ日ノ會議ヲ開

閉シ議場ノ秩序ヲ保持ス

第四十三條 會議中無禮ノ語ヲ用井又ハ他人ノ身上ニ涉リ言論スルコトヲ

得ス

第四十四條 會議中此ノ法律若ハ議事規則ニ違ヒ其ノ他議場ノ秩序ヲ紊ル

第四十五條 傍聽人公然可否ヲ表シ又ハ喧騒ニ涉リ其ノ他議事ノ妨害ヲ爲

ス者アルトキハ議長ハ之ヲ制止シ若命ニ從ハサルトキハ之ヲ退場セシメ

必要ナル場合ニ於テハ警察官吏ノ處分ヲ來ムルコトヲ得

傍聽席騷擾ナルトキハ議長ハ總テノ傍聽人ヲ退場セシメ必要ナル場合ニ

於テハ警察官吏ノ處分ヲ來ムルコトヲ得

第四十六條 郡會ニ書記ヲ置キ議長ニ隸屬シテ庶務ヲ掌理セシム

書記ハ議長之ヲ選任ス

第四十七條 議長ハ書記ヲシテ會議録ヲ製シ會議ノ顛末並出席議員ノ氏名

ヲ記錄セシムヘシ會議録ハ議長及議員二名以上之ニ署名捺印スルヲ要ス

其ノ議員ハ開會ノ初ニ於テ之ヲ定ムヘシ

第四十八條 郡會ハ議事規則及傍聽人取締規則ヲ設クヘシ

第三章 郡行政

第一款 郡參事會郡吏員及委員ノ組織選任

第四十九條 郡ニ郡參事會ヲ置キ左ノ職員ヲ以テ之ヲ組織ス

一 郡長 一名

二 助役 一名

三 名譽職參事會員 五名

名譽職參事會員ハ郡條例ヲ以テ其ノ定員ヲ増減スルコトヲ得

第五十條 郡參事會ハ郡長ヲ以テ議長トス議長故障アルトキニ出席會員

中ヨリ臨時議長ヲ互選スヘシ

第五十一條 郡長及助役ハ有給吏員トシ郡會之ヲ選舉シ其ノ任期ハ四年ト

ス但任期滿限ノ後ト雖モ後任者就職ノ日マテ在職スルモノトス

郡長及助役ハ年齡三十歲以上ノ者タルヘシ

第五十二條 郡長ノ選任ハ內務大臣ヨリ上奏シテ裁可ヲ請ヒ助役ノ選任ハ

府縣知事ノ認可ヲ受クヘシ

第五十三條 名譽職參事會員ハ其ノ郡内ニ於テ郡會議員ノ被選舉權ヲ有ス

ル者ノ中ヨリ郡會之ヲ選舉ス其ノ任期ハ四年トシ毎二年其ノ半數ヲ改選

ス若二分シ難キトキハ初會ニ於テ多數ノ一半ヲ解任セシム初會ノ解任者

ハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム但任期滿限ノ後ト雖モ後任者就職ノ日マテ在職ス

ルモノトス

退職者ハ再選セラレ、コトヲ得

郡會ハ每通常會ニ於テ名譽職參事會員ノ補充員トシテ正員ト同數ヲ選舉

シ闕員アルトキハ郡長ニ於テ補充員中投票多數ノ順次ニ依リ之ヲ補闕シ

仍闕員ヲ生シタル場合ニ於テハ三十日以内ニ臨時補闕選舉ヲ行フヘシ但

其ノ補闕員ハ前任者ノ殘任期間在職スルモノトス

第五十四條 郡長助役及名譽職參事會員ハ第八條第四項第五項ニ掲載スル

職ヲ兼ヌルコトヲ得ス

郡長及助役ハ他ノ有給ノ職ヲ兼任シ又ハ株式會社ノ社長若ハ重役ト爲ル

コトヲ得

コトヲ得ス其ノ他ノ營業ハ府縣知事ノ認可ヲ得ルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

父子兄弟タルノ縁故アル者ハ同時ニ郡參事會員タルコトヲ得ス若其ノ縁故アル者郡長又ハ助役ノ任ヲ受クルトキハ其ノ縁故アル郡參事會員ハ其ノ職ヲ退クヘシ其ノ他ハ市制第十五條第五項ヲ適用ス

第五十五條 郡長及助役ハ三箇月前ニ申立ツルトキハ臨時退職ヲ求ムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ退隱料ヲ受クルノ權ヲ失フモノトス

第五十六條 名譽職參事會員ノ選舉ノ效力ニ就テハ郡參事會自ラ之ヲ決定ス

名譽職參事會員中資格ノ要件ヲ有セサル者アルトキハ其ノ職ヲ失フモノトス

本條第一項ノ事件ニ關シテハ第二十四條第二項第二十五條第一項第三項ノ例ヲ適用ス

第五十七條 郡ニ書記其ノ他必要ノ附屬員ヲ置キ其ノ員數ハ郡會ノ議決ヲ以テ之ヲ定メ郡長之ヲ任免ス

第五十八條 郡長ハ郡會ノ議決ヲ經テ臨時或ハ常設ノ委員ヲ置キ郡ノ公共事務ヲ分掌セシメ又ハ郡有財産及營造物ノ一部ヲ管理セシムルコトヲ得

委員ハ名譽職トシ其ノ選舉ノ方法及任期ハ郡會ノ議決スル處ニ依ル

第二款 郡參事會並郡吏員ノ職務權限及處務規程

第五十九條 郡參事會ノ職務權限左ノ如シ

一 郡會ノ權限ニ屬スル事件ニシテ其ノ委任ヲ受ケタルモノヲ議決スル事

二 郡會ノ權限ニ屬スル事件ニシテ臨時急施ヲ要シ郡長ニ於テ郡會ヲ召集スルノ暇ナシト認ムルトキ郡會ニ代テ議決スル事

三 郡會ノ議決シタル範圍内ニ於テ郡有財産及郡營造物ノ管理又ハ郡費ヲ以テ支辨スル事業ニ關シ必要ナル事項ヲ議決スル事

四 郡ノ收支命令會計及出納金庫ヲ檢查スル事

五 郡ノ權利ヲ保護シ郡ノ證書及公文書類ノ保管ヲ檢查スル事

六 外部ニ對シ郡ヲ代表シ郡ノ名義ヲ以テ訴訟及和解ヲ爲シ郡ノ權利義務ニ關シ他廳又ハ人民ト商議スル事

七 郡長ヨリ郡會ニ提出スル議案ニ付郡長ニ對シ意見ヲ述ヘ及會議ニ報告スル事

八 官廳ノ諮問ニ對シテ意見ヲ述フル事

其ノ他法律命令ニ依リ郡參事會ノ權限ニ屬スル事項

第六十條 郡參事會ハ郡長之ヲ召集ス

會員半數以上ノ請求アルトキハ郡長ハ郡參事會ヲ召集スヘシ

第六十一條 郡參事會ノ會議ハ郡會議員ノ外傍聽ヲ許サス但郡參事會ノ決議ニ依リ郡會議員ノ傍聽ヲ禁スルコトヲ得

第六十二條 郡參事會ハ名譽職參事會員半數以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス但同一ノ事件ニ付召集二回ニ至ルモ名譽職參事會員仍半數ニ滿タサルトキハ此ノ限ニ在ラス

郡參事會ノ議決ハ過半數ニ依ル可同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

議決ノ事件ハ之ヲ會議録ニ記載シ議長及名譽職參事會員二名以上之ニ署名捺印スヘシ

第六十三條 第三十四條第一項ノ規程ハ郡參事會ニモ亦之ヲ適用ス但同條ノ規程ニ依リ會員ノ數減少シテ第六十二條第一項ノ數ヲ得サルトキハ郡長ハ補充員ヲ以テ臨時之ニ充テ仍其ノ數ヲ得サルトキハ郡會議員ニシテ其ノ事件ニ關係ナキ者ヲ臨時ニ指名シ其ノ不足ヲ補充シテ第四十九條ノ定數ニ滿タシムヘシ

第六十四條 町村制ノ規程ニ依リ郡參事會ノ權限ニ屬スル事件ニシテ二郡以上ノ町村ニ交渉スルモノアルトキハ其ノ郡長ノ具狀ニ依リ府縣知事ニ於テ其ノ事件ヲ管理スヘキ郡參事會ヲ指定スヘシ二府縣以上ノ町村ニ交渉スルモノアルトキハ其ノ府縣知事ノ具狀ニ依リ内務大臣ニ於テ之ヲ指定スヘシ

第六十五條 郡長ハ郡政一切ノ事務ヲ指揮監督ス

郡長ハ法律命令ニ從ヒ國ノ行政並府縣ノ行政ニシテ郡ニ屬スル事務ヲ管理ス

郡長ハ郡會及郡參事會ノ議事ヲ準備シ其ノ議決ヲ執行ス

第六十六條 郡長ハ郡吏員ヲ監督シ助役及委員ヲ除ク外其ノ他ニ對シ懲戒處分ヲ行フコトヲ得其ノ懲戒處分ハ譴責解職及十圓以下ノ過怠金トス

但懲戒處分ヲ以テ解職セムトスル者ハ郡參事會ノ議決ヲ經ヘシ

郡長ノ懲戒處分ニ不服アル者ハ府縣知事ニ訴願シ府縣知事ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第六十七條 郡吏員及使丁其職務ヲ盡サス又ハ權限ヲ超ヘタルコトアルカ爲郡ニ對シ賠償スヘキコトアルトキハ郡參事會之ヲ裁決ス其ノ裁決ニ不服アル者ハ裁決ヲ交付シ又ハ之ヲ告知シタル日ヨリ十四日以内ニ府縣參事會ニ訴願シ府縣參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得但此ノ場合ニ於テハ郡參事會ハ假リニ其ノ財産ヲ差押フルコトヲ得

第六十八條 郡會若ハ郡參事會ノ議決其ノ權限ヲ超エ又ハ法律命令ニ背クト認ムルトキハ郡長ハ自己ノ意見ニ依リ又ハ監督官廳ノ指揮ニ依リ理由ヲ示シテ之ヲ再議ニ付スヘシ

前項再議ニ付スルモ仍其ノ議決ヲ改メサルトキハ郡長ヨリ府縣參事會ニ申立テ其ノ決定ヲ請フヘシ

衆議院議事速記録第十三號

明治三十年二月二十四日

郡制改正法律案

第一讀會

一六三

郡會若ハ郡參事會ノ議決公益ニ害アリト認ムルトキハ郡長ハ自己ノ意見ニ依リ又ハ監督官廳ノ指令ニ依リ理由ヲ示シテ之ヲ再議ニ付スヘシ  
前項再議ニ付スルモ仍其ノ議決ヲ改メサルトキハ郡長ヨリ府縣參事會ニ申立テ其ノ決定ヲ請フヘシ府縣參事會ノ決定ニ不服アル者ハ內務大臣ニ訴願スルコトヲ得

本條決定若ハ裁決ハ其ノ確定ニ至ルマテ執行ヲ停止ス但當該官廳ニ於テ停止ノ爲ニ公益ニ害アリト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラス

第六十九條 郡長ハ必要アル場合ニ於テハ期日ヲ定メテ郡會ノ中止ヲ命スルコトヲ得

第七十條 郡會若ハ郡參事會ニ於テ必要ノ收支ニ關シ否決シ又ハ不當ノ削減ヲ爲シタルトキハ郡長ハ自己ノ意見ニ依リ又ハ監督官廳ノ指揮ニ依リ其ノ理由ヲ示シテ之ヲ再議ニ付シ仍其ノ議決ヲ改メサルトキハ府縣知事ニ具狀シテ指揮ヲ請フヘシ但場合ニ依リ再議ニ付セスシテ直ニ府縣知事ノ指揮ヲ請フコトヲ得

第七十一條 郡會若ハ郡參事會召集ニ應セス若ハ成立セザルトキハ郡長ハ府縣知事ニ具狀シテ指揮ヲ請ヒ其ノ議決スヘキ事件ヲ處分スルコトヲ得郡會若ハ郡參事會ニ於テ其ノ議決スヘキ事件ヲ議決セス若ハ議了セザルトキハ前項ノ例ニ依ル

第一項ノ處分ハ次回ノ會議ニ於テ之ヲ郡會若ハ郡參事會ニ報告スヘシ第三十四條第二項若ハ第三十八條但書又ハ第六十二條第一項但書ノ場合ニ於テ全ク會議ヲ開クコト能ハサルトキハ第一項第三項ノ例ニ依ル

第七十二條 郡長ハ郡參事會ノ職權ニ屬スル事件ニシテ臨時急施ヲ要スル場合ニ於テ郡參事會成立セス若ハ之ヲ召集スル暇ナシト認ムルトキハ之ヲ專決シ次回ノ會議ニ於テ其ノ處分ヲ報告スヘシ

第七十三條 助役ハ郡長ヲ輔ケ庶務ヲ掌理シ郡長事故アルトキハ總テ郡長ノ事務ヲ代理ス

第七十四條 郡書記及郡吏員ハ郡長ノ指揮ヲ受ケ庶務ニ從事ス郡長ハ郡書記ヲシテ其ノ事務ノ一部ヲ臨時代理セシムルコトヲ得

第七十五條 郡書記ヨリ郡ノ出納管理者ヲ指定シ郡費ノ收支及其ノ他會計ノ事務ヲ掌ラシム但郡參事會ノ議決ヲ經テ出納管理者ヨリ身元保證ヲ徵スルコトヲ得

第七十六條 郡ノ事務ニ關スル庶務規程ハ府縣知事之ヲ定ム

第三款 給料及給與  
第七十七條 郡長助役其ノ他有給吏員及使丁ノ給料並旅費日當額ハ郡會ノ議決ヲ以テ之ヲ定ム

給料及旅費日當ノ支給方法ハ郡規則ヲ以テ規定スヘシ郡會ノ議決ヲ以テ郡長ノ給料額ヲ定メタルトキハ內務大臣ノ認可ヲ受クヘシ若之ヲ認可スヘカラスト認ムルトキハ內務大臣之ヲ指定スルコトヲ得

郡會ノ議決ヲ以テ助役ノ給料額ヲ定メタルトキハ府縣知事ノ認可ヲ受クヘシ若之ヲ認可スヘカラスト認ムルトキハ府縣參事會ノ議決ヲ以テ之ヲ指定スルコトヲ得

第七十八條 郡會議員名譽職參事會員及委員ニハ旅費日當ヲ給スルコトヲ得但其ノ支給額及支給方法ハ郡規則ヲ以テ規定スヘシ

第七十九條 名譽職員ニハ職務取扱ノ爲ニ要スル實費辨償ノ外勤務ニ相當スル報酬ヲ給スルコトヲ得但別ニ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス

第八十條 郡條例ノ規定ヲ以テ郡長及助役其ノ他有給吏員ノ退隱料ヲ設クルコトヲ得

退隱料ヲ受クル者官職又ハ府縣都市町村及公共組合ノ職務ニ就キ給料ヲ受クルトキハ其ノ間之ヲ停止シ又更ニ退隱料ヲ受クルノ權ヲ得ルトキ其ノ額舊退隱料ニ滿タサルトキハ其ノ差額ヲ給ス

第四章 郡ノ會計  
第八十一條 郡ノ權利義務ニ屬スル諸費及法律命令若ハ慣例ニ依リ郡ノ負擔トナル事件ニ關スル費用ハ其ノ郡ニ於テ之ヲ支辨スヘシ

第八十二條 郡ニ於テ積立金穀等ヲ設クルトキハ郡規則ノ規程ニ依ルヘシ

第八十三條 郡ノ支出ニ充ツル費用ハ郡有財産ヨリ生スル收入及其ノ他ノ收入ヲ以テ充ツルモノ、外郡內各町村ニ分賦ス其ノ分賦ハ各町村前年度(豫算ノ屬スル年度)前々年度直接府縣稅ノ徵收額ニ依ル但本條ノ分賦法ニ依リ難キ事情アルトキハ郡會ノ議決ヲ經テ特別方法ヲ設ケ內務大臣ノ認可ヲ得テ施行スルコトヲ得

各町村ハ其ノ賦課ヲ受ケタル額ヲ其ノ町村ノ豫算ニ編入シ其ノ町村ノ支出ト爲シ郡金庫ニ納ムヘシ

第八十四條 郡ハ郡有財産若ハ郡ノ營造物ノ使用ニ付又ハ特ニ一個人ノ爲ニスル事務ニ付使用料又ハ手数料ヲ徵收スルコトヲ得

第八十五條 郡ハ郡內ノ或部分ニ對シ特ニ利益アル事業ニ關シテ郡會ノ議決ニ依リ該部分ノ町村ニ對シ利益ノ厚薄ニ準シ其ノ負擔ヲ增課スルコトヲ得

前項ノ費用ハ夫役若ハ現品ヲ以テ之ヲ町村ニ賦課スルコトヲ得

第八十六條 郡ニ於テ徵收スル使用料、手数料其ノ他郡ノ公法上ノ收入ヲ定期內ニ納メサル者アルトキハ郡長ハ國稅滯納處分法ニ依リ之ヲ處分スヘシ其ノ督促及手数料ニ關シテハ郡條例ヲ以テ別段ノ規程ヲ設クルコトヲ得

本條ニ記載スル徵收金ノ追徵還付時效ニ就テハ國稅ニ關スル例ヲ適用ス

本條第一項ハ町村ニ對シテ適用スル限ニ在ラス

第八十七條 郡ハ其ノ負債ヲ償還スル爲若ハ天災事變等ノ爲已ムヲ得サル

支出又ハ郡ノ永久ノ利益トナルヘキ支出ヲ要スルニ方リ通常ノ歳入ヲ増加スルトキハ郡内町村ノ負擔ニ堪ヘサル場合ニ限リ郡會ノ議決ヲ經テ郡債ヲ起スコトヲ得

郡債ヲ起スノ議決ヲ爲ストキハ併セテ起債ノ方法利息ノ定率及償還ノ方法ヲ定ムヘシ  
郡債償還ノ初期ハ起債ノ時ヨリ三年以内トナシ年々ノ償還歩合ヲ定メ起債ノ時ヨリ三十年以内ニ還了スヘシ

歳入出豫算内ノ支出ヲ爲スカ爲必要ナル一時ノ借入金ニシテ其ノ年度ノ收入ヲ以テ償還スヘキモノハ本條ニ依リ限ニ在ラス但郡參事會ノ議決ヲ經ルコトヲ要ス

第八十八條 郡長ハ毎年其ノ翌年度ニ關スル歳入出豫算ヲ調製シ少クトモ年度三箇月前ニ郡會ノ議決ヲ經ヘシ但郡會計年度ハ政府ノ會計年度ニ同シ  
豫算ヲ郡會ニ提出スルトキハ郡長ハ併セテ其ノ郡有財産明細表ヲ提出スヘシ

第八十九條 郡長ハ必要ノ場合ニ於テ郡會ノ議決ヲ經テ既定豫算ノ追加若ハ更正ヲ爲スコトヲ得

第九十條 豫算ハ郡會ノ議決ニ付スル前郡參事會ノ審査ニ付スヘシ若郡長ト郡參事會ト意見ヲ異ニスルトキハ郡長ハ郡參事會ノ意見ヲ豫算ニ添ヘ郡會ニ提出スヘシ  
内務大臣ハ省令ヲ以テ豫算調製ノ式ヲ定メ並費目流用ニ關スル規程ヲ設グヘシ

豫算ハ其ノ議決ヲ經タル後直ニ之ヲ府縣知事ニ報告シ並郡慣行ノ公告式ニ依リ其ノ要領ヲ公告スヘシ

第九十一條 郡ノ費用ヲ以テ支辨スル事業ニシテ數年ヲ期シテ施行スヘキモノ又ハ數年ヲ期シテ其ノ費用ヲ支出スヘキモノハ郡會ノ議決ヲ以テ其ノ年間各年度ノ支出額ヲ定メ繼續費ト爲スコトヲ得

第九十二條 歳入出豫算中ニ豫備費ヲ設ケ郡長ニ於テ郡參事會ノ議決ヲ經テ豫算外ノ支出又ハ豫算超過ノ支出ニ充ツルコトヲ得但郡會ノ否決シタル費途ニ充ツルコトヲ得ス

第九十三條 郡ハ府縣知事ノ認可ヲ得テ市町村其ノ他公共團體若ハ一個人ノ事業ニ對シ寄附若ハ補助ヲ爲スコトヲ得

第九十四條 郡ハ郡規則ヲ以テ特別會計ヲ設クルコトヲ得  
第九十五條 郡ノ收支命令ハ郡長之ヲ發スヘシ  
第九十六條 郡ノ會計管理者ハ前條ノ命令アルニ非サレハ支拂ヲ爲スコトヲ得又其ノ命令アルモ支出ノ豫算ナキカ又ハ豫備費支出及費目流用ノ規程ニ依ラサルトキハ支拂ヲ爲スコトヲ得ス  
第九十七條 郡ノ出納及金庫ハ毎月例日ヲ定メテ検査シ及毎年少クトモ一回臨時検査ヲ爲スヘシ検査ハ郡長之ヲ爲ス臨時検査ニハ名譽職參事會員

一名以上ノ立會ヲ要ス  
第九十八條 決算ハ郡長會計管理者ニ命シテ會計年度後三箇月以内ニ調製シ郡參事會ノ審査ヲ經テ之ヲ次回ノ通常郡會ニ提出シ其ノ認定ヲ受クヘシ  
決算報告書並ニ之ニ關スル郡會ノ議決ハ郡長ヨリ之ヲ府縣知事ニ報告シ並決算ハ郡慣行ノ公告式ニ依リ其ノ要領ヲ公告スヘシ

第五章 郡組合  
第九十九條 特別ノ須要アル場合ニ於テハ府縣知事ハ府縣參事會ノ議決ヲ經内務大臣ノ許可ヲ得テ郡組合ヲ設置スルコトヲ得

郡組合ノ廢止若ハ變更ニ就テモ亦同シ  
第一百條 郡組合ヲ設置スルトキハ府縣知事ハ府縣參事會ノ議決ヲ經内務大臣ノ許可ヲ得テ郡組合會ノ組織事務ノ管理方法並其ノ費用ノ負擔方法其ノ他必要ナル事項ヲ規定スヘシ  
前項ノ外郡組合ニ就テハ郡ニ關スル規程ヲ準用ス

第六章 監督  
第一百一條 郡ノ行政ハ第一次ニ於テ府縣知事之ヲ監督シ第二次ニ於テ内務大臣之ヲ監督ス

第一百二條 此ノ法律中別段ノ規程アル場合ヲ除クノ外郡ノ行政ニ關スル府縣知事ノ處分又ハ府縣參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得

前項ノ訴願ヲ提起スルトキハ處分若ハ裁決ノ執行ヲ停止ス但當該官廳ノ意見ニ依リ其ノ停止ノ爲公益ニ害アリト認ムル場合ハ此ノ限ニ在ラス  
此ノ法律ニ規定スル訴願ハ處分ヲ爲シ又ハ決定書若ハ裁決書ヲ交付シタル日ヨリ十四日以内ニ其理由ヲ具シテ提起スヘシ

此ノ法律ニ規定スル行政訴訟ハ裁決書ヲ交付シタル日ヨリ二十一日以内ニ提起スヘシ  
行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得ヘキ場合ニ於テハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得ス

第一百三條 監督官廳ハ郡行政ノ法律命令ニ背戾セサルヤ其ノ事務錯亂滯塞セサルヤ否ヲ監視スヘシ監督官廳ハ之カ爲行政事務ニ關シテ報告ヲ爲サシメ豫算及決算等ノ書類帳簿ヲ徴シ並實地ニ就テ事務ノ現況ヲ觀察シ出納ヲ檢閲スルノ權ヲ有ス

監督官廳ハ郡行政ヲ監督スル爲ニ必要ナル命令ヲ發シ處分ヲ爲スノ權ヲ有ス  
第一百四條 第六十八條第七十條ノ場合ハ府縣知事ハ府縣參事會ノ議決ヲ經テ指揮スヘシ但歳入出豫算ニ係ルモノハ原案ノ金額以内ニ於テ適當ノ金額ヲ定メ指揮スルコトヲ得

第一百五條 監督官廳ハ郡ノ豫算中不適當ノ支出ト認ムルモノアルトキハ之ヲ削除スルコトヲ得其ノ支出ヲ削除シタル場合ニ於テハ之ニ相當スル收

入ヲ削除スヘシ  
第六百六條 郡會ノ解散ハ内務大臣之ヲ命ス此ノ場合ニ於テハ三箇月以内ニ

議員ヲ選舉スヘシ  
前項解散ノ場合ニ於テハ名譽職參事會員モ亦解職スルモノトス

第七百七條 左ニ掲クル事件ハ内務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ受クヘシ  
一 郡債ヲ起シ竝起債ノ方法利息ノ定率及償還ノ方法ヲ定メ若ハ變更ス

ル事但第八十七條末項ノ借入金ハ此ノ限ニ在ラス  
二 國庫ヨリ交付スル補助金ニ對シ支出金額ヲ定メ若ハ變更スル事

第八百八條 郡條例ノ設定ハ内務大臣ノ許可ヲ受クヘシ  
第九百九條 左ニ掲クル事件ハ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

一 郡規則ヲ設クル事  
二 使用料ノ手數料ヲ新設シ若ハ變更スル事

三 府縣ヨリ交付スル補助金ニ對シ支出金額ヲ定メ若ハ變更スル事  
第八十五條ニ依リ増課ヲ爲ス事

四 郡有不動産ノ賣却、交換、讓渡或實入書入ノ事  
五 積立金穀ノ處分ヲ爲ス事

六 繼續費ヲ定メ若ハ變更スル事  
第七百十條 府縣知事ハ郡長助役ニ對シ懲戒處分ヲ行フコトヲ得但懲戒處分

ハ譴責及過怠金二十五圓以下トス追テ其ノ懲戒法ヲ設クルマテハ左ノ例  
ニ從ヒ官吏懲戒例ヲ適用スヘシ

一 第一項ノ懲戒處分ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得  
二 郡長助役ニシテ職務ニ違フコト再三ニ及ヒ又ハ其ノ情狀重キ者又ハ

行狀ヲ亂リ廉耻ヲ失フ者又ハ職務舉ラサル者ハ懲戒裁判ヲ以テ其ノ  
職ヲ解クコトヲ得但懲戒裁判ニ依リ解職セラレタル者ハ退職料ヲ受

クルノ權利ヲ失フモノトス  
三 懲戒裁判ハ府縣知事其ノ審問ヲ爲シ府縣參事會之ヲ裁決ス其ノ裁決

ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得郡長ノ解職ニ係ル裁  
決ハ上奏シテ之ヲ執行ス

監督官廳ハ懲戒裁判ノ判決前吏員ノ停職ヲ命シ竝給料ヲ停止スル事  
ヲ得

第七百七章 附則  
第七百一十一條 郡内總町村ノ共有ニ屬スル財產及營造物ハ此ノ法律施行ノ日

ヨリ郡ノ所有ニ歸シ其ノ權利義務共同時ニ郡ニ移ルモノトス  
第七百一十二條 府縣制ヲ施行スルマテ府縣參事會ニ屬スル職務ハ府縣知事之

ヲ行フ  
第七百一十三條 島司ヲ置ク島嶼ニ於テハ別ニ勅令ヲ以テ其ノ制ヲ定ム

第七百一十四條 此ノ法律ニ依リ始メテ議員ヲ選舉スルニ付郡會及郡參事會ノ  
職務ハ郡長ニ於テ之ヲ行フヘシ

第七百一十五條 町村制施行ノ爲定メタル直稅ノ種類ハ此ノ法律ノ施行ニ關シ

テモ亦之ヲ適用ス  
第六百十六條 此ノ法律施行ノ後ハ町村制第二百二十六條第三ニ定ムル附加稅

徵收ノ許可ハ地租ハ四分一ヲ超過スルトキ之ヲ要スルモノトス  
第七百十七條 此ノ法律ハ町村制ヲ施行シタル各府縣ニ施行スルモノトス其

ノ施行ノ時期ハ府縣知事ノ具申ニ依リ内務大臣之ヲ定ム  
第七百十八條 明治十一年第十七號布告郡區町村編制法其ノ他此ノ法律ニ抵

觸スル法規ハ此ノ法律ヲ行フ地ニ關シテハ其ノ效力ヲ失フモノトス  
第七百十九條 内務大臣ハ此ノ法律施行ノ責ニ任シ之カ爲必要ナル命令ヲ發

布スヘシ  
○吉本榮吉君(二百五十六番) 府縣制ト同一ノ特別委員ニ付託シタイと思ヒ

マス  
○工藤行幹君(百九十七番) 此郡制ノ改正法律案ハ是マテ出シタノトハ餘リ

澤山違フコトハゴザイマセヌ、唯昨年ノ此議院ガ議決ニナリマシタ所ハ、  
郡長ノ公選ト云フコトガナカッタ、ソレニ郡長ノ公選ト云フ意味ヲ加ヘテ出

シタ位ノコトデ大イナル違ハゴザイマセヌカラ、故ニ委員ニ付シテ其結果ニ  
依ッテハ又大イニ論ズルコトモアリマセウケレドモ、先ヅ唯今ハソレダケデ

ゴザイマスカラ、別段説明ハ致シマセヌ、直チニ委員付託說ニ同意シマス  
○議長(鳩山和夫君) 委員說ガ成立シテ居リマスカラ、委員說ニ就イテ採決

シヤウト思ヒマス、此案ハ府縣制改正法律案ト同一ノ委員ニ付託スルト云フ  
コトニ御異議ハゴザイマセヌカ

(異議ナシ異議ナシト呼フ者アリ)  
○議長(鳩山和夫君) 然ラバ其通決定致シマス、次ハ本日ノ日程第十一家祿

賞典祿處分法案  
第十一 家祿賞典祿處分法案(深山篁)

第一讀會ノ續(特別委員)  
○多田作兵衛君(百二十番) 私ハ委員長トシテ特別委員會ノ經過結果ヲ御報

道申上ゲマス、委員會ハ二ツノ議案ヲ託セラレテ居ルノデゴザイマシテ、一  
ハ家祿賞典祿處分法案、一ハ家祿賞典祿整理處分法案、此二ツノ法案ニ就キ

マシテ、都合六回程委員會ヲ開キマシテ、其決議ノ結果、報道書ヲ以テ諸君  
ニ御配布ナッタ譯デゴザイマス、委員會ガ本案ノ大體ヲ可ト致シマシタ理由

ハ、復祿請願者ハ不當ノ處分ヲ受ケマシテヨリ、二十數年間ノ間、請願ノ目  
的ヲ達スルタメニ種々様々ノ運動ヲ致シマシテ、實ニ艱難辛苦ヲ致シ、今日

實ニ進退谷マルト云フ場合ニナツテ居ルノデゴザイマス、或ル縣ノ如キハ、  
既ニ運動費ノタメニ數万円ヲ費シタト云フコトモ聞クノデゴザイマス、實ニ

憫然ノ至リト存ジマス、就キマシテ委員會ノ多數デハ、本法ヲ一日モ早ク制  
定致シマシテ、彼等ヲシテ安堵セシメ、ソレノ産業ニ就カシメタイト云フ

精神ヲ以テ可ト致シマシタ、ソレカラ各條ニ就キマシテ審議致シマシタ末、

(一八)

ソレ、修正ヲ加ヘマシタノデゴザイマス、其修正ノ理由ヲ申上ゲマス、  
 新タニ三條ト云フモノヲ加ヘマシタノデゴザイマス、此三條ハ舊神官ニ對シ  
 マスコト、寺領ヨリ配當祿ヲ受ケテ居リマシタモノニ對シテ、一箇條ヲ設ケ  
 ラセタイト云フ精神ヨリ、一箇條ヲ加ヘマシタノデゴザイマス、ソレカラ深  
 山君ノ議案ノ第三條、報告書ノ第四條ノ但書ヲ削リマシタノデゴザイマス、  
 此但書ヲ削リマシタ理由ハ、此但書ノ精神ヲ非ト致シタ譯デハゴザイマセヌ、  
 本法ヲ制定致シマシテ施行致ス場合ニ相成リマシレバ、ドウシテモ大藏省令  
 ヲ以テ施行細則ヲ數箇條設ケネバナラヌコト、存シマス、故ニ……  
 ○議長(鳩山和夫君) 此日程ノ第十一、第十二、第十三ハ同時ニ議題ニシテ、  
 委員長カラ同時ニ報告シタ方ガ便宜ト考ヘマスガ、御異議ガゴザイマセヌカ  
 (異議ナシ異議ナシト呼フ者アリ)

○議長(鳩山和夫君) 即チ第十一、第十二、第十三ヲ合セテ議題ト致シマス

第十二 祿高整理公債法案(深山登皓 君外三十四名提出) 第一讀會ノ續(特別委員 長報告)

第十三 家祿賞典祿整理處分法案(目 黑貞治君外三名提出) 第一讀會ノ續(特別委員 長報告)

○多田作兵衛君(百二十番) 唯今申上ゲマス通ニ、施行細則ヲ設ケネバナラ  
 又譯デゴザイマス、故ニ此但書ノ精神ハ施行細則ニ讓ルト云フ譯デ、決シテ  
 不必要ト云フコトヲ以テ削ツタ譯デハゴザイマセヌ、ソレカラ其他ノ修正  
 ハ、此第三條ヲ設ケマシタメニ修正ヲ致シタ譯デゴザイマス、故ニ、一々  
 御報道ハ致シマセヌ、尙ホ一言申上ゲテ置キタウゴザイマスノハ、小鷹狩君  
 外三名ヨリ少數ノ意見ガ出テ居リマス、是ニ對シテハ委員會多數ノ意見ヲ私  
 ヲリ報道致シテ、少數者ノ意見ノ非ナル所ヲ述ベテ置カバネナラヌノデゴザ  
 イマス、少數者ノ意見デゴザイマス、此起點ヲ版籍奉還ノ後ヨリト、斯ウ  
 ナツテ居リマスガ版籍奉還マデ遡ルト云フコトニ相成リマス、調査上非  
 常ナ困難ガ起ルト考ヘマス、如何ト申シマス、版籍ヲ奉還致シマシテ、後ニ  
 行政官達ヲ以チマシテ、各藩ニ祿平均ヲ爲ス所ノ大改正ヲナシテ居ルノデゴ  
 ザイマス、其大改正マデモ立入りマシテ、當不當ヲ是ヨリ取調ベルト云フコト  
 ニナリマシタナラバ、大イナル混雜ガ起ルデアラウト思ヒマス、唯今請願致  
 シテ居ル所ノモノヲ取調ベテ見マス、深山君ノ如ク藩制施行後ト云フ不  
 當處分ノ願ガ多數デゴザイマス、大多數デゴザイマス、其以前ニ遡ル所ノ請  
 願ハ少數デゴザイマス、唯今ハ少數デゴザイマスルケレドモ、之ヲ遡ツテ調  
 査スルト云フ場合ニナリマシタナラバ、是ヨリ先キ……ドレダケ多數ノ不  
 當處分ノ請願ガ出テ來ルカモ計ラレヌト云フノガ、委員會ノ多數デゴザイマ  
 シテ、深山君ノ案ヲ贊成シ、小鷹狩君ノ版籍奉還ト云フノニ反對ヲ致シマシ  
 テ、決議ノ結果、大多數ヲ以テ深山君ノ案ノ方ニ決シタ譯デゴザイマス、尙  
 ホ終ニ至ツテ一言申シマスノハ、審査會モ十分念ヲ入レマシテ調査ヲ致シタ

コトデゴザイマスルカラシテ、會期モ切迫致シタ場合、何卒今日ハ、速ニ本  
 案ノ大體ヨリ逐條マデヲ御贊成下サラシコトヲ希望致シマス、又此祿高整理  
 公債法案ノ御報道ヲ致シマスルニ就イテハ、モウ多言ヲ要シマセズ、家祿賞  
 典祿處分法案ヲ可ト致シマスル所ノ結果ヨリ此案ハ大體、逐條共ニ贊成ヲ  
 致スコトニ決シマシタ

○工藤行幹君(百九十七番) 議長

○議長(鳩山和夫君) 工藤君、少數者ノ意見ガアリマスガ、其報告後デ宜シ  
 ケレバ其時ニ……

○工藤行幹君(百九十七番) 此多數者ノ意見ニ就イテチヨット質問ヲシテ置  
 キタイノデゴザイマス

○議長(鳩山和夫君) ソレナラ宜シウゴザイマス

○工藤行幹君(百九十七番) 此案ノ通ニナルト云フト、凡ソドレ位ノ金額デ  
 殘ラズ目的ヲ達スルニ宜イト云フ御見込デゴザイマス、其金額ヲ伺ヒタイ

○多田作兵衛君(百二十番) 工藤君ノ質問ニ答ヘマス、此事ニ就イテハ、發  
 案者タル所ノ深山君ニ就キマシテ、色々質問ヲ致シマシタノデゴザイマ  
 ス、所ガ深山君ノ見込デゴザイマス、唯今各府縣ヨリ請願致シテ居ル高  
 ハ、凡ソ七百萬圓内外デアルト云フコトデゴザイマス、所ガ本法ヲ制定致シ  
 マシテ、證據書類ニ依ツテ調査ヲ致シマシタナラバ、唯今ノ請願者ノ中ニモ、  
 餘程除クヤウナモノハ出來ハシマスマイカト云フノ見込デゴザイマス、而シ  
 テ見ルト七百萬圓以内ヲ以テ處分ハ出來ルコトデアラウト云フノ見込デゴザ  
 イマス

○工藤行幹君(百九十七番) モウ一應伺ヒタイ、是ハ唯議員ダケノ御見込デ  
 ゴザイマスルカ、或ハ當局者アタリニデモ御質シニナツテ、是ダケアツタラ  
 宜カラウト云フ様ナコトデゴザイマス、其確ナル所ヲ今一應伺ヒタイ

○多田作兵衛君(百二十番) 當局者ニモ色々答辯ヲ求メマシタガ、此金高ノ  
 所ニ於キマシテハ、十分ナル當局者ノ答辯ヲ得タ譯デハゴザイマセヌ、委員  
 多數ノ見込デゴザイマス

○守屋此助君(百二十二番) チヨット質問ガゴザイマス、今ノ金高ノ七百萬圓  
 ノ説明ハ分リマシタガ、サスレバ不當處分ヲ受ケテ居ル全國ノ士族ハ、皆請願  
 ニ出テ居ルモノトノ御見込ニナツテ居ルノデゴザイマス、委員會デハ……

○多田作兵衛君(百二十番) マダ殘ツテ居ラウト委員會デハ見テ居リマス  
 ○守屋此助君(百二十二番) 然ラバ七百萬圓ト云フ數ハ、極ク空漠ナ御考ヘ  
 ナンデスナ

○多田作兵衛君(百二十番) 左様デゴザイマス、唯今請願ヲ致シテ居リマス  
 ケレドモ、其中デ證據不十分ヲ以テ除カレル様ナモノガアルデアラウ、而シ  
 テ見ルト、新ニ請願者ガ出來マシテモ、凡ソ七百萬圓内外ナラバ宜カラウ、  
 併ナガラ未定ノコトデゴザイマス、故ニ、千萬圓ト云フノ公債ノ高ヲ定メルト

云フ精神デアツメノデアリマス

○守屋此助君(百三十一番) ツレカラモウ一ツ御尋スルノハ、少數者ノ意見ニ反對デアルト云フコトヲ仰セラル、理由ノ中ニ、土族ニナツテ居ル人ガ不當ナ處分ヲ受ケテ居ルノヲ、之ヲ引戻シテヤルト云フ事柄ヲスルノヲバ少數者ノ意見トスレバ、續々願フテ來ル人ガ澤山アルカラ煩雜デアルカラ、ツレ故ニ是デ打切ツタト云フ御説明ノヤウニ承知シマシタガ、サウ云フ譯デアリマスカ

○多田作兵衛君(百三十番) 尙ホ申述ベテ置キマスガ、藩制施行ト云フノハ、現政府ニナリマシテ統一ヲナシタ始メゴザイマスルカラ、此版籍奉還ト云フ場合マデハ、マダ舊領主ノ時デゴザイマス、故ニ其名義上ヨリモ打切りマシタノデゴザイマス、最前申シタノハ、施行ヲスル際ニ當ツテ混雜スルト云フ理由ニ就イテ申シタノデアリマス

○守屋此助君(百三十一番) 分リマシタ

○工藤行幹君(百九十七番) モウ一應伺ヒマスガ、此二千万圓ト云フノハ、例ヘバ若シ是デ足ラヌ時ニハ、又一千五百万圓ニナツテモ何シデモ、此通施行スル積デアリマスカ、一千万圓ト云フモノガ盡キテ仕舞ヘバヤラヌト云フノデアリマスカ

○多田作兵衛君(百三十番) 調査委員ノ考ヘテ居マシタ所デハ、一千万圓アレバ十分ト云フ見込デゴザイマシテ、一千万圓以内七百万圓内外デ處分ガ出來ルト云フ見込デゴザイマス、併ナガラ實際此法律ヲ制定致シマシテ取調ノ結果、千万圓ヲ超エルト云フコトニナレバ、政府ガ更ニ法案ヲ出シテ本會ノ可決ヲ經ンナラヌ見込デゴザイマス

(小鷹狩元凱君演壇ニ登ル)

○小鷹狩元凱君(百番) 私ガ極メテ不辯ノ者ガ、諸君ニ暫クノ間清聴ヲ煩スルノハ、實ニ本意ニ背ク譯デゴザイマスルガ、彼ノ唯今ノ委員長カラ御報告ニナリマシタ藩制施行ト云フコトニナリマシテハ、殆ド何ノコトヤラ期限ノ立テ方ガ分リマセヌカラ、私共ガ豫テ出シテ置キマシタ、版籍奉還ニ依リマシテ、行政官カラ彼ノ知判事ニ向ヒマシテ、明治二年ノ六月二十五日ニ達セラレマシタ所カラ起點ヲ起サナケレバナラヌト云フノガ、私共ノ少數者ノ意見デゴザイマスルカラ、暫ク私ガ申上ゲマスルコトヲ御聴ニナリマシテ、私ガ必ズ之ヲ固執スルト云フ譯デハゴザイマセヌガ、私ガ此時初カラズツト私ノ身體ガ經過致シテ居リマシテ、逐一目撃致シテ居ルカラ唯理論ニ於キマシテモ、私ハ一步モ負ケナイ積デゴザイマスガ、實際ニ於キマシテモ彼ノ版籍奉還ト云フ所カラ起點ヲ起サナケレバナラヌト私ハ考ヘテ居リマスカラ、ドウカ暫クノ間御清聴アラントト希望致シマス、其前ニチヨット唯今工藤君カラ御尋ニナリマシタコトニ就イテ、私ハ一ツ申シテ置クコトガゴザイマスルガ、此藩制施行後ニナツタ所ガ、藩制施行後ノガ彼ノ深山君ノ案ノ如キ方ノ御調ベニナリマシタ所ニ依レバ、藩制施行後ノモノガ六百五十一万圓程

金ガアルノデゴザイマス、此六百十萬圓ノ内デモデゴザイマス、私ガツレツレ見マシタ所ニ依レバ、半分以上ハ藩制施行後ノモノト雖モ渡スベキモノデナイト私ハ斷言致シマス、其箇條ハ茲デ申スト煩シウゴザイマスカラ申シマセヌガ、ツレコソ斯様ナ者ニ渡スト云フコトニナリマスレバ、大案レデゴザイマスガ、藩制施行後ノ者ノ請願ガ六百五十一萬圓餘リゴザイマス内モ、先ヅ三百圓取レバ宜イ位デ、又私共ノ方ガドレ丈アルカト言ヘバ、今日ノ請願ニ依レバ僅カ十九萬圓デアリマスデゴザイマスルカラ、到底千万圓ヲ要スト云フヤウナコトハ私ハ決シテナイト考ヘテ居リマスカラ、私ガ御答ヲスル限リデゴザイマセヌガ、私ノ意見ヲ述ベマスル前ニチヨット其事ヲ申シテ置キマス、ツレカラ少數意見者ノ法案ハ、諸君ノ御手許ヘ配ツテアルコト、存ジマスカラ、是ハ一々讀ミマセイデモ宜カラウト存ジマスカラ、ツレハ讀上ゲマセヌ、要シマスルニ唯少數意見者ト委員會ノ多數ノ所デ見マスルト、起點ト申ス所ノ違ガアルダケノコトデゴザイマスカラ、私ガ起點ト云フコトダケヲ陳ベテ置カウト考ヘマス、デ、全體此祿制ノ沿革ト云フモノヲ調ベマスルノニ、何レノ處カラ調ベルカト言ヘバ、祿制ト云フコトハ、明治ノ歴史ニハ必ズクツ附イテ居ルコトデゴザイマス、明治ノ歴史ヲ能ク考ヘ、祿制ノ沿革ト云フコトヲ考ヘマスレバ、ドウ致シマシテモ期限ヲ彼ノ版籍奉還後ニ依リマシテ、改祿ヲシタト云フモノニ依ラナケレバナラヌ、彼ノ多數ノ人ノ御極メニナリマシタ所ノ藩制施行ト云フモノハ、動モスレバ此時カラ、此藩制施行ノ日カラ新政府ニ向ツテ政權ガ歸シタコトデアツテ、ツレカラ後ニハ初テ此諸侯——從前ノ諸侯、即チ藩知事ガ勝手我儘ニシヨツタコトガナクナツテ、ツレヨリ以前ハ即チ此藩制施行以前ニハ、藩知事限リ勝手ニヤリ居ツタノデアツテ、即チ此藩制施行カラガ祿ノコトニ於テハ、新政府ノ方ニ取ツテカラニ、執行フタト云フコトヲ唯今委員長ノ御報告ノ中ニモアツタ様ニ存セラレマスガ、是ハ大キニ間違ノコトデアラウト思フ、ナゼナレバ藩制施行ノ中ニ成程祿ノコトガアル、藩制ト云フモノハ明治三年ノ九月ノ十日ニ發セラレタモノデアツテ、ツレヲ能ク展ゲテ御覽ニナレバ能ク分ルコトデアラウト思フ、藩制施行ノ中ニ祿ニ關スルコトハ如何様ナルコトデアアルカト言ヘバ、功ガアツテ祿ヲ増ス者ト、罪ガアツテ祿ヲ削グ者ト唯二箇條ノコトガ、少數者ノ意見デアアル、此少數者ノ、成程藩制ト云フモノヲ施行セラレタ後ニハ、功ト罪トノ二ツニ係ルモノガ、藩知事ノ手限リデハ出來ナイコトデゴザイマスルケレドモガ此通常ノ祿ノ處分ト云フモノハ、藩制ノ前モ藩制ノ後モ、明治四年ノ所謂廢藩置縣マデハ、之ヲ朝廷ヨリ致シマシテ藩知事ニ御任セニナツタコトデゴザイマスルカラ、其事ヲ諸君ガ能ク御納得ニナツタ以上ハ、唯通常ノ分ト申シマスルモノハ決シテ藩制ニ關係ハ持タナイ、藩制ト云フモノハ唯功ト罪トノ二ツデアルト云フコトガ、御氣ガ付クコトデアラウト思フ、成程彼ノ二十七年ニ國事犯ノ復祿ノコトガゴザイマシタガ、諸君モ此内ニ——私共ガ議員デモナラヌ時デゴザイマシタガ、御協賛ニナツテ御存ジノコト、

思ヒマスガ、其明治二十七年ノ二十號ト申シマシテモ、是ハ即チドシナモノ  
 デアルカ、國事犯デアル、所謂藩制ノ功ガアツテ祿ヲ増シ、罪アツテ祿ヲ削  
 グト云フ部分ノ内デアリマスカラ、是ハ丁度藩制カラ起算ヲ立テルト云フハ  
 當リ前ノコトデ、是カラ致シマシテ全體、是迄請願者ハ行政官ニ向ヒマシテ  
 ハ續々出シテ居リマスケレドモガ、議會ニ向ヒマシテ彼ノ請願ガ澤山ニナツ  
 タト申シマスノハ、明治二十七年ノ二十號ノ法律ト云フモノガ導火線ニナツ  
 タ譯デス、ソレ等ヲ多數ノ諸君ハ、若モ是ガホンマノ新朝廷新政府ニ於テツ  
 レカラガ一般ノ祿ヲ制シタモノト御認メニナツタモノデアアルマイカト思フ、  
 是等ハ私ガ申シタ通大間違ノコトデアアル、唯國事犯ニ係ル罪アツテ祿ヲ削イ  
 ダモノバカリノコトヲ申シタモノデゴザイマスカラ、決シテ——一般ノ祿ヲ  
 有スルモノニハ何ノ關係モナイコトデアアル、ソレヨリカ一體此版籍奉還ト云  
 フコトハドウ云フ譯デアアルカト言ヘバ、是ハ皆サン御承知ノ通、是迄諸侯ガ  
 有シテ居ル所ノ封土ヲ願ツテ返上シタ者モアレバ、仰付ケラレテ返上シタ  
 モノガ明治二年六月十七日デアアル、程ナク同月二十五日ニ、行政官ノ達ヲ以  
 チマシテ、僅ニ七八日スルト、行政官カラシテ今度從前ノ諸侯ニ向ヒマシテ  
 ハ、現石高ノ十分ノ一ヲ以テ其家ノ家祿トセヨ、又一門以下ノ者ハ皆士族ト  
 稱ヘテ、其者ノ祿ハ改祿トセヨト云フノガ、是ガ即チ明治政府トナツタ時ノ  
 始デゴザイマシテ、是ヨリ外ニハ祿ノ制定ト云フモノハ私ハナイト思フ、ソ  
 レ故ニ或ハ藩ノ手回シノ宜イ者ハ、速ニ彼ノ明治二年ノ六月二十五日ノ行政  
 官ノ達ニ依ツテ速ニ改祿ヲシタ處モゴザイマセウシ、手回シノ惡ルイ者ハ、  
 或ハ翌年或ハ明治三年ノ藩制施行後ニ至ツタカ、私ハサウ云フモノハナイ  
 ト思ヒマスガ、中ニハアルト云フ人モアリマスカラ、先ヅ、ミソレニ致シテ、  
 彼ノ改祿ノコトハ明治三年九月十日後ニ於テセラレタ者ガアルカ知ラヌガ、  
 併ナガラ何ガ起點デアアルカト云ヘバ、改祿ハ總テ此明治二年ノ六月二十五日  
 ノ行政官ノ達ガ基礎トナツタモノデアアル、サレバコソ此深山君アタリノ御案ヲ  
 拜見致シマシテモ、今度ノ第三條ニナツテ居ル所ニモ「第一條及第二條ノ祿高  
 ハ明治二年六月二十五日改祿ニ關スル行政官達同年十二月二日太政官布告ニ  
 基キ」云々トアツテ祿高ト云フモノハ皆是ニ依ルト云フノハ何デアアルカト  
 云フト、畢竟此版籍ノ奉還ト云フコトゴザイマシテ、ソレニ依ツテカラニ  
 此祿ト云フコトヲ改メテ定メタコトデゴザイマスカラ、基礎ヲ是ニ採ラズシ  
 テ、外ニ祿ノ改マツタト云フコトハナイデアアル、即チ後、ニ至ツテ色々ノ  
 誤ガ生ジタト云フハ、總テ此達ヨリ致シマシテ起ツタコトデゴザイマスカラ、  
 私ガ思ヒマスノニ、實ニ一般ノ士族ノ祿ニハ罪デモナシ功デモナシ、通常ノ  
 モノニハ關係ノナイ所ノ藩制ヲ以テ起點トセラレルノハ、實ニ縁モナシ、ユ  
 カリモノナイコトデ、譯ノ分ラヌコトデアリマス、ソレヨリ一年前デゴザイマ  
 スガ、彼ノ行政官ノ達ニ依レバ、實ニ理論ト致シマシテモ十分ノ證據モアリマ  
 スシ、唯今ノ私ガ申シマシテ通、改祿ハソレカラ定マツタモノデゴザイマス、  
 是モ私ハドウ致シマシテモ、此改祿ト申スモノハ復祿ノコトニ就イテ處分ヲ

致シマスニハ、ドウシテモ版籍奉還ニ依ツテ、彼ノ明治二年ノ六月ノ二十五  
 日ノ行政官ノ達ニ依ラナケレバナラヌト云フコトヲ申スノデゴザイマス、ソ  
 レカラ又可笑シイ話ハ、是ハ委員長ノ御報告ノ中ニハナカッタケレドモ、委  
 員會中ニハ度々聽イタコトデアアル、ドウ云フコトデアアルカト云フト、成程理  
 論ニ於テハ免カウモナイ、免カウハナイケレドモガ、貴族院ガソレデハ折合  
 ハヌト云フ御話ガアル、ドウモ衆議院ノ議員ガ法律案ヲ制定スルト云フノニ、  
 理論モ顧ミズ全體ノコトモ分ラズシテ、貴族院ガソレデハ、通ラヌト云フコト  
 ニ於テハ、驚入ツタコト、思フ、成程貴族院ノ議員ニ於テ左様ナコトヲ言ッ  
 タ人ガ一二ハアルカ知ラヌガ、ソナナ馬鹿氣タコトヲ多數貴族院議員ガ言フ  
 答ガナイト思フ、縱シヤソナナコトヲ言ハレルニモセヨ、渡スベキ者ニ渡シ、  
 渡スベカラザルモノニハ渡サヌト云フコト道理ト思ヒマスノニ、彼ノ明治三  
 年ノ九月十日以後ニスレバ、ドレニモ是ニモヤルケレドモガ、ソレヨリ以前  
 ノ者ニ對シテハヤラヌト云フ有様ガアルノハ、誠ニ遺憾千萬ノコトデアリマ  
 シテ、此衆議院ガ法律ヲ定メルニ於キマシテハ、誠ニ道理ノナイコト、私ハ  
 考ヘル、ソレカラモウ一ツ話ガアル、ソレハ今委員長ノ御言葉ノ中ニモアツ  
 タ様デゴザイマスガ、彼ノ藩制施行後ニナルト調ガ分ラヌト云フ、是ハドウ  
 云フコトデゴザイマセウカ、藩制ト云フモノニナツテカラ、ソレカラ後ニ祿  
 ト云フモノガ、總テノ帳面ガ藩制ト云フコトカラ、一般ノ士族ノ帳面ガ今  
 度ノ新政府ニ出來タト云フナラバ宜シウゴザイマスガ、サウシヤナイ、ソレハ  
 藩知事ノ手加減ニナツタコトデアアル、サウスレバ證據ガ藩制施行後ノモノニ  
 ナイト仰ツシヤレバ、無論前ノ者ニモゴザイマスマイシ、又前ノ者ニアルト  
 スレバ、矢張後ノ者ニモナケレバナラヌ、何トナレバ藩制施行後カラ政權ガ  
 新政府ニ歸シタト云フ御話ガゴザイマスケレドモガ、決シテサウ云フ譯デハ  
 ナイ、此祿ト云フモノハ、前カラズツト版籍奉還ヨリシテ、廢藩置縣ト云フ  
 迄ハ、藩知事ノ手許ニアツタモノデゴザイマスカラ、調査ガ出來ヌト云フコト  
 ハ驚入ツタコト、思フ、又私ハ斷言スル、ソレヨリ前ニ戻ツタラサウ云フモ  
 ノハ少イガ、ドノ位ノモノガ出ルカ知ラヌト云フガ、是ハ間違デアアル、何ト  
 ナレバ是ハ批准ノタメニ私ガ御話申シマスノデゴザイマスカラ、私ガ一番能  
 ク知ツタ所デ申シマセウ、私ノ藩ハ廣島藩デゴザイマスガ、廣島藩ヨリシテ  
 今日復祿請願ノコトニ就キマシテ幾人程請願ヲ致シテ居ルカト云フト、人數  
 デ云ヘバ二千人程請願ヲ致シテ居ルコトデアアル、其中デ藩制施行後ノモノニ  
 致シマシテハ、殘ラズノモノガ殆ド藩制施行後ノ者デアアル、藩制施行以前ニ  
 溯ルト幾人アルカト云ヘバ、唯ノ四十八デアアル、其四十八ト一般ノ者トドチ  
 ラガ採ルベキモノデアアルカト云ヘバ、ドチラニモ私ハ復祿ヲ與ヘラレンコト  
 ヲ望ミマスガ、本人共ノ比較カラ言ヘバ四十人ノ方ガ權利ガ厚イト思フ、ソレ  
 ハ諸君ノ御手許ニモ復祿ノ請願書ノ寫ガ回ツテ居リマスカラ、此處デハ述ベマ  
 セヌガ、左様ナ譯デゴザイマシテ、私ノ藩ニ於キマシテハ、二千人ノ中ノ者  
 版籍奉還ノ方ニ溯レバ幾人アルカト云ヘバ、タツタ四十八デアアル、ソレカラ

モウ一ツ反對ノ方カラ仰ッシヤルガ如ク、幾ラ出テ來ルカ知レヌト仰ッシヤルガ、若モ私ノ廣島藩カラ 此藩制施行以前ニ溯リマシテ、版籍奉還後ノ方ニ取ルト云フコトデ多數ノ人ガ出テ來タラバ、是ハ私ハ虛偽ノ事ヲ申立テルコト、思フ、廣島藩ニハ最早私ハ斷言致シマスガ、四十人ヨリ餘計ハ決シテナイ、藩制施行後ニナルト、今カラマダノ權利ノ薄イ者ガ幾人カ出テ來ルト思フドコロデハナイ、是ハ私ガ一藩ノコトヲ斷言致シマス、故ニ廣島藩一藩デサヘモ左様ナコトデアリマスカラ、他ノ諸藩モ同様デアラウト考ヘマス、故ニ今カラ彼ノ藩制施行後ニ溯レバ澤山出テ來ルト云フノハ、是ハ大キナ間違ノ御考デアハアルマイカト思フ、前ニ私ガ申上ゲマシタ如ク、此請願ト云フモノニ於キマシテハ、一寸今ノ御調ベガ私共ノ今ノ反對ノ方ノ御調ベニナツテ居リマスモノデ、版籍奉還ヨリ 藩制施行以前ニ於ケル金高ハドノ位カト思ヘバ、僅ニ十九萬圓餘デアリマス、藩制施行ヨリ以後ノ調ハ幾ラカト云ヘバ六百四十五萬圓餘デアリマス、請願ノ數ハドウデアアルカト云ヘバ、藩制施行以前ハ僅ニ九ツデアアルガ、以後ハ幾ツカト申セバ百十一アル、金高デ申セバ僅デ、況ヤ復祿ヲ理ノアル者ニ與ヘ、理ノナイ者ニ與ヘナイト云フノハ、諸君ガ御同感ノコトデアアラウト私ハ考ヘルコトデアアル、ソレ故ニ私ハ飽マデモ版籍奉還ト云フコトヲ基礎ト致シマシテ、彼ノ明治二年六月二十五日ノ行政官ノ達ニ依リマシテシナケレバ、實ニ想ハヌ所ノモノガ不幸ヲ得マシテ、權利ノ薄イモノガ幸福ヲ得ルト云フヤウナコトガ段々アルコト、私ハ考ヘル、ソレカラモウ一ツ茲ニ諸君ニ御諮リマシナケレバナラヌコトガアル、ソレハ何デアアルカト申シマスレバ、マダ日程ニハ出マセヌケレドモ、國事犯ノ復祿處分ノコトガ出テ居リマス、其國事犯ノ方ノ日程ト云フモノハ、彼ノ明治二十七年二十號ヲ改正シテ、區域ヲ廣クシヤウト云フコトハ、無論私ハ此事ニ同意ヲ表シテ、ドウシテモ成立タセル積リデアリマス、所ガ、其方ニハ矢張私共ニ反對ノ御方ガ、今日多數意見ヲ御述ベニナツタ方ガ、國事犯ノ方ニ向ッテハ藩制施行デナク、ズツト王政維新ニ溯ルト云フ、一方ノ通常ノ罪ニ係ルモノハ、藩制施行ヨリ垣ヲ仕切ルト仰ッシヤルノハ、實ニ何ノコトデアラウカ、私ハ其邊ノコトニ於キマシテ、解釋ニ苦シムコトデアアル、諸君ノ多數ハ、彼ノ太政官ノ明治九年ノ布告百二十三號ヲ以テマシテ、此後ハ如何ナル事情ガアツテモ、決シテ何號ノ達ニ依ツテ是マデ願ハナイモノハ復祿ヲシナイト云フ達ガゴザイマス、明治九年太政官ノ布告ト云フモノハ、政府ガ是マデ金城鐵壁トシテ復祿請願者ヲ牽掣シタモノデアアル、然ルニ諸君ガ權利ノ十分アルモノト認メナガラ、藩制施行後ト云フ垣ヲ作ツテ、是ヨリ前ノヤルベキ者ニヤラヌト云フノハ、ドウモ不備極メタ法律ヲ作ツテ、唯世上ノ聞エノ善カレガシト仰ッシヤルノハ私ハドウ云フモノデサウ云フコトヲ仰ッシヤルカ、一ノ疑ヲ存シテ居ルコトデアアル、況ヤ此總數ヲ申シマスレバ、先年以來頻ニ復祿ノコトニ就イテ、是ヨリ外ニ復祿ハナイト云フ評判デ、一時議場ヲ大騒ギヲサセタノハ、藩制施行後ノ方デゴザイマス、是ハ今日聞ク所ニ依

レバ權利ノ薄イモノト、開イテ居ル、サウ云フ様ナモノデゴザリマスカラ、藩制施行後ノモノト雖モ、能ク吟味シナケレバヤラナイ、ソレハ一々此處デ申スハ煩シイコトデゴザリマスカラ申シマセヌガ、前申上ゲタ如ク、今日ノ處ニ於キマシテハ、六百五十一萬圓ト雖モ、三百萬圓位ハ私ハ事ニ依ツタ減ズルカモ知レヌト思フ、然ラバ前ノ方ノモノハ皆取レルカト云ヘバ、彼ノ十九萬幾ラト云フモノハ皆取レルモノデハナカラウ、併ナガラ此モノガ皆取レルトシタ所ガ、僅カ十九萬圓……權利ノアルモノヲ、彼ノ藩制施行ト云フ垣ヲ作ツテ押除ケテ仕舞フト云フコトハ、殆ド何ノ事デアアルヤ、私ハ此道理ニ於キマシテハ、甚ダ了解ニ苦シムコトデアアル、故ニ私ハ最早是ダケデ此壇ヲ降ルコトデゴザイマスルガ、ドウカ諸君ハ私ガ此度少數意見ト致シマシテ、此ニ出シマシタ所ノ彼ノ「版籍奉還ノ後明治二年六月行政官ノ達五百七十六號ニ依ツテ家祿賞典祿ヲ有スヘキモノ及云々」ト云フ方ニ、ドウカ御贊成アラントトヲ希望致シマス、ソレカラ此次ノ簡條ニ於キマシテモ、色々處々手入レヲ致シマシタコトハゴザリマスガ、何ニモ多數ノ方ノ御案トハ違ウタコトハゴザリマセヌ、唯一條ニ少シ改メタメニ、文章ダケノ修飾デゴザリマシテ、事柄ニ於テハ何ニモ關係ヲ持ツコトハゴザリマセヌデ、ドウカ版籍奉還ト云フ方ニ溯リマシテ、御贊成アラントトヲ希望致シマス、サリナガラ御質問ガゴザリマスレバ、烏滸ガマシイコトヲ申サヤウデゴザイマスガ、私ハ決シテ此コトニ就イテ、ドンナ御難問デモ御答致ス積デアリマスカラ、ドウカ御贊成ヲ願ヒマス

〔採決々々〕ト呼フ者アリ

○工藤行幹君(百九十七番) 議長……

〔無用々々〕ト呼フ者アリ

○工藤行幹君(百九十七番) 無用デハナイ、必要デアアル、此案ニ對シテ政府ノ意見ハ如何デアアルカ、政府委員ノ御説明ヲ得タイ、此案ニ御同意デアアルカ、財政上ノ繰合ガ付クコトデアアルカ、御説明ヲ願ヒヨイ

○議長(鳩山和夫君) 政府委員田尻稻次郎君

〔政府委員大藏次官法學博士男爵田尻稻次郎君演壇ニ登ル〕

○政府委員(男爵田尻稻次郎君) 唯今工藤君ノ御話デアリマスルガ、勿論此案ハ、政府ハ成ラウナラバ引込マシテ貫ヒタイト云フ意見デアアル、是ハ是マデ種々年來論ニナリマシテ、政府ノ方デモ餘程取調ベテ居マスノデアリマシテ、最早之ヲ進ンデ取調ベマシタ所ガ、格別新シイ結果ヲ得ナイ、併ナガラ今年ハ餘程御議論モアリマスルカラ、モウ一應政府ノ内デ十分ナ調査ヲ致シテ見ヤウ、是マデモ決シテ調査ヲ怠ツタコトハナイガ、實ハ調査ヲスルカラ此案ヲ引込マシテ下サレト、一遍ハ申シタノデゴザイマス、先ヅ申サバ十分ナコトヲ申上ゲルト、是ハ引込マシテ下サレテ、サウシテ政府ノ内デ、モウ一應調査ヲシヤウト斯ウ云フ地位デアリマス

〔採決々々〕ト呼フ者アリ

○議長(鳩山和夫君) 採決致シマス、日程十一ニ就イテ採決シマス、此案ノ第二讀會ヲ開クベシトスル方ハ起立ヲ願ヒマス

起立者 多數

○議長(鳩山和夫君) 多數ト認メマス、即チ第二讀會ヲ開クコトニ決シマス

○多田作兵衛君(百三十二番) 本會モ、大分會期ガ切迫仕掛ケテ居リマスカラ、貴族院ニ回シテ本年ハ十分ニ貴族院ノ議ヲ請ヒタイカラ、直チニ今日ニ第二讀會ヲ開クヤウニ致シタイ

○工藤行幹君(百九十七番) 反對致シマス、此大問題ヲ直チニ第二讀會ヲ開クト云フコトハ、委員諸君ハ分ッテ居リマセウガ、他ノ者ニ至ッテハ詳ク取調ベテ居ラヌカラ、是非共定期ノ規則ニ依リ、二日間ヲ隔テ、第二讀會ヲ開クコトヲ希望シマス

(賛成々々)ト呼フ者アリ

○議長(鳩山和夫君) 採決シマス、直チニ第二讀會ヲ開クト云フコトニ同意ノ諸君ハ起立ヲ願ヒマス

起立者 多數

○議長(鳩山和夫君) 多數ト認メマス、即チ直チニ第二讀會ヲ開キマス

家祿賞典祿處分法案(深山聳皓君外三十八名提出) 第二讀會

(守屋此助君演壇ニ登ル)

○守屋此助君(百三十二番) 滿場諸君

○議長(鳩山和夫君) 第二讀會デアリマスガ、全部議題ト爲シマス

○守屋此助君(百三十二番) 此案ハ既ニ第二讀會ニ移リマシテ、ソレデ委員會ノ少數者ノ意見ヲ是ナリトスルカ、多數者ノ意見ヲ是ナリトスルカ、斯ウ云フコトヲ論ズル範圍ハ唯今ノ時デアアルノデ、ソレデ其場合ニ於キマシテ私ノ愚案ノアルコトヲ述ベテ、諸君ノ御清聽ヲ煩ス積デアリマス、ソレデ大凡此王政維新ノ際ノ出來事デアッテ、粗漏過失ト云フヤウナコトデ、世ノ中ノ事デ不公平ノコトナドガ出來テ居ルノハ、維新草創ノ際デアッタカラト云フコトデ、先ヅ免ニ角ニソレハ泣入りニ眼ヲツブッテ、不公平ノ處分ヲ受ケテ居ラヌト云フ衆議院ノ意見デアラナラバ、ソレヲ以テ同一ノ取扱ヲシナケレバナラス、又維新ノ際ノ處分ノ仕方ガ惡イモノハ引直サウト云フ方針デアラナラバ、ドコ迄モ引直ス方針ヲ執ラナケレバナラヌトス様ニ私ハ考ヘル、世ノ中ノ政治ノ惡シキ政治ノ數ミアル中ニ、公平ヲ缺クト云フ程政治ノ惡イ政治ハタントナイト考ヘル

○議長(鳩山和夫君) 守屋君ノ今ノ發議ハ、少數者ノ意見ニ賛成デゴザリマス、贊成者ガ二十名アルデゴザイマスカ、アレバ議題トナシマス

(賛成々々)ト呼フ者アリ又二十名アルト呼フ者アリ

(三)

○議長(鳩山和夫君) 成規ノ賛成ガアルト認メマスカラ、議題ト爲シマス

○守屋此助君(百三十二番) ソレデ前申シマスル如ク、天下ノ政治ハ不公平ト云フコト程大ナル惡シキ政治ハ先ヅ私ハナイト考ヘテ居ル、平等ニ維新ノ際ノ事柄ガ時ノ有司ノ過失、或ハ自己ノ過失ニ依ッテ得ベキ權利ヲ得ナカッタト云フ、又ハ平等ニ泣入りト云フコトニスルトナレバ、ソレデ自カラ其筆法デ平仄ガ合フ譯デアアル、サウデゴザリマスカラ、其不公平ノ處分ヲ受ケタ人モ、吾モ人モ云フコトデ諦メモ附クデゴザイマス、然ル所ガ其際ニアッテ一部分ハ救濟策ヲシテヤル、時ノ有司ノ過失若クバ自己ノ怠デ、得ベキ權利ヲ得ナカッタモノニ救濟策ヲ與ヘテヤルガ、他ノ一部分ノモノハ與ヘテヤラヌト云フヤウナ繼子扱ニスル、此繼子扱ヲ受ケル人ノ不平ハ如何デアリマス、此人丈ノ不平ニ止マレバ宜シウゴザイマスガ、天下萬衆ガ如何ニ觀ル、衆議院ノ仕方ハ如何デアアル、アレハ公平ヲ缺ケタ政治ヲスル、斯様ナ批難ヲ受ケルトノ恐ガアル、議會ノ一舉一動ハ、苟モ公平ナラシコトヲ望ミマスノハ私ノ宿論デアリマス、此論法ヨリ推シマスレバ、如何ニ此事ガ決定ヲ告ゲルカ、多數者ノ意見ト、少數者ノ意見ト、ドッチガ是ナルモ、多數者ノ御意見ハ如何ニアルカト云フト、天下ハ不平デアアル、請願者ノ人カラ來タモノハ、ソレハ多數者ノ仰ッシヤル方ノ意見ニシヤウト云フコトヲ、請願杯ニ來テ運動スル人ハ其方ガ數ガ多イ、少數者ノ仰ッシヤル方ハ運動スル人ガ少イ、神聖ナル衆議院ノ議決ガ院外ノ人ノ如何ニ依ッテ決スル、斯様ナコトニナッテハ、諸君如何デアリマス、諸君ト吾々ト立ッテ居ル衆議院ノ鼎ノ輕重ヲ伺ヒタイト、斯様ナ議論ガ出テ來ルデアラウ(笑聲起ル)サウデアリマスカラ、私ハ運動者ノ多數少數ハ眼中ニ決シテ置クニ及バナイ、如何ニスレバ公平ニスレバ宜シイト云フコトヲヤルガ宜シイ、ソレデ私共モ成ラウコトナラバ、維新ノ際ノ此士族ニ對スル處分ト云フコトハ、五百万圓ヤ六百万圓デ出來ルコトナラバ、ドウカ私ハ處分ガシタイノデアアル、然ル處ガ先刻カラノ御取調ニ依リマスルト、今請願シテ居ルモノモ玉石混淆デアアルガ、ソレヲ土臺ニシテ、六百幾十万、マダ來テ居ルノガ來テ願ッテ居ル者モ玉石混淆デアアルカ列人モアル、サウシテ見ルト、六百万圓カ七百万圓デ、免ニ角處分ガ附クノデアアル、ソレカラ唯今ノ小鷹狩君ノ少數者ノ意見ヲ聽クニ、版籍奉還ノ時トスルト、藩制施行ノ時トスルト、サータイシメタ金高ハ區別ガナイ、併ナガラ私ノ考デハ金高ノ多少ニ依ッテ版籍奉還ノ時ト區別スルカ、若クハ藩制施行ノ時トスルカト云フコトヲ申スノデナイ、苟モ維新ノ際ノコトニ就イテ、士族ニ不公平ノ處分ヲシタノガアルカラ、ソレニ手ヲ著ケテ救濟スルナラ、均シクスルト云フノデゴザイマス、ソレデサウ致シマセスト、アノ時ノモノガ藩制施行ノ時カラト判然タル理窟ガナイ、委員長ノ理窟ヲ承リマスレバ、何デアアルカト云フニ、版籍奉還ノ時カラトスルト、澤山人ガ出テ來ルカラト云フノデアアル、ソレナ

ラバ衆議院ノ議決ハ損得ノ問題トナツテ、正邪ノ問題デハナイノデアアル、之ヲ採ルノガ此議案ニ採ツタ家藏賞典處分法案ニ就イテ、不公平ノ處分ヲ受ケタモノヲ直スト云フノガ、是デアアル、非デアアル、是デアアルヨリ直サナケレバナラヌト思フタナラバ、ドコノマデモ此方針ヲ貫クガ宜シイ、是マデニスレバ何ボデ濟ムト算盤ヲ彈キ、是マデニスレバ金ガ澤山掛ルカラ、不公平ノ處分ヲ受ケタ初ノヤツハ救濟シテヤラヌガ、其後ノモノハ院外ノ運動ガ多イカラヤルト云フコトニナツテハ、私ノ考ハ神聖ナル議場ノ神聖ヲ保ツコトガ出來ナイト考ヘマスルカラ、何處マデモ私ハ少數者ノ意見ヲ贊成致スモノデアリマス

〔深山聳峙君演壇ニ登ル〕

○深山聳峙君(二百六十六番) 諸君、此處分法案ニハ、私モ委員ノ一人デアリマスルカラ、先刻來成ルベク言ハヌ積リテ居リマシタケレドモ、彼ノ少數者ノ報告ガアリマシテ以來、尙ホ守屋君ヨリ縷々反對ヲ述ベラレマシタカラ、黙止スルコトガ出來マセヌ、故ニ唯一言其要旨ヲ述ベテ置キタイト考ヘマス、小鷹狩君ノ御説ヲ伺ヘバ、無論此多數者ノ報告ハ道理ニ適ハヌモノ、如ク申サレタデアリマス、又自己ノ少數ノ報告ハ實ニ正當デアアル、至當ノ理窟デアルト言ハレタ、是ハマア反對ヲセラレテ、自己ノ案ヲ貫徹セントスレバ、從ッテ人ヲ非難セネバナラヌコトデアラウト考ヘマスルガ、所デス、私共ノ意見ト、而シテ其小鷹狩君等ノ御意見ト違フ所ノ要點ト云フモノハ、申スマデモナク、私共ノ提案ハ起點ヲ藩制施行以後、即チ明治三年九月十日、之ヲ根據トシテアルノデアアル、小鷹狩君ノ方ハ版籍奉還以後、即チ明治二年六月二十五日ヲ以テ起點トスルコト云フ御意見デアアル、即チ起點ダケガ違フノデアアル、外ニ何ニモ違フ所ハナイ、斯クマデモ藩制施行ノモノハ道理ナキ所ノ案デアアル、又版籍奉還ニスルノガ最モ正理デアアルト云フ程ノモノデハ決シテナイ、即チ私共ガ版籍奉還ニ讓ラント欲スレバ讓リタイノデアアル、併ナガラ讓ルコトノ出來ナイ事情ガアルカラデアアル、藩制施行後ニシタノデアアル、根據タルヤ何カト云ヘバ、道理ガアル、如何トナレバ、明治三年九月十日ニ藩制施行、即チ藩制ト云フモノヲ發布シテ、而シテ其藩制施行ノ藩制ノ第六項ニハ斯ウナツテ居ル「功アツテ祿ヲ増シ罪アツテ祿ヲ褫ク云々」ト云フコトガアル、一切ノコトハ勅裁ヲ請フベシト云フコトニナツテ居ル、ソコデアリマスカラ、其罪ヲ犯サナイデ、終始忠良ノ者ニシテ祿ヲ殺ガレル道理ハナイ、然ルニ其當時ノ藩官吏ハ、又ハ廢藩後ノ當局者ハ、此第六項ニ背イタ所ノ勅裁モ請ハナイデ徒ラニ處分ヲシタラデアアル、所謂全部ノ給與スベキ所ノモノヲシナイデ、給與ヲシナイデ不當處分ヲ致シタモノデアアル、或ハ終身祿ヲ貫フベキ所ノモノガ、年限祿シカヤラナカッタト云フ者モアル、又年限祿ノ者ハ悉皆ヤラヌト云フ者モアル、是レ即チ立派ニ藩制ト云フ政令一途ニ歸シタル所ノ法律ガアツテ、其法律ノ條項ニ背イタ所ノ處分ヲシタモノデアアルカラ、無論是ハ不當處分デアアル、故ニ此不當處分訂正ナサウト云フ了簡デアアル、

故ニ此起點ヲバ即チ藩制施行ト云フコトニ致シタノデアアル、是ガ道理ニ適ハヌト云フコトハ恐クハナカラウト考ヘマス、併ナガラ非難ヲスレバ、先刻小鷹狩君ノ言ハレタ通「功アツテ祿ヲ増シ罪アツテ祿ヲ褫ク云々」一切勅裁ヲ請フベシト云フコトガアルガ、其書イテアル外ノコトハ構ハヌト云フコトニヘンテコノ理窟ヲ御附ケナサルガ、恐クハ罪アツテ祿ヲ殺ガレル者デモ、勅裁ヲ請ハナケレバ祿ヲ剝グコトハ出來ナイノデアリマス、罪ナキ者ノ祿ヲ殺ガレル道理ハナイ、左様ナヘンテコノコトハナイ、併ナガラ法律ニハ變例ガアルカラ、或ハ變例ト認メラレタカ知レナイ、併ナガラ是等ノコトハ決シテ反對スルト云フノ眼中カラ見レバ、昨年一昨年以來、絶對的ニ此問題ニハ政府ガ反對スルコト云フノ例ヲ以テ小鷹狩君ガ彼ノヘンテコノ非難ヲナサルト考ヘル、ケマシタガ、彼ノ例ヲ以テ小鷹狩君ガ彼ノヘンテコノ非難ヲナサルト考ヘル、併ナガラ變例ヲ以テ見タナレバ畢竟分ラヌコトデアアル、而シテ版籍奉還ニ溯ルコトハ出來ナイノハ何デアアルカト云ヘバ、是ハ申スマデモナク、各藩ガ生殺與奪ノ權ヲ持ツテ居ル時デアアル、ウレバ各藩共ニ區々ノ處分ニナツテ居ル、小鷹狩君ノ言ハレタ如ク、實ニ惘然ナル者モアルカモ知レマセヌ、豈獨リ此小鷹狩君ノ言ハレタ所ノ四十名デアリマスカ、其僅々タル數ノミナラヌト思ヒマス、各地ニモアルカモ知レマセヌ、然レドモ當時ハ生殺與奪ノ權ハ各藩ガ持ツテ居ルガタメニ、サウ云フ不都合ナ處分ハ枚擧スルニ違ナカッタデアラウト考ヘル、然ラバ之ヲ何故ニ處分セヌカト云フ非難ガアルカモ知レマセヌ、所ガ、御案内ノ如ク、當時デアツテハナカク、各藩共ニ區々ニ、所謂規定ナキ所ノ處分デアアルカラ、今日之ヲ一定ノ法律ヲ以テ處分ヲナサントスルニハ、恐クハ出來ナイト考ヘル、何故トナラバ、先キニ二十七年ノ二十號ノ法律ニモ理由書ニ書イテアル通り、藩制施行以前ニ溯ツテ各藩ガ區々處分ヲ致シタモノヲ、今日一定ノ法律トシテ處分スルニハ、畢竟ナサントスルモ遂行ノ途ガナイ、故ニ此規定ヲ明治九年九月十日ト大部分ヲ書イテアルデハナイカ、併ナガラ之ヲ妄信シテ版籍奉還ニ溯ラント云フノデアハナイ、吾々ノ信ズル所ハ今日ハ此請願ニ於テハ、大多數ノモノハ即チ此藩制施行以後立派ニ法律規定ガアルニモ拘ラヌ、當時ノ當局者ハ不都合ニモ此不當處分ヲ致シタモノデアアルカラ、今日出願者ノ大部分ガ九分九厘マデ網羅スル所ノモノニ依ツテ處分スレバ出來易イコトデアアルカラ、適當ノ法律ト認メタノデアアル、而シテ又版籍奉還ト云フコトニ致セバ、今日ハ少數ノ成程一部分ノ請願デアアルケレドモ、今後はガ今日ハ不服ヲ稱ヘテモ、若シ是ガ版籍奉還以後ニスルト云フコトニスレバ、實ニ限リナキ出願ガ出テ來ララウト思ヒマス、併ナガラ財政ガ許セバ、其時機ガ來ラレバ、又其時機ニ依ツテ處分スルコトガ出來ルガ、今日緩急ノ別ヲ云ヘバ、取りモ直サズ藩制施行以後、即チ法律ノ規定ガアルニモ拘ラヌ、不當處分ヲシタモノハ、第一ニ改メテスルガ適當ト認メタ外ナラヌ、而シテ今一言申シテ置キタイ、ソレハ何デアアルカト云ヘバ、小鷹狩君カラノ法律ニ依リマスレバ、ドウモ版籍奉還ト云フコトハ措

イテ、藩制施行以後ニ起點ヲ致シマシタ所デ、實ニ澤山ノコトデアアル、何故ナレバ殆ド倍ニナラウト云フ考ヘデアアル、ソレハ何故デアアルカト云ヘバ、此少數者ノ報告ニスレバ、是マデ沒祿シテ以來、即チ明治九年ノ百八號ノ法律實施マデノ間ニ給與不足ト云フモノガアルガ、此給與不足ト云フモノヲヤル

ト云フコトニナツテ居ル、然ラバ丁度今日六百万若クハ七百万ノ金額デアアルレバ、之ヲ倍ニスルモ或ハ足ラヌコトガアリハシナイカト云フ懸念ガアル、併ナガラ道理アルモノハ、畢竟其金額ニ依ルト云フノハ是ハ道理デアアル、理窟デアアル、併ナガラ是等ハ申スマデモナク、此給與致サナイデ、此不當處分ヲシタ當時ニ在ツテハ、最モ彼等ガ給與受クベキ權利ガアツタモノト言ハザルヲ得ヌ、併ナガラ今日ニ至ツテハ、是ガ權利ト云フコトデアアルナレバ、法廷ニ訴ヘテ請求ヲセネバナラヌコトニナリマセウガ、デ、今日ハ先ツ事實

權利デアアルケレドモ、今日ハ權利ト云フ程ニハ申スコトガ出來ナイト考ヘル、ソレデアリマスカラ、特殊ノ處分デモヤラナケレバナラヌデアアル、然ラバ此特殊ノ處分ニ對シテ、是マデ一合ノ不足ナリ、沒祿シテ以來百八號ノ法律ヲ實施スルマデノ間ニ給與不足ト云フマデヲ、悉ク給與スルト云フ如キコトハ、餘リ贅澤ニ過ギハシナイカト考ヘマスル、所謂今日ノ請願ハ哀願的

ノ請願デアアル、是ニ對シテ是マデノ給與不足ヲ悉クヤルト云フコトハ過分ニ過ギルト考ヘマス、故ニ吾々ハ一時給與不足ハヤラヌト云フノデ、例ヘバ十石ヲ貰フテ居ルモノガ、或ハ全部給與受ケヌノデ居ルモノナレバ、其十石ニ對シテモ金祿公債證書ヲ、即チ百八號ノ第一ノ率ニ依ツテヤラウト云フノデアアル、又幾分ノ給與受ケテ不足シテ居ル者ハ、其不足額ニ依ツテヤラウト云フノデアアル、累年ノ給與ノ不足ト云フノハヤラヌ積リデアリマス、然ルニ此少數案デハヤラウト云フコトノ御意見デアリマスカラ、其邊ハ違フノデアリマス、然ルニモ拘ラズ、是モ非モナク多數者ノ報告ヲ道理ナキモノトスルノハ、道理ナキモノト考ヘル

〔討論終結〕採決「質問ガアリマス」無用々々ト呼フ者アリ  
○議長(鳩山和夫君) 草刈親明君ガ質問ガアルト云フコトデアリマス カラ、草刈君ニ發言ヲ許シマス

○草刈親明君(百四十四番) 私ハ此案ニ就イテハ兩方ニ贊成ノモノデアリマス、諸君ハ蟻蚌ノ争ハ漁夫ノ利ナルト云フコトニ就イテ私ハ實ニ痛歎ニ堪ヘナイ次第デアアル、唯ソレハ私ハ多クノ士族ニ此目的ヲ達セシメテ、ソレデ足ルノデゴザイマスカラ、ソレヲ政府委員ニ質問ヲ致スノデアアル、先刻政府委員ハ當時政府ハ復祿セシムベキ士族アルヤナシヤト云フコトニ就イテ御取調中デアアル、然ルニ此度ノ委員會ニ於テ、其請求ガアツタヲ特ニ進デ取調ヲスルト云フ田尻君ノ御意見デゴザリマシタ、此御意見ハ前議會ニ於テ政府委員ガ述べラレタ所トス、全然反對致シマシテ誠ニ吾々ハ満足シタ答辯デアアル、要スルニ唯今田尻君ノ言ハレタ所ハ、復祿セシムル士族ガアラウト云フ見込ガ附ケバ、本案ニ贊成スル、ソコデ復祿セシムベキ士族ガアラウト云フ見込

ガ附イタナラバ、少數者ノ意見ノ方ガ御贊成デゴザリマスカ、多數者ノ意見ガ御贊成デゴザリマスカ、其點ヲフヨット、サウシテ政府ガ御贊成デアルト云フ方ニ、私ハ贊成ヲシヤウト思ヒマス

〔政府委員大藏次官法學博士男爵田尻稻次郎君演壇ニ登ル〕  
○政府委員(男爵田尻稻次郎君) 草刈君ニ御答致シマスルガ、勿論前申上ゲタノハ田尻君ノ御意見デハナイ、政府ノ意見デアアルデアアル、政府ノ意見ハ前ニ申上ゲタ通デ、尙ホ進デ取調ヲ致スト云フ積リデアリマスガ、ソレデモ先ツ此案ハ御免ヲ蒙リタイ、實ハ此案ガナクテモモウ一層進シテ取調ベマシテ、叮嚀ニモモウ一應進シテ取調ベマシテ、サウレテヤルベキ者ガアルト云フナラバ、政府自ラ切ツテ出ヤウト云フ考ヘデアアルノデ、アリマスカラ、ドチラニモ贊成ヲ致サヌノデアリマス

〔討論終結〕ト呼フ者アリ、「贊成々々」ト呼フ者アリ  
○議長(鳩山和夫君) 討論終結ガ問題ニナツテ居リマスカラ、採決致シマス、討論終結ニ同意ノ諸君ノ起立ヲ求メマス

起立者 多數  
○議長(鳩山和夫君) 多數ト認メマス、第一條ニ就イテ採決シヤウト考ヘマス、第一條ニ就キマシテハ少數者ノ意見ト云フモノガ出テ居リマスカラ、是ヨリ先キニ採決シヤウト考ヘマス、即チ配付ニナツテ居ルカラ皆サン持ツテ居ルト考ヘマス、就イテハ第一條、少數者ノ意見ニ同意ノ諸君ノ起立ヲ求メマス

起立者 少數  
○議長(鳩山和夫君) 少數ト認メマス——次ハ委員ノ修正ニ就イテ採決致シマス

○多田作兵衛君(百三十番) 修正說デハナイ、原案デアリマス  
○議長(鳩山和夫君) 修正ガアリマス——但書ニアリマス、サウスルト第一條ハ但書ダケニ委員ノ修正ガアル、此委員ノ報告ニ同意ノ諸君ノ起立ヲ求メマス

起立者 多數  
○議長(鳩山和夫君) 多數ト認メマス——第一條ハ委員ノ報告通決定致シマス——第二條ハ

〔異議ナシ異議ナシ〕ト呼フ者アリ  
○議長(鳩山和夫君) 第二條ハ原案ニ修正ガアリマセヌ、第二條ハ御異議ガナケレバ原案通決シタモノト認メマス、次ニ第三條、是ハ委員會ニ於テ新タニ一條ヲ設ケラレタモノデアリマス

〔異議ナシ異議ナシ〕ト呼フ者アリ  
○議長(鳩山和夫君) 委員會ノ報告ニ同意ノ諸君ノ起立ヲ求メマス

起立者 多數  
○議長(鳩山和夫君) 多數ト認メマス、委員會ノ修正通決定致シマス、修正

起立者 多數  
○議長(鳩山和夫君) 多數ト認メマス、委員會ノ修正通決定致シマス、修正

起立者 多數  
○議長(鳩山和夫君) 多數ト認メマス、委員會ノ修正通決定致シマス、修正

起立者 多數  
○議長(鳩山和夫君) 多數ト認メマス、委員會ノ修正通決定致シマス、修正

起立者 多數  
○議長(鳩山和夫君) 多數ト認メマス、委員會ノ修正通決定致シマス、修正

ノ第四條、是モ委員會ノ修正ガアリマス  
〔異議ナシ異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(鳩山和夫君) 可決シタモノト見テ宜ウゴザリマスカ  
〔異議ナシ異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(鳩山和夫君) 委員會ノ報告通決定致シマス、第五條、是ニハ委員會ノ修正ト、少數者ノ意見ト二ツゴザイマス、少數者ノ修正ニ就イテ先ツ採決致シマス——少數者ノ意見ニ同意ノ諸君ノ起立ヲ求メマス  
起立者 少數

○議長(鳩山和夫君) 少數ト認メマス、委員會ノ報告ニ就イテ採決致シマス  
〔異議ナシ異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(鳩山和夫君) 委員會ノ報告通決定シタモノト認メマス、第六條、是ハ委員會ノ修正ノミデゴザリマス  
〔異議ナシ異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(鳩山和夫君) 委員會ノ修正通決定シタモノト認メマス、第七條、此七條ト六條トノ間ニ、少數者カラ新タニ七條トシテ設ケルモノガ出テ居リマス  
〔異議ナシ異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○小鷹狩元凱君(百番) 最早第一條ガ極リマシタ以上ハ、少數者ノ方ハ別ニ御採リニナラヌデモ宜シイ、マルデソレニ關係シテ居ル事柄デゴザリマスカ  
○議長(鳩山和夫君) 少數者ノ意見ハ以下凡テ少數ニ決シタモノト見テ宜ウゴザイマスカ  
〔異議ナシ異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(鳩山和夫君) サウスルト附則第七條、是ハ委員會ノ報告ガゴザイマス、委員會ノ修正通決定シタモノト見テ宜ウゴザイマスカ  
〔異議ナシ異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(鳩山和夫君) 委員會ノ報告通決定致シマス  
○多田作兵衛君(百二十番) 直チニ三讀會ヲ開カレンコトヲ希望致シマス  
〔賛成々々〕ト呼フ者アリ

○議長(鳩山和夫君) 直チニ三讀會ヲ開クコトニ同意ノ諸君ノ起立ヲ求メマス  
起立者 多數

○議長(鳩山和夫君) 多數ト認メマス、直チニ三讀會ヲ開キマス

家祿賞典祿處分法案(深山聳岬君外三十八名提出) 第三讀會

○章刈親明君(百四十四番) 私ハ此場合ニ字句ノ修正ヲ致シタイト思ヒマス、第一條、第二條、第三條ニ「家名繼承人」ト云フコトガアル、惟フニ繼承人ト云フコトハ、相續人ト云フコトヲ意味シタデアラウト、斯様ニ信ジマス、果シテ然リトスレバ今日ハ法律上一定ノ用語ガゴザリマシテ、繼承人杯ト云フヤウナ馬鹿氣タ文字ヲ使ッテ居ル時ヤナイ、即チ向後ノ如キハ「家名繼承人」ト改メタイ、ソレカラモウ一ツハ「第七條」ノ二字ヲ削ル、是亦附則ニ

第七條ト云フコトヲ書クコトハナイ、是等ノコトハ法律ノ成案上頗ル體面ニ關スルコト、信ジマスカラ、所謂少數黨派多數黨派ノ如何ニ拘ラズ御賛成アラシコトヲ希望致シマス  
〔賛成々々〕ト呼フ者アリ

○議長(鳩山和夫君) 賛成ガアリマスカラ草刈君ノ動議ハ成立シタモノト認メマス——繼承ト云フ文字ハ草刈君、二條トドコデスカ、此法案ニ繼承人ト云フ字ハ一條、二條其他ノ場所ニモアリマスカラ……  
○章刈親明君(百四十四番) ソコデ唯今モ申シタ通、一條、二條、三條皆ソレヲ「承繼人」トスルノデス  
○議長(鳩山和夫君) 「承繼人」ト改メルト云フコトニ同意ノ諸君ノ起立ヲ求メマス  
起立者 多數

○議長(鳩山和夫君) 多數ト認メマス  
〔少數々々〕ト呼フ者アリ

○小室重弘君(二百九十八番) 改メル必要ハナイ、今迄モサウナッテ居ルカラ……今ノ宣告ハドウナッタノデス  
○議長(鳩山和夫君) 尙ホ附則ニ條ヲ附ケルト云フコトヲ草刈君カラ出テ居リマスガ、是ハドウデゴザイマスカ、他ノ例ヲ調ベテ改ムルト云フコトヲ議長ニ御任セ下サルコトハ出來マセヌカ  
〔異議ナシ異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(鳩山和夫君) 本案ヲ以テ確定ト致シテ御異議ハアリマセヌカ  
〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(鳩山和夫君) 然ラバ本案ハ確定致シマシタ、是ガ確定スルト日程ノ第十三ハ自然消滅シタモノト認メマスガ、ソレデ御異議ハアリマセヌカ  
〔異議ナシ異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(鳩山和夫君) 日程第十二ニ就イテ採決シヤウト思ヒマス  
〔異議ナシ異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(鳩山和夫君) サウスレバ日程第十二ニ就イテ採決シマス、本案ノ第二讀會ヲ開クニ同意ノ諸君ハ起立ヲ求メマス  
起立者 多數

○議長(鳩山和夫君) 多數ト認メマス、第二讀會ヲ開クニ決シマシタ  
○深山聳岬君(二百六十六番) 直チニ二讀會ヲ開カレンコトヲ希望シマス  
〔賛成々々〕ト呼フ者アリ

○議長(鳩山和夫君) 直チニ二讀會ヲ開クト云フ動議ガ出マシタガ採決シマス  
〔異議ナシ異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(鳩山和夫君) 異議ガナケレバ直チニ二讀會ヲ開キマス

〔異議ナシ異議ナシ〕ト呼フ者アリ

祿高整理公債法案(深山聳岨君外二十四名提出) 第二讀會

○久保九兵衛君(七十一番) 讀會ヲ省略シテ直チニ確定セラレシコトヲ望ミマス

(「贊成々々」ノ聲起ル)

○議長(鳩山和夫君) 原案ニ御異議ガナケレバ直チニ三讀會ヲ開キマス

祿高整理公債法案(深山聳岨君外二十四名提出) 第三讀會

○議長(鳩山和夫君) 異議ガナイヤウデスカラ決ヲ採リマス、本案ヲ以テ確定議ト爲スコトニ同意ノ諸君ハ起立

起立者 多數

○議長(鳩山和夫君) 多數ト認メマス——日程第十四ニ移リマス

第十四 特赦復權ニ關スル建議案(小室重弘君 外一名提出)

(特別委員 長報告)

(小松三省君演壇ニ登ル)

○小松三省君(八十番) 特赦、復權ニ關スル建議案特別委員會ノ經過及審査ノ結果ヲ御報告シマス、此特別委員會ハ二度開カレマシテ、初會ニハ委員長及理事ノ互選ヲ致シマシタ、第二回ニ於テカラ此建議案ヲ多數ヲ以テ可決致シマシタ、其可決シタ理由ヲ簡略ニ委員長トシテカラ御報告ヲ致シマス、此特赦、復權ニ關スル建議案ト申シマスノハ、則チ彼ノ靜岡、名古屋ニ於ケル事犯ノ罪囚デゴザイマス、其目的ヲ國事ニシテカラ其行爲ヲ常事犯ニシタト云フ囚人デゴザイマス、是ニ向ッテ、カラ特赦ヲ致シ、其外加波山其他ニ於テカラアツタ事犯ノ者ニ向ッテハ、復權ヲ許サレシコトヲ望ムト云フ案デゴザイマス、ソモ此名古屋、靜岡等ノ事件ガ、我國未ダ立憲政治ノ行ハレヌ時分、憲法ノ發布ニナラヌ時分ノコトデゴザイマス、明治十七年以來ノゴトデゴザイマス、此名古屋、靜岡ノ事件ニ關係シタ者ハ、本來國ヲ愛スル志ノ厚イ者デアツテカラ、一ニ皇室ノ尊嚴ヲ大ニシ國民ノ福利ヲ増進シ、又此立憲ノ政ヲ立テントシテカラ、赤心盡力奔走ヲ致シタ者デアリマス、然ルニ不幸ニモ彼等ハ此際ニ於テカラ、立憲ノ政ヲ得ルニ正當ノ途ヲ能ワズシテカラ、遂ニ憤激ノ餘リ、若クハ客氣ニ逸ツタト云フ結果、常事犯ヲ犯シテカラ獄ニ下ツタ者デゴザイマス、其際ニ於テハ或ハ探偵ノ煽動トカ、裁判ノ不公平ト云フヤウナ種々ノ事情モゴザイマス、凡ソ今日ニ於テ此當時ノ司法官ガ如何ナルデアツタカト云フコトヲ推測スレバ、行政官ノ一片ノ手紙トカ訓示トカニ依ッテ、忽チ其判決ヲ左右シタト云フヤウナ事例ガ間マアル時代デアリマス、又自由民權ヲ唱ヘルヤツト云ヘバ、實ニ行政官、裁判官ノ如キハ蛇蝎視致シマシテ、殆ド野山デカラ猪ヤ熊ヲ狩ルヤウナ心持デアカラ、此人々ニ淫シダノデゴザイマス、從ッテ其時分ノ處置ト云フモノハ、真ニ慘酷、真ニ不公平ニ出デタコトガ多イデアリマス、免モ角モ斯ル時代ニ於テ、斯ル罪囚ノ出デタノハ實ニ慙然ニ堪ヘラレヌ次第デアリマス、依ッテカラ、ドウカ此悔悟ノ情モ現レテ居ル、謹慎ノ情モ現レテ居リ一意前非ヲ後悔シテ

居ルト云フコトハ、今日明ニ分ッテ居ル次第デアリマス、サウシテ司法大臣ガ特赦、復權ノコトヲ奏上スルノ權利ヲ、刑事訴訟法ニ依ッテ與ヘラレテ居ルモノデゴザイマスカラシテ、政府ハ宜シク是等憐ムベキ罪囚ノ情ヲ恕シ、其悔悟ノ心ヲ察シテ一日モ早ク特赦、復權ニナラシムコトヲ希望スルト云フ次第デゴザイマス、則チ司法大臣ヲ經テ此事ノ執奏ニナツテカラ一日モ早ク斯ル罪囚ノ青天白日ノ地ニ出デシコトヲ希望スルト云フ譯デゴザイマスカラ、ドウカ諸君ハ此事ニ就イテ御贊成アリタイモノト思ヒマス、尙ホ小室君ハ此事ニ就イテハ贊成ノ御意見モアルヤウデゴザイマスカラ、私ハ是デ壇ヲ降りマス

(沼田宇源太君演壇ニ登ル)

○沼田宇源太君(二百六十九番) 本員ハ此案ニ對シテ簡單ニ反對ノ意見ヲ述ベル積デアリマス、本案ノ精神ニ於キマシテハ、固ヨリ本員等モ贊成スル所デゴザイマシテ、本案ニ向ッテ反對ヲスルト云フコトハ、甚ダ不本意ノ事柄デアル、サリナガラ願ミテ見マスレバ、本案、事柄タルヤ、畏多クモ 天皇陛下ノ御大權ニ關スル事柄デアリマスカラ、已ムヲ得ズ本員ハ茲ニ反對ノ意見ヲ述ベナケレバナラヌコトデアアル、特赦復權ハ唯今申上ゲル迄モ待タナイガ、天皇陛下ノ御大權ニ屬スル所ノコトデアアツテ、即チ 天皇陛下ノ至高至大ノ御仁愛デアアルト云ハナケレバナラヌ、天皇陛下ノ御大恩ニ屬スルコトヲ以テ衆議院ガ建議シテ、衆議院カラ 天皇陛下ニ御注文ヲ申上ゲテ、サウシテ此特赦復權ニナツタト云フコトニナリマスレバ、此恩ノ歸スル所ハ何レノ處ニ歸スルデゴザイマセウ、私ノ恐ル、ノハ 至尊ニ屬スル所ノ至高至大ノ御仁愛ト云フモノヲ、此立法院ガ分ツト云フヤウナ嫌ニナリハシナイカト云フヤウナコトヲ私ハ恐ルノデアアル、ツレカラモウ一ツハ、此建議案ニ依ッテ見マスレバ斯ウ云フコトガアル、罪囚ト爲ッテ以來、謹恪役ニ服シ、既往ノ非ヲ悔悟シ、若クハ云々トアル、彼等ハ唯今如何ナル處ニ居ルデゴザイマセウカ、即チ罪囚ノ人々モアル、或ハ悔悟ノ念ヲ生ジ、至ッテ謹慎シテ居ルカノヤウニ本員モ信ズルデハゴザイマス、衆議院如何ニ神聖ナリト雖モ、罪囚ノ徒ガ果シテ謹慎ニナツタカ、果シテ悔悟シタカト云フコトヲ、如何ニシテ之ヲ保證スルコトガ出來得ルデゴザイマセウ、萬一特赦復權ニナツタ後ニ於キマシテ、此人々ノ中ニ未ダ悔悟セズ、未ダ謹慎ノ狀ヲ表セザルモノガアツタ場合ニハ、此案議院ハ何ヲ以テ謝スルデゴザイマセウ、モウ一ツハ此建議案ヲ當議會ニ於キマシテ之ヲ議決致シタト見マシタナラバ、若シ萬萬一ニモ當議會ノ議決シタモノヲ御裁可ニナラナカッタト云フ場合ガアツタナラバ、如何デゴザイマセウ、天下ノ人ハ如何ニ感シマセウ、衆議院ハ如何ニモ仁恩ナル仁愛ナル建議ヲ致シタケレドモ、不幸ニシテ之ヲ御裁可ニナラナカッタト云フコトニナリマスレバ、恩ハ衆議院ガ受クルデアリマセウ、天下ノ人衆議院ヲ德トスルコトハゴザイマセウガ、恐ラクハ御大權ニ屬スル事柄ニ對シテ、或ハ不滿ヲ抱ク者ガナイト云フコトハ保證スルコトハ出來ナ

イダラウト思フ、而シテ此特赦復権ノコトハ、今日法律上ドウナツテ居ルト申シマス、諸君ノ御承知ノ如ク、是ハ刑事訴訟法第六編第二章第三章ニ於テ規定シテアル所デ、即チ此第二章、第三章ニ就イテ詳ク其手續方法ヲ規定シテアル、成ル程司法大臣ハ此特赦復権ノコトヲ 天皇陛下ニ向ツテ奏上スルコトニナツテ居ルガ、其司法大臣ノ奏上スルコトニ至ルハ、如何ナル人カラ之ヲ願出シテ、サウシテ如何ナル書類ヲ添ヘテ、如何ナル方法ヲ以テ司法大臣ニ持ツテ往ツテ、ソレカラ司法大臣ガ之ヲ奏上スルコト云フコトニナツテ居ル、左様致シテ見マスルト、假ニ此案ヲ本院デ可決シテ見タ所ガ、是ガ刑事訴訟法ノ今日ノ現ニ行レテ居ル所ノ手續ニ依ツテ居ナイ以上ハ、司法大臣ト雖モ如何ニ之ヲ奏上スルコトハ出來ナイダラウト思フ、是ハ即チ今日ノ法律ノ上ノ手續ニサウナツテ居ルト思フ、或ハ其法律ハ惡ルイカモ知レナイガ、惡ルクテモ善クテモ、ソレハ現行ノ法律ニ定ツテ居ル、ソレデ此案ニ於テハ其精神ニ於テハ甚ダ嘉ニスベキコトデアアルガ、本員ハ已ムヲ得ズ茲ニ一言反對ノ意見ヲ述ベルモノデアリマス

(此時發言ヲ求ムル者多シ)

○議長(鳩山和夫君) 通告ノ順ガアリマスカラ——小室重弘君

○小室重弘君(二百九十五番) 長イコトデナイカラ此處デ申シマスガ、此案ガ初メ出マシタ時分ニ、守屋此助君ノ反對ガアリ、今又沼田君ノ反對ガアツタ譯デゴザイマスガ、若シ守屋、沼田等ノ諸君ニシテ、一片ノ法律ヨリ外ニ、イヤ、法律ノ片ツ端ヨリ外ニ、何事モ知ラナイ三百代言ノ徒タラシメバ、或ハサウ云フコトガアルカモ知ラヌ、併ナガラ此特赦復権ノコトタルヤ、抑々天下ノ志士仁人ト稱セラレタル人ガ、我國ニ於テ自由ノ基礎ヲ立テ、民權ヲ伸張シ立憲政體ヲ造リタイガタメニ、自分ノ財産ヲ擲ツテ、生命ノ危キヲ願ヒズ、其正義ノ志、愛國憂世ノ意氣ハ、刀鋸鼎鑊モ甘キコト飴ノ如シト云フ精神デアアル、併ナガラ諸君……其人達ガ當時實ニ政府ノ下ニアル所ノ一種ノ壓制暴虐ナル政治ガ行レタメニ、又其當時ノ裁判所ノ模様、又是マデノ人々ガ裁判所ニ於テ裁判セラレ、コトヲ吾々ガ記憶シテ居ルガ、實ニ其冤枉ヲ解クコトガ出來ズ、其屈辱ヲ雪クコトガ出來ナクテ、涙ヲ吞ソデ其罪ニ服シタ者モアルデゴザリマス、吾々ハ此人達ノ當時誤ツテ刑辟ニ觸レテ、而シテ今日マデ或ハ北海道ノ風雪ノ中ニ繋レテ苦役ニ服シテ居ルヲ見マズレバ、其事柄ハ裁判ノ結果ニ於テハ常事犯デアアルガ、明カニ是等ノ人ハ、彼ノ私慾ノタメニ惡ルイコトヲシタ犯罪人トハ異ニシテ居ルコトハ、諸君ハ前々ヨリ今日ニ現レタ問題デアナイ、此衆議院ニ每會現ハレタ問題デアアルカヲ、諸君ハ能ク御承知デアラウト思フ、私ハ法律手續ガドウデアルトカ、現行ノ法律ガドウデアアルカト云フコトハ第二ノ問題トシテ、諸君ニシテ一片ノ熱血アリ、一片ノ熱涙アラシメバ、此特赦復権ニ就イテ反對ガナカラウト思フ、血液ノ冷カナル、腦髓ノ冷メタイ、法律ノ片ツ端ヨリ知ラナイ、天下ノ志士仁人ノ心ヲ解セザルモノハ率ザ知ラズ、是ニ反對ヲナサル、ハ甚ダ遺憾

ニ感ズル所デゴザイマスルガ、尙ホ申シテ見ルト 天皇陛下ノ大權ニ立入ルモノデアルトカ云フヤウナ御論モ聽イタデゴザイマスガ、今沼田君自身モ言ハル、通、私共ハ司法大臣ガ此特赦復権ノ奏上ヲ爲スベキ權利ヲ明カニ法律ニ依ツテ與ヘラレテ居ルコトモ認メテ居ルモノデゴザイマス、既ニ其人ノ悔悟シテ居ルヤ否ヤト云フコトモ分ラヌト云フ議論モアリマシタケレドモ、私共ハ此獄中ニ在ル人ハ、誰ハ幾箇ノ賞標ヲ持ツテ居ル、誰ハハ謹慎ヲ現ハシテ居ルト云フコトハ知ツテ居ル、今此所ニ取調ベタモノハゴザリマセヌガ、ソレハ直グニ分ルノデアリマス、決シテ吾々ガ謹慎ノ狀ヲ表シテ居ルト云フコトハ想像カラ出タモノデアナイ、何卒サウ云フ冷ナ議論デナシニ、諸君ガ當時ノコトヲ能ク御考下スツテ、サウシテ此衆議院ノ中ニ尙ホ一片ノ正義アリ、一滴ノ熱血アツテ此案ヲ成立セシムルコトヲ希望スル譯デゴザイマス、何卒大多數ヲ以テ通過スルコトヲ諸君ニ望ム

(採決ト呼フ者アリ)

○議長(鳩山和夫君) 採決シマス、本案ヲ可トスル者ノ起立ヲ求メマス

起立者 多數

○議長(鳩山和夫君) 多數ト認メマス——チヨット此際御報告申スコトガゴザイマス

(田中書記官朗讀)

特別委員左ノ通指名セリ

作業會計法中改正法律案審査特別委員

今西幹一郎君 山田忠兵衛君

久保田右作君 依田道長君

紫藤寛治君 吉富簡一君

狩獵免許稅徵收ニ關スル法律案審査特別委員

福江角太郎君 稻葉市郎右衛門君

河北勳七君 大針徳兵衛君

小幡儼太郎君 坂本理一郎君

罹災救助基金法案審査特別委員

兵頭昌隆君 大竹貫一君

赤松新右衛門君 中村克昌君

廣住久道君 野口駿君

會計法中改正法律案審査特別委員

平田箴君 阿部興人君

小柳卯三郎君 守屋此助君

元田肇君 水島保太郎君

○議長(鳩山和夫君) 日程第十五ハ提出者カラ今日ノ日程ヨリ引去リタイト云フ申出ガアリマシタガ、御異議ハアリマセヌカ

(異議ナシト呼フ者アリ)

淺見與一右衛門君

伴直之助君

中野武營君

景山甚右衛門君

高橋小十郎君

岡精逸君

田中市兵衛君

石塚重平君

武市彰一君

厚地政敏君

櫻井義起君

江藤新作君

○議長(鳩山和夫君) 即チ延期セラレタモノト認メマス、日程第十六國學院補助ニ關スル建議案

第十六 國學院補助ニ關スル建議案

(左ノ建議案ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ茲ニ掲載ス)

國學院補助ニ關スル建議案

帝國議會ハ貴族衆議兩院共ニ第九回議會ニ於テ國學院ヲ補助スルノ建議ヲ爲セリ夫レ國學ヲ保存スルハ歷史上將文學上共ニ必要ニシテ駁々トシテ進歩セル今日ニ當リ缺クヘカラサルコト亦喋々ヲ談スシテ明ナリ然ルニ政府ハ今尙議會ノ建議ニ付採否ノ如何ヲ示サ、ルハ本院ノ最遺憾トスル所ナリ國學院ノ補助タルヤ固ヨリ年々些少ノ金額ニシテ以テ國庫ノ財政ヲ輕重スルニ足ラス故ニ本院ハ更ニ此ノ建議ヲ爲シ政府ノ速ニ採用シ豫算ヲ議會ニ提出セムコトヲ望ム

○小室重弘君(二百九十六番) 御注意ヲチヨットシテ置キマスガ、今日ハ是ダケハ日程ヲ了ヘタイモノデゴザイマスガ、定足數ニ缺ケルヤウナコトノナイヤウニ特ニ望ミマス

○議長(鳩山和夫君) マダ唯今ノ所デハ缺ケテ居リマセヌ、諸君成ルベク御辛抱ヲ願ヒマス

(江橋厚君演壇ニ登ル)

○江橋厚君(二十七番) 諸君、此國學院補助ニ關スル建議案ハ極ク簡單ナモノデゴザイマス、此案ハ第九議會ニ提出ヲ致シマシテ、諸君モ御案内ノ如ク大多數ヲ以テ可決致シタモノデゴザイマス、而シテ此國學院ニ對シテ補助ヲスルト云フコトニ就イテノ必要ハ、私ガ今此處デクダクシク嘸々喃々スル程ノ必要ハアルマイト存シマス、併ナガラ此國學院ニ對シテ第九議會ニ於テ補助スルト云フコトヲ認メマシタノハ、今日我國ノ國語、國文ト云フモノヲ大イニ發達ヲセシメ、益々隆盛ノ域ニ達セシムルト云フコトヲ努ムルノハ、又甚ダ國家ニ取ツテ必要デアラウト云フコトヲ認メラレタモノニ違ヒナイト存シマス、又此國學院ノ經費ノ不足ト云フモノヲ、今日マデ補助ツテ居ッタノハ如何ナルモノヲ以テ補足シテ置イタカト、申シマス、彼ノ諸君モ御案内ノ如ク恩賜金デアアル、或ハ有志金デアアルト云フモノヲ以テ、其不足ヲ補ツテ居リマシタケレドモ、恩賜金ノ年限ハ切レ、有志金ハ費消シ去ツテ、今日デハ此不足ヲ償フト云フモノハナイノデアアル、故ニ國庫ハ此不足ヲ補フト云フコトニハ、澤山ナ金ガ要ルノデハゴザイマセヌカラ、昨年第九議會ニ於テ決議ヲ致シタ通、政府ガ速ニ此案ヲ作ツテ本院ニ提出ヲスルト云フコトハ當リ前デアラウト思フ、政府モ衆議院ノ議決ヲ重シ、速ニ豫算ヲ編制サレテ當議會ニ此案ノ通過スルト云フコトヲ只管希望ニ堪ヘナイノデゴザイマス、諸君、幸ニ此案ノ多數ヲ以テ通過スルコトヲ希望ノ至ニ堪ヘヌノデアリマス

(贊成ト呼フ者アリ)

○小室重弘君(二百九十六番) 私ハ此案ニ贊成デゴザイマスガ、既ニ贊成ノ理由ハ今盡シテアリマスカラ、速ニ決フ……

○議長(鳩山和夫君) 採決シマス

○小西甚之助君(二百九十三番) 私ハ大體此案ニハ贊成ヲ致スモノデアツテ、既ニ署名致シテアルノデアアル、是ハ補助ノ併行均一ヲ保ツ上ヨリシテ、茲ニ贊成ヲ表シタコトデアアルガ、倍テ此建議ノ文辭ヲ讀ンテ見マスト、少シク全然同意ヲ表スルコトノ出來ナイモノガアルノデアアル、是ハ事文辭ニ係リ些少ナコトデアアルナレドモ、聊カ微意ノ存スルノハ外ノコトデアナイガ、此四行デアアル、此四行ニ「國學院ノ補助タルヤ固ヨリ年々些少ノ金額ニシテ以テ國庫ノ財政ヲ輕重スルニ足ラス」ト云フ數文字デアアル、即チ算ヘテ見レバ三十八字デアアルガ、此三十八字ハ除カナケレバナラヌト私ハ考ヘルノデアアル此事ハ唯約メテ言ツタナラバ、一万圓足ラズノ金額ノコトハ、何モ國庫ノ輕重ニ關係スルモノデアナイカラ、出シテモ宜シイデアナイカト云フヤウナコトニナルノデゴザイマセウ、然レドモ戰後經營即チ財政膨脹後ノ人民ノ負擔ノ多クナツテ居ルト云フ所ノ、此意思ヲ代表シテ居ル吾々議員ノ口ヨリシテ、此一万圓足ラズノ金デアアルカラ端シタ金デアアルト言フヤウナコトハ、ドウモ心ニ安ゼサル所ノモノガアルノデアアル、文辭ノコトデゴザリマシテ、誠ニ些細ナコトデゴザイマスカラ、此三十八文字ト云フモノヲ除イテ「故ニ本院ハ更ニ此ノ建議ヲ爲シ政府ノ速ニ採用シ豫算ヲ議會ニ提出セムコトヲ望ム」ト云フコトニ致サウト思フ、ドウカ御贊成ナラバ誠ニ満足ナ譯デゴザイマス

(贊成ト呼フ者アリ)

○工藤行幹君(百九十七番) 私ハ此案ニ反對デゴザイマスガ、簡單ニ述ベテ置キマス、此事柄ハ宜イカ知レヌケレドモ、今軍備擴張トカ國家多端トカ云フコトハ澤山アルノデアアル、然ルニ何ニモ彼ニモ國庫ノ補助、國庫ノ補助ト云フコトヲ何時マデモヤツテ居ルコトハ宜クナイ、依頼心バカリ多クナツテ宜クナイカラ、斯ノ如キモノハ廢スルト云フコトデアリマス

○議長(鳩山和夫君) 小西君ノ修正說ニハ定規ノ贊成ガゴザイマスカ

(アリマス)ト呼フ者アリ(贊成々々ノ聲起ル)

○議長(鳩山和夫君) 成規ノ贊成ガアルト認メマスカラ、修正說ハ成立シマス——採決シマス、修正案ニ就イテ先ヅ採決シマスガ、此「國學院」ト云フ所カラ「輕重スルニ足ラス」ト云フ所マデ、三十八文字ヲ削除スルト云フ修正說ニ同意ノ諸君ハ起立ヲ求メマス

起立者 多數

○議長(鳩山和夫君) 多數ト認メマス、唯今ノ修正ニ依ツテ削除サレタ文字ヲ除イテ、他ノ部分ニ就イテ決ヲ採リマス御異議アリマセヌカ

(異議ナシ)ト呼フ者アリ

○議長(鳩山和夫君) 即チ可決セラレタモノト認メマス、日程第十七、會計法中改正法律案——元田肇君

第十七 會計法中改正法律案(元田肇君提出) 第一讀會

(左ノ議案ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ茲ニ掲載ス)

明治二十二年法律第四號會計法第六條第一項ノ後ニ左ノ但書ヲ加フ  
但シ豫備費ハ款項ノ外ニ置クヘシ

(元田肇君演壇ニ登ル)

○元田肇君(百十二番) 簡單ニ申上ゲマスルガ、此會計法中改正法律案ハ、本員ガ數年來出シテ居ルノデゴザイマシテ、餘リ頑固ナヤウデゴザイマスレドモ、今一應諸君ノ御清聴ヲ煩シタイト考ヘテ居リマス、詰リ要ハ近年ハゴザイマセヌケレドモ、此會計法ト憲法トノ鈞合上カラ、剩餘金デアルトカ、何トカ云フモノヲ政府ガ隨意ニ使ヒ拂ヒシテ結果ガ、是ハ憲法ノ手續ニ合ッテル、合ッテナイト云フヤウナ議論ガ往々起リマスカラ、是ヲ今ニシテサウ云フコトノ起リサウナ不備ナ點ヲ改メタイト云フコトガ、本案改正ノ目的デゴザイマス、デ年々歳々ハ出シテ居ルカラ、理由ハ大抵御承知下サッテアルダラウト思ヒマスシ、又會計法中改正案ヲ提出ノ理由ト書イタノデ大抵盡キテ居ルノデアリマス、私ハ茲ニマダ色々案ガゴザイマスルカラ、簡單ニ諸君ニ請願シマスルコトハ、是マデハ往々ニシテ委員會ニモ往カズシテ、此案ガ消滅シ居ルコトガアリマスガ、本年ハ諸君ガ寛仁大度ヲ以テカラニ、責メテ委員會ニ附セラレテカラニ、直接ノ攻究ヲサセラル、ノ榮ヲ賜ハラシコトヲ切ニ祈リマス、委員會ニ於テ、政府委員ニ於テモ反對ナレバ反對ノ意見ガアリ、私モ虚心平氣ニ承リ、果シテ此案ガ其病ヲ醫スルコトガ出來ナケレバ、自分ハ撤回スル積デアリマス、政府委員モ出席セラル、デアラウシ、委員諸君モ十分ニ説明討究ヲシタ上デ、贊否ノ決ヲ取ラレ、豫ニ願ヒタイ、其時分ニ至ッテ飽マデモ自分ノ信ズルコトガ行レヌヤウナ傾デアラナラバ、撤回スルコトニ至ルカ、サウデナケレバ、本員ハ本員ノ信ズル所ヲ十分ニ辯明致シマスル積デアリマスカラ、外ニ案ガ澤山アリマスカラ、是デドウカ委員會ニ付セラレ、ダケノ信用ヲ私ニ賜ッテ委員ニ付託セラル、豫ニ希望致シマス

○吉本榮吉君(二百五十一番) 豫テ言フテ居ル如ク、定數ヲ缺ク恐ガアリマスカラ、議長指名九名ノ委員……

○議長(鳩山和夫君) 議長指名ノ委員ニ付託スルコトニ異議アリマセヌカ

(異議ナシ)ト呼フ者アリ

○議長(鳩山和夫君) 直チニ委員ヲ指名致シマス

會計法中改正法律案審査特別委員左ノ通り指名セリ

- 平田 箴君 阿部 興人君 厚地 政敏君
- 小柳卯三郎君 守屋 此助君 櫻井 義起君
- 元田 肇君 水島保太郎君 江藤 新作君

第十八 不正肥料販賣取締發布ノ請願 (請願委員 長報告)

第十九 庄内川改修ノ請願(特別報告第二號) (請願委員 長報告)

第二十 函館ニ市制ヲ施行スルノ請願 (特別報告第三號) (請願委員 長報告)

第二十一 廣島縣賀茂郡阿賀村ヲ同縣安藝郡ニ分合ノ請願(特別報告第四號) (請願委員 長報告)

第二十二 商法中會社合併ニ關スル法規制定ノ請願(特別報告第五號) (請願委員 長報告)

(小室重弘君演壇ニ登ル)

○小室重弘君(二百九十六番) 大分時開ガ後レテ居リマスカラ、細カイコトハ却テ御迷惑ダラウト思ヒマスデ、第十八ノ日程ヨリ二十二マデヲ一括シテ御報告致シマス、請願委員會ノ結果ヲ御報告致シマス、第十八ハ埼玉縣ノ農業家ノ多數ノ者ヨリ出シタ請願デゴザイマシテ、不正肥料販賣取締規則ヲ發布シテ吳レト云フ請願デアリマス、此請願ノ趣意ハ、近頃肥料ニ就キマシテ惡漢ガ——惡ルイ肥料ノ商人ガアツテ、種々ナ混ゼ物ヲ致シ、廢物ヲ拵ヘ、其物ノ一ツハ糠ノ肥料ヲ廢物デアアル、糠ノ中ニ鋸屑ヲ拵ヘ、又黃色イ土、或ハ白イ土ヤ何カヲ糠ノ如ク見セテヤル、ソレカラ次ノハ魚ノ糞糞ノ中ニ、矢張惡ルイ物ヲ入レマス、ソレハ鋸屑、或ハ赤砂若クハ海草ノ類、或ハ麥糠、粟糠、シブキト云フヤウナ木ノ皮ヲ糠トシタモノガアル、是等ハ現ニ請願者其他ノ紹介議員諸君ガ、其現品ヲ請願委員會ニ持ッテ來テ、私共親シク手ニ取ッテ之ヲ見マシタ、諸君ガ御參考ノタメニ御覽ニナルナラバ請願委員會ニ其現物ガゴザイカマスカラ——如何ニモ上手ニ能ク出來テ居ル、是等ノ物ヲ農家ガ欺カレテ——此奸商ニ欺カレテ、サウシテ使ッテ見レバ、却テ其田園ニ大害ヲ殘シテ、沃土ガ——土地ガ惡ルグナルト云フヤウナ譯デアリマス、因テ是等ノ肥料ノ奸商ヲ取締ル所ノ、ドウ云フ規則デモ取締ノ法ヲ設ケテ貫ヒタイト云フ請願デゴザイマス、即チ請願委員會ハ之ヲ院議ニ附スベキモノト認メテ、茲ニ報告致シマス、次ハ庄内川改修ノ請願、是ハ愛知縣春日井郡、其他ノ各郡町村長等ノ四郡百二十六箇町村ヨリ出マシタ請願デアリマスガ、此請願ハ昨年ノ第九議會ニモ既ニ報告シテ通過シテ居リマス請願デアリマス、大體ヲ言フト、庄内川ト云フ川ハ、岐阜縣ノ惠那郡ノ山中ヨリ流レ、サウシテ尾張國ニ這入ッテ、東春日井、西春日井、愛知、海東等ノ諸郡ヲ經テ海ニ注グ川デアリマス、此河ノ一種ノ性質トシテハ砂ガ年々歳々溜ッテ參ルノデ、段々川床ガ高クナツテ、サウシテ是ニ堤防ノ嵩置工事ヲシテ人力ト天然ト競争スルト云フヤウナ有様デ、今日マデ來ッテ居リマス、昨年秋ノ大洪水ノ時ニハ、此川ノ堤防ガ決潰シタタメニ、百二十六箇町村人民ガ非常ナ災害ヲ被ッタ譯デゴザイマス、此川ノタメニ害ヲ被ルコト、云フモノハ、殆ド此二十年間——過去ノ二十年間ニ五百萬圓カラノ損害ヲ被ッテ居ルト云フ譯デ、サウ云フ譯デゴザイマスカラ、愛知縣ノ縣會ハ、此事ニ就イテ

現ニ前年内務省ニ向ッテ、此川ヲドウジシテ治水策ヲ施シテ貫ヒタイト云フコトヲ内務省ニ建議ヲ致シテゴザイマス、又是等ノ各郡カラモ、孰モ郡會等ノ決議ヲ以テ建議ヲ致シ、或ハ請願ガシテアル譯デゴザイマス、貴族院ガ第三議會ノ時ニ始テ此請願ガ貴族院ニ可決セラレ、ソレカラ第五、第六、第八、第九ノ貴族院ニ於テ可決セラレテ居リマス、殊ニ第八議會デゴザイマシタカ、此請願ニ就イテハ、政府ノ回答ヲ求メマシタヤウナ譯デゴザイマスカラ、何卒昨秋ノ害ニ依ッテ非常ナ損害ヲ被ムッタ譯デアリマスカラ、何レトモ此川ノ治水策ヲ立テ、貫ヒタイト云フノデ、請願委員會モ至當ナモノト認メテ、是モ院議ニ付スルコトニ致シマシタ、其次第八函館ニ市制ヲ施行スルノ請願デアリマス、是ハ函館區ノ人民ヨリ、數百人ヨリ提出シタ請願デゴザイマスガ、其要ヲ言ヘバ今日函館ニ行ッテアル所ノ制度ハ、自カラ内地ノ自治制ト違ッテ、即チ明治十二年ニ定メマシタ此舊法デアアル所ノ區制ト云フモノガ行ッテアル譯デアリマス、併ナガ今日函館ノ發達ヲ見レバ、明治十一年頃ニアッテハ、人口ガ僅ニ三万人ニ過ギナカッタモノガ、殆ド今日ハ一倍シテ七万以上ニモナッテ居ル、又目下巨額ナ市債ヲ投ジテ、此築港等ヲ致シ、或ハ又海面ノ埋立ヤ道路ノ改修、若クハ水道下水工事ト云フヤウナモノガ、著々市ノ組織トシテ發達シテ往ク譯デアッテ、餘程此舊制度ヲ以テ支配サレテハ、函館市ヲ發達サセル所以デナイカラ、此函館ノ市ニ向ッテ區制ヲ廢シテ、内地ト同ジク市制ヲ布イテ貫ヒタイト云フ請願デゴザイマス、是モ至當ナル請願トシテ院議ニ付スルコトニ委員會ハ決定致シマシタ、其次ニ第二十一ハ紹介者等カラ御相談ゴザイマシテ、暫ク延期ヲ致スコトニシテゴザイマスカラ、今日ノ日程ヨリ削ラレシコトヲ希望スルノデアリマス、仕舞ノ第二十二ハ商法中會社合併ニ關スル法規制定ノ請願、是ハ全國ノ各地ノ商業會議所頭取カラ此院ニ出シタモノデアリマス、其要ヲ言ヒマスト、今日行レテ居ル商法中會社ノ合併ニ關スル規定ト云フモノガナイ、ソレデアアルカヲ或會社ガ——甲ノ會社ガ乙ノ會社ニ合併シヤウト云フ時ニハ、一方ノ會社ハ解散ノ手續ヲ行ハナケレバナラヌ、サウシテ又一方ノ會社ハ増資ヲスルト云フヤウナ手續ヲ行ッテ往カナケレバナラヌ、サウナルト即チ其會社ノ解散ニ就イテハ、精算ヤ色々ナ商法ノ百二十條ノ手續ヲ總テ行ッテ往カナケレバナラヌ、ソレデモ宜イケレドモ、例ヘバ運輸業デアアルトカ、鐵道業デアアルトカ、海運業デアアルトカ云フヤウナモノニナルト、サウ云フ手續ヲ行ッテ往クガタメニ、事業ガ中斷シタリ妨グラレタリスル譯デアアル、既ニ銀行ニハ銀行合併法ト云フモノガ交付サレテ居テ、銀行ノ手續ハ甚ダ宜イケレドモ、普通ノ商法ノ會社ニ於テ此事ノナイノハ、實ニ商法ノ不備トスル所デアアルニ依ッテ、之ヲ合併ノ法ヲ設定サレシコトヲ希望スルト云フ請願デゴザイマス、是モ亦院議ニ付スベキモノト決定シタ譯デゴザイマス、極ク其要ヲ述ベテ置キマス

○議長(鳩山和夫君) 第二十一ヲ本日ノ日程カラ除クコトニ就イテハ、異議ハゴザイマセヌカ

〔異議ナシ異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(鳩山和夫君) 然ラバ除キマス

○福田久松君(二百五十番) 其十八ノ日程ハ私ガ紹介ヲ致シマシタデゴザイマス、ソレニ就イテ此議席カラ極ク簡單ニ少シ自分ノ意見ヲ申上ゲタイノデアリマス、御披レデゴザイマセウカラ長イコトハ申シマセヌガ、極ク簡單ニ申上ゲマスルガ、此肥料ト申スト、重ニ糠ト締粕デゴザイマスガ、近頃此不正ナ雜物ヲ混ゼテ販賣スルコト云フコトガ非常ニ流行ルノデゴザイマス、昔ハ糠ニモ成ル程麥糠デアアルトカ、粟ノ糠デアアルトカ云フモノハ混ゼ來ッタノデアリマス、近頃ハソノ物ハトント混ゼヌノデ、重モニ砂、木皮、木屑ト云フ様ナ物デアリマス、ソレデ唯申上ゲテ置キタイト申スノハ、別デハゴザイマセヌガ、此不正物ノ値段ト、ソレカラ主務省ノ意向ト云フコトニ就イテ、私ハ希望ヲ申ダタイ、ソレデ通常糠ト云フモノハ、一圓二十一貫目アッテ、其枳數ハ七斗アル、ソレデ是ハ手搗キ糠ト云フモノデ、ソレカラ水車、火車ト云フヤウナモノデ、砂ヲ混ゼテ機械デ搗クノハ、一圓二十四貫目デ、其枳數ハ六斗五升デアアル、是ニ混ゼル不正物ハ、木ノ皮屑或ハ砂デゴザイマスガ、木ノ皮ヲ混ゼルモノハ一圓ニ就イテ三十貫目、枳數ハ四石デアリマス、ソレカラ砂ト云フモノハ一圓ニ五十貫目アッテ、此枳數ハ一石二斗デアアル、斯ウ云フモノガ今專賣商法人ガ出來テ居ッテ、ソレデ糠屋ヘ行ッテ之ヘ混ゼテ肥料ヲ拵ヘルト云フ今日ノ有様デゴザイマス、委イコトハ申シマセヌガ、ソレヲ一應御聽置ヲ願ヒマス、ソレカラ此主務省ニ問合セマスルト、主務省モ此事ハ非常ニ感シテ灰ニ開ク所デアハ、法案ガ二ツ脱稿シテ居ルト云フコトデアアル、精密ナ取締法案ト、モウ一ツハ勅令デ暫時取締ヲシテ見ヤウカ、若クハ暫時警察令デ取締ヲ見ヤウカ、此二ツノ案ガ出來テ居ルト云フコトヲ灰ニ開イテ居ル、何故之ヲ實行シナイカト云フト、農商務省デハ是非此法律ヲ立派ナ法律トシテ、立派ナ取締ヲシテ見タイト云フ主務省ノ意見デアアルト承ッテ居リマス、何故ソレデアハ其法律ノ出來テ居ルモノヲ、今此議會ニ提出セヌカト云フコトヲ灰ニ開イテ見マスルト、其法律ヲ實施スルニハ、即チ今日亞米利加杯デ實施シテ居ル方法デゴザイマスガ、技師ガ少ナイ、技師ガ少クテ、此目下ノ急ニ迫ッテ居ルケレドモ、議案モ出來テ居ルケレドモ、此法律案ヲ出スコトガ出來ナイト云フコトデアアルサウデゴザイマス、ドウカ是ニ就イテハ技師ガナイノナラバ、仕様ガナイカラ、目下ノ焦眉ヲ救フガタメニハ、勅令デモ宜シ、警察令デモ宜イカラ、其技師ノ出來ルマデハ、問ニ合セテ取締法ヲ出シテ貫ヒタイト云フ私ノ意見、又私共ノ地方杯ノ意見デアリマス、此事ハ當局者ニモ速記ヲ見テ貫ッテ技師ノ出來ルマデハ、不十分ノモノデモ宜イカラ、假ノ取締法デモ宜イカラ出シテ貫ヒタイト云フコトヲ一言殊更ニ申シテ置キマス

○田中島雄君(二百九番) 時間モ切迫シテ居リマスルカラ長クハ申シマセガ、私ハ日程十八ノ不正肥料販賣取締法發布ノ請願ニ就イテ、之ヲ當議會デ

不正肥料販賣取締法發布ノ請願 庄内川改修ノ請願 函館ニ市制ヲ施行スルノ請願 廣島縣賀茂郡阿賀村ヲ同縣安藝郡ニ分合シテ請願 函法中會社合併ニ關スル法規制定ノ請願

衆議院議事速記録第十二號正誤

頁	段	行	誤	正
一二九	下	三一	二十八名	二十九名
一三二	上	一二	彼ノ	他ノ
頁	段	行	誤	正
一三二	上	一四	公賣	贖買
一四〇	上	五	百二十二万	百貳拾萬

議決スルノハ反對デアリマス、實ハ請願委員會デモ十分御調査ノ上デ、此處ヘ御出シニナルモノハ成ルベク賛成シヤウトハ思ツテ居リマスガ、此事杯ニ就キマシテハ、ドウモ私ハ贊成ガ出來マセヌ、唯今委員長ノ報告竝ニ紹介議員某氏ヨリシテ、色々御辯明モアリマシテ、私ニ於テハ決シテ其不正ナコトヲシテ宜イト云フ譯デハナイ、不正ナコトハ是非取締リタイ、併ナガラ一般法律ヲ以テ非常ナル所ノ不正ヲスレバ、取締法ト云フモノガアル、モウ一步ヲ轉ジマシテ考ヘマスト、云フト效用ノナイ肥料ヲ賣ル者ガアツテモ、全ク效用ガナケレバソレヲ買フ者ガナイ、ソレヲ買フト云フノハ、矢張其買フ方ガ不注意デアリマス、詰リ是ハ商賣上ノコトデゴザイマスカラ、成ルタケ善良ナモノヲ拵ヘテ賣ラウト云ツテスルガ正當ノ商人、其正當ノ商人ヲ、正當ナモノガ相手ニシサヘスレバ差支ナイ、萬一良クナイコトガアルカラ、取締ヲ付ケヤウト云フト、試ニ酒屋デ酒ヲ賣リマスニ、必シモ水ヲ混ゼル、或ハ今糠ニ、締粕ニ不正ナモノガアルト言ヒマスガ、ソレハ全ク何程ガ不正ナモノガアルデゴザイマセウガ、最モ肥料ニ重大ナル所ノ北海道ノ餅坏ハ、必シモ何程カ砂ヲ混ゼル、北海道デ荷造リスルトキニ問屋デ混ゼル、又東京ニ來テ問屋デ混ゼル、其混ゼル所ノ程度ニ於テ、ナカク是ガ取締法ヲ立ッテ區分スルト云フノハ容易ナ譯デハナイ、ダカラ私ノ考ヘル所ハ、斯ウ云フコトハ、決シテ此法律ヲ以テ、議會デ以テ取締法ナンドヲ作ルヤウナ重大ナコトデナクテ、其地方限リ其營業者ニ於テソレノ注意ヲシテ、取締ノコトヲシサヘスレバ十分届クモノト思ヒマス、是ハ反對シテ置キマス

○議長(鳩山和夫君) 採決致シマス、日程第十八ニ就イテ先ヅ採決致シマス、採擇スベシト云フコトニ同意ノ諸君ノ起立ヲ求メマス

起立者 多數

○議長(鳩山和夫君) 多數ト認メマス、第十九、庄内川改修ノ請願、是モ採擇スベシト云フコトニ同意ノ諸君ノ起立ヲ求メマス

起立者 多數

○議長(鳩山和夫君) 多數ト認メマス、日程第二十、函館ニ市制ヲ施行スルノ請願——採擇スベシト云フコトニ同意ノ諸君ノ起立ヲ求メマス

起立者 多數

○議長(鳩山和夫君) 多數ト認メマス、二十一ハ延期ニナツテ居リマスカラ、二十二ニ就イテ採決致シマス、是モ採擇スベシト云フコトニ同意ノ諸君ノ起立ヲ求メマス

起立者 多數

○議長(鳩山和夫君) 多數ト認メマス、明日ハ議案ノ都合ニ依ツテ休會致シマシテ、明後日開會スルコトニナリマス、日程ハ追テ書面ヲ以テ御通知致シマス——散會

午後五時三分散會